

○ 施工パッケージ型積算方式の試行について（平成 28 年 3 月 29 日 27 農振第 2234 号農村振興局整備部長通知別添）一部改正新旧対照表

(下線部は改正部分)

改 正 後	現 行
<h2 style="margin: 0;">1. 土 工</h2> <p>① [略]</p> <p>② 土工</p> <p>1. 適用範囲 本資料は、施工パッケージによる土工に適用する。</p> <p>1-1 適用できる範囲</p> <p>1-1-1 掘削 (1)～(3) [略] (4) 破砕片除去を伴う際は、掘削面と機械基面の高低差が5mまでの場合 <u>破砕片除去：大型ブレーカ掘削工法の掘削補助作業であり、掘削箇所の破砕片の取除き、掘削作業面（機械基面）の整地及び浮石除去等の総称</u> (5) 軟岩、硬岩の床掘りの場合 <u>下記条件において掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合</u> 軟岩の場合：施工数量が5,000m³未満、5,000m³以上7,000m³未満かつ平均施工幅員20m未満の場合 硬岩の場合：火薬を使用しない場合</p> <p>1-1-2～1-1-8 [略]</p> <p>1-1-9 土材料 (1) 道路土工、河川土工等における土材料（現場渡し単価又は土場渡し単価）を購入する場合</p> <p>1-1-10 残土等処分 (1) 残土運搬された土砂等の残土の処分場での処分 (2) 泥水運搬された汚泥、泥水等の受入れ地での処分</p> <p>1-2 [略]</p> <p>1-3 適用できない範囲（別途考慮するもの）</p> <p>1-3-1 [略]</p> <p>1-3-2 転石破砕 (1) 道路、河川工事等の岩掘削に伴う転石破砕</p> <p>2. 施工概要</p> <p>2-1 施工フロー</p> <p>2-1-1 「掘削」、「押土（ルーズ）」、「積込（ルーズ）」、「土砂等運搬」、「人力積込」</p> <p>(注) [略]</p> <p>2-1-2・2-1-3 [略]</p> <p>2-2 土の流れ概念図及び対応施工パッケージ (1) 水路土工、道路土工、河川土工等</p> <p>[略]</p>	<h2 style="margin: 0;">1. 土 工</h2> <p>① [略]</p> <p>② 土工</p> <p>1. 適用範囲 本資料は、施工パッケージによる土工に適用する。</p> <p>1-1 適用できる範囲</p> <p>1-1-1 掘削 (1)～(3) [略] (4) 破砕片除去を伴う際は、掘削面と機械基面の高低差が5mまでの場合 [新設]</p> <p>(5) 軟岩、硬岩の床掘りの場合（軟岩の場合、<u>施工数量が5,000m³未満</u>） [新設]</p> <p>1-1-2～1-1-8 [略] [新設]</p> <p>1-1-9 [新設]</p> <p>1-2 [略]</p> <p>1-3 適用できない範囲（別途考慮するもの）</p> <p>1-3-1 [略] [新設]</p> <p>2. 施工概要</p> <p>2-1 施工フロー</p> <p>2-1-1 「掘削」、「押土（ルーズ）」、「積込（ルーズ）」、「土砂等運搬」、「人力積込」</p> <p>(注) [略]</p> <p>2-1-2・2-1-3 [略]</p> <p>2-2 土の流れ概念図及び対応施工パッケージ (1) 水路土工、道路土工、河川土工等</p> <p>[略]</p>

注1 掘削に含まれる自工区内の運搬について（図中①、②）

- (1) [略]
- (2) 土質が軟岩又は硬岩の場合

・掘削において、以下の条件を選択した場合、30m以内の工区内運搬を含む。

- 「軟岩」：施工数量「7,000m³以上」を選択した場合
施工数量「5,000m³以上7,000m³未満」かつ平均施工幅員「20m以上」を選択した場合
集積押土「有り」を選択した場合
- 「硬岩」：施工方法「オープンカット」かつ火薬使用「可」を選択した場合
集積押土「有り」を選択した場合

2～3 [略]

4 盛土・埋戻に伴う土砂等の投入は、3～6積込(ℓ-ス)を適用する。

(参考) ダンプトラックによる土砂等運搬時に積込(ℓ-ス)の計上が必要な掘削の積算条件

掘削										積込 (ℓ-ス)
積算条件										
土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	平均 施工 幅員	火薬 使用	破砕片 除去の 有無	集積押土 の有無	
土砂	オープンカット	—	有り	—	※1	二	—	—	—	要
		—	無し	※1	※1	二	—	—	—	不要
	片切掘削	—	—	—	—	二	—	—	—	要
	現場制約有り	—	—	—	—	二	—	—	—	不要※2
	水中掘削	—	—	—	—	二	—	—	—	不要
	上記以外(小規模)	—	—	—	※1	二	—	—	—	不要
岩塊・玉石	オープンカット	—	有り	—	※1	二	—	—	—	要
		—	無し	※1	※1	二	—	—	—	不要
	水中掘削	—	—	—	—	二	—	—	—	不要
	現場制約有り	—	—	—	—	二	—	—	—	不要※2
軟岩	※1	—	—	—	※1	※1	—	※1	※1	要
硬岩	※1	—	—	—	—	二	※1	※1	※1	要

(注) 1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 掘削

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 掘削 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質	施工方法	押土の有無	障害の有無	施工数量	平均施工幅員	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無
----	------	-------	-------	------	--------	------	----------	---------

注1 掘削に含まれる自工区内の運搬について（図中①、②）

- (1) [略]
- (2) 土質が軟岩又は硬岩の場合

・掘削において、以下の条件を選択した場合、30m以内の工区内運搬を含む。

- 「軟岩」で施工数量「5,000m³以上」又は集積押土「有り」を選択した場合
[新設]
[新設]
- 「硬岩」で火薬使用「可」又は集積押土「有り」を選択した場合

2～3 [略]

4 盛土・埋戻に伴う土砂等の投入は、3～6積込(ℓ-ス)を適用する。

(参考) ダンプトラックによる土砂等運搬時に積込(ℓ-ス)の計上が必要な掘削の積算条件

掘削										積込 (ℓ-ス)
積算条件										
土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	[新設]	火薬 使用	破砕片 除去の 有無	集積押土 の有無	
土砂	オープンカット	—	有り	—	※1	[新設]	—	—	—	要
		—	無し	※1	※1	[新設]	—	—	—	不要
	片切掘削	—	—	—	—	[新設]	—	—	—	要
	現場制約有り	—	—	—	—	[新設]	—	—	—	不要※2
	水中掘削	—	—	—	—	[新設]	—	—	—	不要
	上記以外(小規模)	—	—	—	※1	[新設]	—	—	—	不要
岩塊・玉石	オープンカット	—	有り	—	※1	[新設]	—	—	—	要
		—	無し	※1	※1	[新設]	—	—	—	不要
	水中掘削	—	—	—	—	[新設]	—	—	—	不要
	現場制約有り	—	—	—	—	[新設]	—	—	—	不要※2
軟岩	※1	—	—	—	※1	[新設]	—	※1	※1	要
硬岩	※1	—	—	—	—	[新設]	※1	※1	※1	要

(注) 1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 掘削

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 掘削 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質	施工方法	押土の有無	障害の有無	施工数量	[新設]	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無
----	------	-------	-------	------	------	------	----------	---------

土砂	オープンカット	有り	-	普通土 30,000 m ³ 未満又は湿地軟弱	二	-	-	-	
				普通土 30,000 m ³ 以上	二	-	-	-	
		無し	無し	-	5,000m ³ 未満	二	-	-	-
					5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満	二	-	-	-
					10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	二	-	-	-
					50,000m ³ 以上	二	-	-	-
			有り	-	5,000m ³ 未満	二	-	-	-
					5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満	二	-	-	-
	無し	-	10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	二	-	-	-		
			50,000m ³ 以上	二	-	-	-		
	片切掘削	-	-	-	二	-	-	-	
	水中掘削	-	-	-	二	-	-	-	
	現場制約有り	-	-	-	二	-	-	-	
	上記以外 (小規模)	-	-	標準(※注1)	二	-	-	-	
標準以外 (※注2)				二	-	-	-		
岩塊・玉石	オープンカット	有り	-	普通土 30,000 m ³ 未満又は湿地軟弱	二	-	-	-	
				普通土 30,000 m ³ 以上	二	-	-	-	
		無し	無し	-	5,000m ³ 未満	二	-	-	-
					5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満	二	-	-	-
					10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	二	-	-	-
					50,000m ³ 以上	二	-	-	-
			有り	-	5,000m ³ 未満	二	-	-	-
					5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満	二	-	-	-
	無し	-	10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	二	-	-	-		
			50,000m ³ 以上	二	-	-	-		
	水中掘削	-	-	-	二	-	-	-	
	現場制約有り	-	-	-	二	-	-	-	

土質	施工方法	押土の有無	障害の有無	施工数量	平均施工幅員	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無
軟岩	オープンカット	-	無し	1,000m ³ 未満	二	-	無し	無し

土砂	オープンカット	有り	-	普通土 30,000 m ³ 未満又は湿地軟弱	[新設]	-	-	-	
				普通土 30,000 m ³ 以上	[新設]	-	-	-	
		無し	無し	-	5,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
					5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
					10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
					50,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-
			有り	-	5,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
					5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
	無し	-	10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-		
			50,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-		
	片切掘削	-	-	-	[新設]	-	-	-	
	水中掘削	-	-	-	[新設]	-	-	-	
	現場制約有り	-	-	-	[新設]	-	-	-	
	上記以外 (小規模)	-	-	標準(※注1)	[新設]	-	-	-	
標準以外 (※注2)				[新設]	-	-	-		
岩塊・玉石	オープンカット	有り	-	普通土 30,000 m ³ 未満又は湿地軟弱	[新設]	-	-	-	
				普通土 30,000 m ³ 以上	[新設]	-	-	-	
		無し	無し	-	5,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
					5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
					10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
					50,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-
			有り	-	5,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
					5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-
	無し	-	10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-		
			50,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-		
	水中掘削	-	-	-	[新設]	-	-	-	
	現場制約有り	-	-	-	[新設]	-	-	-	

土質	施工方法	押土の有無	障害の有無	施工数量	[新設]	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無
軟岩	オープンカット	-	無し	1,000m ³ 未満	[新設]	-	無し	無し

							有り <u>(5,000m³未満)</u>	有り <u>(5,000m³以上)</u>					
							有り (50,000m³未満)	無し					
							有り (50,000m³以上)	無し					
							1,000m³以上 <u>3,000m³未満</u>	<u>二</u>	-	無し	無し		
											有り <u>(5,000m³未満)</u>		
											有り <u>(5,000m³以上)</u>		
											有り (50,000m³未満)	無し	
											有り (50,000m³以上)	無し	
							<u>3,000m³以上</u> <u>5,000m³未満</u>	<u>二</u>	<u>二</u>	無し	無し		
											有り <u>(5,000m³未満)</u>		
											有り <u>(5,000m³以上)</u>		
											有り <u>(50,000m³未満)</u>	無し	
											有り <u>(50,000m³以上)</u>	無し	
							<u>5,000m³以上</u> <u>7,000m³未満</u>	<u>20m</u> <u>未満</u>	<u>二</u>	無し	無し		
											有り <u>(5,000m³未満)</u>		
											有り <u>(5,000m³以上)</u>		
								<u>20m</u> <u>以上</u>	<u>二</u>	-	-	無し	
												有り <u>(50,000m³未満)</u>	無し
												有り <u>(50,000m³以上)</u>	無し
							<u>7,000m³以上</u>	<u>二</u>	-	-	-		
有り	<u>二</u>	<u>二</u>	-	無し									
				有り <u>(5,000m³未満)</u>									
				有り <u>(5,000m³以上)</u>									
				有り (50,000m³未満)	無し								
				有り (50,000m³以上)	無し								
片切掘削	-	-	-	<u>二</u>	-	無し	無し						

								有り					
								[新設]					
								有り (50,000m³未満)	無し				
								有り (50,000m³以上)	無し				
								1,000m³以上 5,000m³未満	<u>[新設]</u>	-	無し	無し	
												有り	
												[新設]	
												有り (50,000m³未満)	無し
												有り (50,000m³以上)	無し
								<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>	無し	[新設]	
												[新設]	
												[新設]	
												[新設]	[新設]
												[新設]	[新設]
								5,000m³以上	-	-	-	[新設]	
												[新設]	
												[新設]	
									<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>	<u>[新設]</u>	-	[新設]
													[新設]
													[新設]
有り	<u>5,000m³未満</u>	<u>[新設]</u>	-	無し									
				有り									
				[新設]									
				有り (50,000m³未満)	無し								
				有り (50,000m³以上)	無し								
片切掘削	-	-	-	<u>[新設]</u>	-	無し	無し						

								有り (5,000m ³ 未満)			
								有り (5,000m ³ 以上)			
							有り (50,000m ³ 未満)	無し			
							有り (50,000m ³ 以上)	無し			
硬岩	オープンカット	-	無し	-	二	不可	無し	無し			
								有り (5,000m ³ 未満)	無し		
								有り (5,000m ³ 以上)	無し		
								無し	有り (5,000m ³ 未満)		
								有り (5,000m ³ 以上)	無し		
								可	-	-	
	片切掘削	-	-	有り	-	二	不可	無し	有り (5,000m ³ 未満)		
									有り (5,000m ³ 以上)	無し	
									無し	有り (5,000m ³ 未満)	
									有り (5,000m ³ 以上)	無し	
									可	無し	有り (5,000m ³ 未満)
									有り (5,000m ³ 以上)	無し	

(注) 1. ~3. [略]

4. 押土の有無

①有り：土砂、岩塊・玉石の場合は、60mまでの運搬を含む。

								有り			
								[新設]			
							有り (50,000m ³ 未満)	無し			
							有り (50,000m ³ 以上)	無し			
硬岩	オープンカット	-	無し	-	[新設]	不可	無し	無し			
								有り (5,000m ³ 未満)	無し		
								有り (5,000m ³ 以上)	無し		
								無し	有り		
								有り (5,000m ³ 以上)	[新設]		
								可	-	-	
	片切掘削	-	-	有り	-	[新設]	不可	無し	有り (5,000m ³ 未満)		
									有り (5,000m ³ 以上)	無し	
									無し	有り	
									有り (5,000m ³ 以上)	[新設]	
									可	無し	有り (5,000m ³ 未満)
									有り (5,000m ³ 以上)	無し	

(注) 1. ~3. [略]

4. 押土の有無

①有り：土砂、岩塊・玉石の場合は、60mまでの運搬を含む。ただし、軟岩のオープンカットかつ掘削土量5,000m³以上を選択した場合及び硬岩のオープンカットで火薬使用「可」を選択した場合、30mまでの押土を含む。

5. 障害の有無

土質：土砂、岩塊・玉石の場合
[略]

土質：軟岩の場合

①無し：掘削量が「5,000m³未満」、5,000m³以上7,000m³未満かつ平均施工幅員20m未満で掘削箇所に大型ブレーカが入り作業できる場合、もしくは掘削量が「5,000m³以上7,000m³未満かつ平均施工幅員20m以上、7,000m³以上」の場合

②有り：掘削量が5,000m³未満、5,000m³以上7,000m³未満かつ平均施工幅員20m未満で掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合

土質：硬岩の場合
[略]

6. 施工数量、破砕片除去数量

① [略]

表 3. 2 1工事当りの取扱い数量について

名称	条件区分					施工数量、破砕片除去数量、集積押土の数量区分						
	土質	施工方法	押土	破砕片除去	集積押土	A	B	C	D	E		
掘削	土砂	オープンカット	有り	—	—	○						
			無し	—	—		○	△				
		片切掘削	—	—	—						△	
	岩塊・玉石	オープンカット	有り	—	—	○						
			無し	—	—		○	△				
	軟岩	オープンカット	—	有り	無し	無し					●	
				無し	有り	有り						◎
		片切掘削		有り	無し	無し						●
				無し	有り	有り						
	硬岩	オープンカット	—	有り	無し	無し					●	
				無し	有り	有り						◎
		片切掘削		有り	無し	無し						●
無し				有り	有り							◎
掘削 (ICT)	土砂	オープンカット	二	二	二					○		
		片切掘削		二	二							
	岩塊・玉石	オープンカット									○	
積込 (ルーズ)										○		

1) ○：施工数量，●：破砕片除去数量，◎：集積押土数量，△：同一の施工箇所においてICT建機と通常建機を組合せて施工する場合で、通常建機による施工分の施工数量。

5. 障害の有無

土質：土砂、岩塊・玉石の場合
[略]

土質：軟岩の場合

①無し：掘削量が5,000m³未満で掘削箇所に大型ブレーカが入り作業できる場合、もしくは掘削量が5,000m³以上の場合。

②有り：掘削量が5,000m³未満で掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合。

土質：硬岩の場合
[略]

6. 施工数量、破砕片除去数量

① [略]

表 3. 2 1工事当りの取扱い数量について

名称	条件区分					施工数量、破砕片除去数量の数量区分						
	土質	施工方法	押土	破砕片除去	集積押土	A	B	C	D	[新設]		
掘削	土砂	オープンカット	有り	—	—	○					[新設]	
			無し	—	—		○	△			[新設]	
		片切掘削	—	—	—						△ [新設]	
	岩塊・玉石	オープンカット	有り	—	—	○					[新設]	
			無し	—	—		○	△			[新設]	
	軟岩	オープンカット	—	有り	無し	無し					● [新設]	
				無し	有り	有り						[新設]
		片切掘削		有り	無し	無し						● [新設]
				無し	有り	有り						
	硬岩	オープンカット	—	有り	無し	無し					● [新設]	
				無し	有り	有り						[新設]
		片切掘削		有り	無し	無し						● [新設]
無し				有り	有り							[新設]
[新設]	[新設]	[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
				[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
	[新設]		[新設]		[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	
積込 (ルーズ)										○		

※1. ○：施工数量，●：破砕片除去数量，△：同一の施工箇所においてICT建機と通常建機を組合せて施工する場合で、通常建機による施工分の施工数量。

2) 数量区分の規格は、以下のとおりとする。この区分で1工事当りの取扱い数量を判断する。なお、各区分の取扱い数量は重複して合計しないこと。(例えば、掘削[土砂、オープンカット、押土無]において、同一施工箇所でのICT建機との組合せによる通常建機施工の場合は、数量区分C(上表:△)として計上し、数量区分Bには含まない)

A: ①30,000m³未満, ②30,000m³以上

B: ①5,000m³未満, ②5,000m³以上 10,000m³未満, ③10,000m³以上 50,000m³未満, ④50,000m³以上

C: ①5,000m³未満, ②5,000m³以上 10,000m³未満, ③10,000m³以上 50,000m³未満, ④50,000m³以上

D: ①50,000m³未満, ②50,000m³以上

E: ①5,000m³未満, ②5,000m³以上

[削る]

[削る]

3) 軟岩及び硬岩の掘削、床掘りは、土質及び作業内容ごとの「施工数量」で判断する。

4) 掘削(ICT)は、同一の施工箇所において3D-MG又はMCバックホウ(以下、「ICT建機」という。)と通常建機(ICT建機を使用しない通常機種バックホウ)を組合せて施工する場合、両者を合計した掘削土量をその箇所の施工数量とする。

5) 施工方法「上記以外(小規模)」の施工数量における「1箇所」とは、目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。

6) 湿地軟弱土での作業の施工数量は、1工事当りの取扱い土量に含まない。

※2. 数量区分の規格は、以下のとおりとする。この区分で1工事当りの取扱い数量を判断する。なお、各区分の取扱い数量は重複して合計しないこと。(例えば、掘削[土砂、オープンカット、押土無]において、同一施工箇所でのICT建機との組合せによる通常建機施工の場合は、数量区分C(上表:△)として計上し、数量区分Bには含まない)

A: ①30,000m³未満, ②30,000m³以上

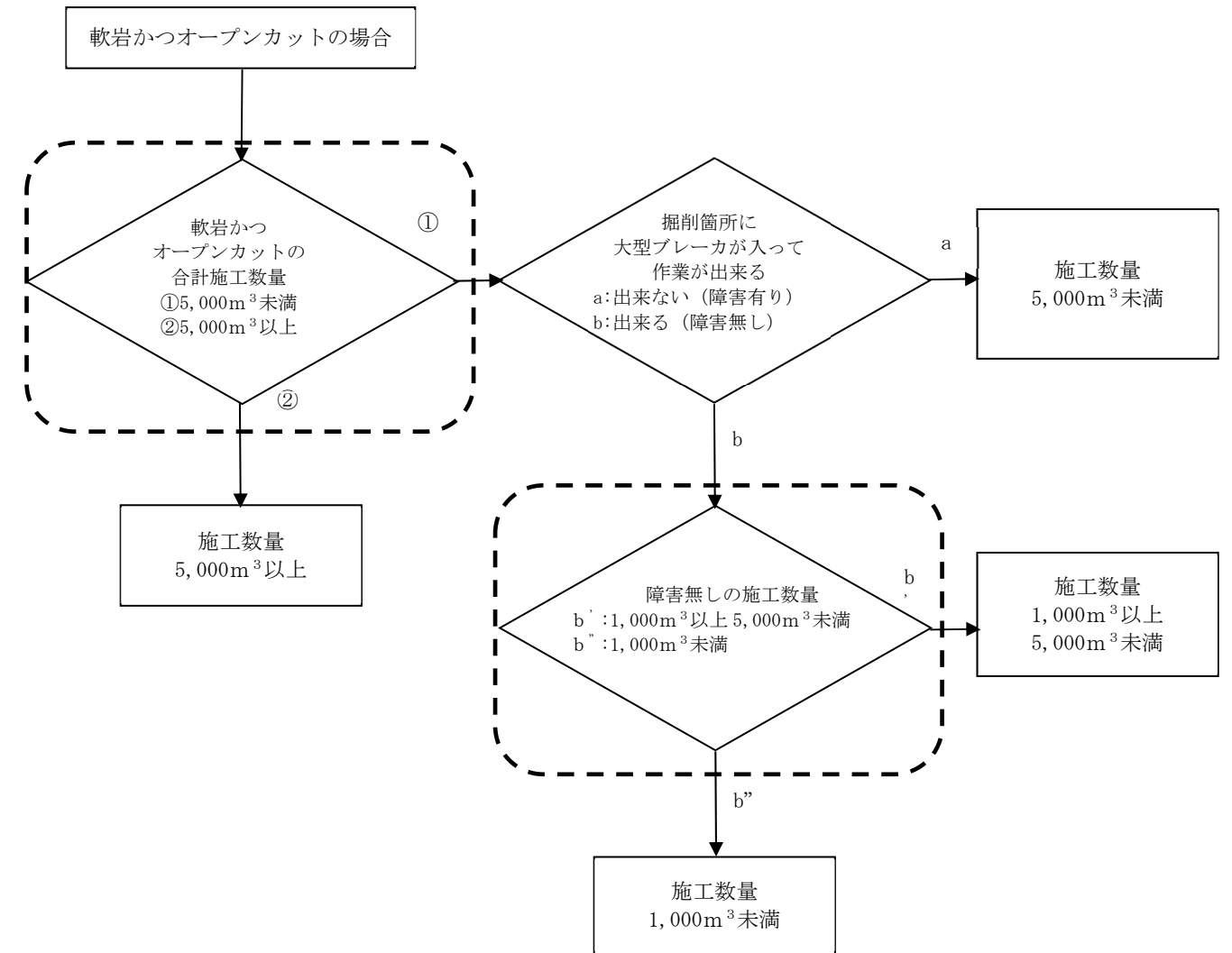
B: ①5,000m³未満, ②5,000m³以上 10,000m³未満, ③10,000m³以上 50,000m³未満, ④50,000m³以上

C: ①5,000m³未満, ②5,000m³以上 10,000m³未満, ③10,000m³以上 50,000m³未満, ④50,000m³以上

D: ①50,000m³未満, ②50,000m³以上

[新設]

※3. 掘削(軟岩、オープンカット)は、条件区分が「軟岩」かつ施工方法「オープンカット」について合計した施工数量にて判断する(次図破線部)。ただし、「①:5,000m³未満」でかつ「b:障害無し」の(掘削箇所に大型ブレイカが入って作業ができる)場合は、「5,000m³未満」かつ「障害無し」の施工数量によって積算条件区分を判断する(次図破線部)。



②軟岩及び硬岩の掘削、床掘りは、土質及び作業内容ごとの「施工数量」で判断する。

③掘削(ICT)は、同一の施工箇所において3D-MG又はMCバックホウ(以下、「ICT建機」という。)と通常建機(ICT建機を使用しない通常機種バックホウ)を組合せて施工する場合、両者を合計した掘削土量をその箇所の施工数量とする。

④施工方法「上記以外(小規模)」の施工数量における「1箇所」とは、目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。

⑤湿地軟弱土での作業の施工数量は、1工事当りの取扱い土量に含まない。

7) 土質「軟岩」、「硬岩」における床掘平均掘削幅 2m未満の場合の破砕片除去及び積込みは、破砕片除去「無」を選択の上、「3-7 積込(ルーズ)」により別途計上する。

8) 掘削(土砂及び岩塊・玉石、オープンカット、集積押土無)には、掘削と同時に行う積込みを含む。
[削る]

7. 集積押土の有無

①有り：集積押土の距離は 30mまでとする。

8. 軟岩又は硬岩の場合で、盛土等に流用するための小割りに破砕が再度必要となった場合は、小割りに要する費用は別途考慮する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 掘削 代表機材規格一覧

土質	項目	代表機材規格	施工方法										水中掘削	現場制約有り				
			オープンカット		片切掘削	小規模		施工数量										
			普通土 30,000 m ³ 未満 又は 湿地 軟弱土	普通土 30,000 m ³ 以上		5,000 m ³ 未満	5,000 m ³ 以上	10,000 m ³ 以上	50,000 m ³ 以上	1箇所 100m ² 以下	1箇所 50m ² 以下	標準			標準以外			
土砂	機械	ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (2014年規制)] 通称 20 t 級	○															
		ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (2011年規制)] 通称 32 t 級		○														
		バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] バケット容量 0.8m ³			○	○	○					○						
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] バケット容量 1.3m ³ ~1.5m ³										○						
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] バケット容量 0.28m ³											○					
		小型バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] バケット容量 0.13m ³												○				
		クラムシェル [油圧ロープ式・クローラ型] バケット容量(平積)0.8m ³													○			
	K2	—																
	K3	—																
	岩塊・玉石	労務	R1 運転手(特殊)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R2 普通作業員																		○
R3			—															
R4			—															
材料	Z1 軽油 バトル給油	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	Z2	—																
	Z3	—																
	Z4	—																
市場単価	S	—																

		施工方法	
		オープンカット	片切掘削
		無し	有し
		施工数量	

⑥土質「軟岩」、「硬岩」における床掘平均掘削幅 2m未満の場合の破砕片除去及び積込みは、破砕片除去「無」を選択の上、「3-7 積込(ルーズ)」により別途計上する。

⑦掘削(土砂及び岩塊・玉石、オープンカット、集積押土無)には、掘削と同時に行う積込みを含む。

7. 火薬の標準的な使用量は、オープンカットでは、1日当たり含水爆薬13.4kg、AN-F019.5kg、片切掘削では、1日当たり含水爆薬1.8kgとし、これにより難しい場合は別途計上する

8. 集積押土の有無

①有り：集積押土の距離は 30mまでとする。

9. 軟岩又は硬岩の場合で、盛土等に流用するための小割りに破砕が再度必要となった場合は、小割りに要する費用は別途考慮する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 掘削 代表機材規格一覧

土質	項目	代表機材規格	施工方法										水中掘削	現場制約有り				
			オープンカット		片切掘削	小規模		施工数量										
			普通土 30,000 m ³ 未満 又は 湿地 軟弱土	普通土 30,000 m ³ 以上		5,000 m ³ 未満	5,000 m ³ 以上	10,000 m ³ 以上	50,000 m ³ 以上	1箇所 100m ² 以下	1箇所 50m ² 以下	標準			標準以外			
土砂	機械	ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 20 t 級	○															
		ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (2011年規制)] 32 t 級		○														
		バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)			○	○	○					○						
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積 1.4m ³ (平積 1.0m ³)										○						
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)											○					
		小型バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.13m ³ (平積 0.10m ³)												○				
		クラムシェル [油圧ロープ式・クローラ型] 平積 0.8m ³													○			
	K2	—																
	K3	—																
	岩塊・玉石	労務	R1 運転手(特殊)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R2 普通作業員																		○
R3			—															
R4			—															
材料	Z1 軽油 バトル給油	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	Z2	—																
	Z3	—																
	Z4	—																
市場単価	S	—																

		施工方法	
		オープンカット	片切掘削
		無し	有し
		施工数量	

3-2 土砂等運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 4 土砂等運搬 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)

土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離
標準	バックホウ <u>バケット容量</u> 0.8m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
		軟岩	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
		硬岩	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
	バックホウ <u>バケット容量</u> 1.3~1.5m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
		軟岩	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
		硬岩	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
バックホウ <u>バケット容量</u> 0.45m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 9)	
		有り	(表3. 10)	
	軟岩	無し	(表3. 9)	
		有り	(表3. 10)	
	硬岩	無し	(表3. 9)	
		有り	(表3. 10)	
クラムシェル <u>バケット容量(平積)</u> 0.26 ~0.3m ³ または <u>バケット容量(平積)</u> 0.8m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
	軟岩	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
	硬岩	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
小規模	バックホウ <u>バケット容量</u> 0.28m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 13)
			有り	(表3. 14)
	バックホウ <u>バケット容量</u> 0.13m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 15)
			有り	(表3. 16)
現場制約有り	人力	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 17)
			有り	(表3. 18)

(注) 1. ~9. [略]

表 3. 5 運搬距離~表 3. 18 運搬距離 [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 19 土砂等運搬 代表機材規格一覧

土砂等発生現場	項目	代表機材規格	備考	
標準	機械	K1	ダンプトラック [オノード・ディーゼル] <u>通称</u> 10 t 積級	タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	運転手(一般)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	

3-2 土砂等運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 4 土砂等運搬 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)

土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離
標準	バックホウ <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
		軟岩	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
		硬岩	無し	(表3. 5)
			有り	(表3. 6)
	バックホウ <u>山積</u> 1.4m ³ (<u>平積</u> 1.0m ³)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
		軟岩	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
		硬岩	無し	(表3. 7)
			有り	(表3. 8)
バックホウ <u>山積</u> 0.45m ³ (<u>平積</u> 0.35m ³)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 9)	
		有り	(表3. 10)	
	軟岩	無し	(表3. 9)	
		有り	(表3. 10)	
	硬岩	無し	(表3. 9)	
		有り	(表3. 10)	
クラムシェル <u>平積</u> 0.4m ³ または <u>平積</u> 0.8m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
	軟岩	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
	硬岩	無し	(表3. 11)	
		有り	(表3. 12)	
小規模	バックホウ <u>山積</u> 0.28m ³ (<u>平積</u> 0.2m ³)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 13)
			有り	(表3. 14)
	バックホウ <u>山積</u> 0.13m ³ (<u>平積</u> 0.1m ³)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 15)
			有り	(表3. 16)
現場制約有り	人力	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	(表3. 17)
			有り	(表3. 18)

(注) 1. ~9. [略]

表 3. 5 運搬距離~表 3. 18 運搬距離 [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 19 土砂等運搬 代表機材規格一覧

土砂等発生現場	項目	代表機材規格	備考	
標準	機械	K1	ダンプトラック [オノード・ディーゼル] 10 t 積級	タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	運転手(一般)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	

小規模	機械	K1	ダンプトラック[オロード・ディーゼル] 通称 4 t 積級	積込機種・規格がバックホウ バケット容量 0.28m ³ の場合 クイ損耗費及び補修費(良好)を含む
			ダンプトラック[オロード・ディーゼル] 通称 2 t 積級	積込機種・規格がバックホウ バケット容量 0.13m ³ の場合 クイ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K2	—	
	K3	—		
	労務	R1	運転手 (一般)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	
現場制約有り	機械	K1	ダンプトラック[オロード・ディーゼル] 通称 2 t 積級	クイ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	運転手 (一般)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	

3-3 整地

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 20 整地 積算条件区分一覧

(積算単位: m³)

作業区分	施工数量	障害の有無
残土受入れ地での処理	—	—
敷均し(ルーズ)	10,000m ³ 未満	無し
		有り
	10,000m ³ 以上	無し
		有り

(注) 1. ~ 6. [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 21 整地 代表機労材規格一覧

作業区分	項目	代表機労材規格	備考	
残土受入れ地での処理	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)] バケット容量 0.8m ³	賃料
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	運転手(特殊)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	

小規模	機械	K1	ダンプトラック[オロード・ディーゼル] 4 t 積級	積込機種・規格がバックホウ 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³) の場合 クイ損耗費及び補修費(良好)を含む
			ダンプトラック[オロード・ディーゼル] 2 t 積級	積込機種・規格がバックホウ 山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³) の場合 クイ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K2	—	
	K3	—		
	労務	R1	運転手 (一般)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	
現場制約有り	機械	K1	ダンプトラック[オロード・ディーゼル] 2 t 積級	クイ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	運転手 (一般)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	

3-3 整地

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 20 整地 積算条件区分一覧

(積算単位: m³)

作業区分	施工数量	障害の有無
残土受入れ地での処理	—	—
敷均し(ルーズ)	標準 <u>(10,000m³未満)</u>	無し
		有り
	標準以外 <u>(10,000m³以上)</u>	無し
		有り

(注) 1. ~ 6. [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 21 整地 代表機労材規格一覧

作業区分	項目	代表機労材規格	備考	
残土受入れ地での処理	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	運転手(特殊)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	

	市場単価	S	—	
敷均し (ルーズ)	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量 0.8m³</u>	賃料
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	運転手(特殊)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 バトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	

3-4 路体(築堤)盛土・埋戻

- (1) [略]
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 23 路体(築堤)盛土・埋戻 代表機材規格一覧

施工幅員	施工数量	項目		代表機材規格	備考
2.5m以上 4.0m未満	—	機械	K1	振動ローラ(舗装用) [搭乗コンバインド式・排出ガス対策型(第3次基準値)] 運転質量3~4 t	賃料
			K2	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量0.28m³</u>	賃料
			K3	—	
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	—	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 バトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
		4.0m以上	20,000 m ³ 未満	機械	K1
K2	振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型(2011年規制)] 運転質量11~12 t				賃料
K3	—				
労務	R1			運転手(特殊)	
	R2			普通作業員	
	R3			—	
	R4			—	
材料	Z1			軽油 バトロール給油	
	Z2			—	
	Z3			—	
	Z4			—	
市場単価	S			—	
4.0m以上	20,000 m ³ 以上			機械	K1
		K2	振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型(2011年規制)] 運転質量11~12 t		賃料
		K3	—		
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	—	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 バトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	

3-5 路床盛土

- (1) [略]
(2) 代表機材規格

	市場単価	S	—	
敷均し (ルーズ)	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積 0.8m³ (平積 0.6m³)</u>	賃料
		K2	—	
		K3	—	
	労務	R1	運転手(特殊)	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 バトロール給油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	

3-4 路体(築堤)盛土・埋戻

- (1) [略]
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 23 路体(築堤)盛土・埋戻 代表機材規格一覧

施工幅員	施工数量	項目		代表機材規格	備考
2.5m以上 4.0m未満	—	機械	K1	振動ローラ(舗装用) [搭乗コンバインド式・排出ガス対策型(第3次基準値)] 運転質量3~4 t	賃料
			K2	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積0.28m³ (平積0.20m³)</u>	賃料
			K3	—	
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	—	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 バトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
		4.0m以上	20,000 m ³ 未満	機械	K1
K2	振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型(2011年規制)] 運転質量11~12 t				賃料
K3	—				
労務	R1			運転手(特殊)	
	R2			普通作業員	
	R3			—	
	R4			—	
材料	Z1			軽油 バトロール給油	
	Z2			—	
	Z3			—	
	Z4			—	
市場単価	S			—	
4.0m以上	20,000 m ³ 以上			機械	K1
		K2	振動ローラ(土工用) [フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型(2011年規制)] 運転質量11~12 t		賃料
		K3	—		
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	—	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 バトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	

3-5 路床盛土

- (1) [略]
(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 25 路床盛土 代表機材規格一覧

施工幅員	施工数量	項目		代表機材規格	備考
2.5m 以上 4.0m 未満	-	機械	K1	振動ローラ(舗装用)[搭乗コンバインド式・排出ガス対策型(第3次基準値)]運転質量3~4t	賃料
			K2	バックホウ(クローラ型)[後方超小旋回型・低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量0.28m³</u>	賃料
			K3	-	
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	-	
			R4	-	
		材料	Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
			Z4	-	
		市場単価	S	-	
		4.0m 以上	20,000m ³ 未満	機械	K1
K2	振動ローラ(土工用)[フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型(2011年規制)]運転質量11~12t				賃料
K3	-				
労務	R1			運転手(特殊)	
	R2			普通作業員	
	R3			-	
	R4			-	
材料	Z1			軽油 パトロール給油	
	Z2			-	
	Z3			-	
	Z4			-	
市場単価	S			-	
20,000m ³ 以上	機械		K1	ブルドーザ[湿地・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>通称16t級</u>	賃料
			K2	振動ローラ(土工用)[フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型(2011年規制)]運転質量11~12t	賃料
			K3	-	
	労務		R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	-	
			R4	-	
	材料		Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	-	
Z3		-			
Z4		-			
市場単価	S	-			

3-6 積込(ルーズ)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 26 積込(ルーズ) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 25 路床盛土 代表機材規格一覧

施工幅員	施工数量	項目		代表機材規格	備考
2.5m 以上 4.0m 未満	-	機械	K1	振動ローラ(舗装用)[搭乗コンバインド式・排出ガス対策型(第3次基準値)]運転質量3~4t	賃料
			K2	バックホウ(クローラ型)[後方超小旋回型・低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積0.28m³ (平積0.2m³)</u>	賃料
			K3	-	
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	-	
			R4	-	
		材料	Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	-	
			Z3	-	
			Z4	-	
		市場単価	S	-	
		4.0m 以上	20,000m ³ 未満	機械	K1
K2	振動ローラ(土工用)[フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型(2011年規制)]運転質量11~12t				賃料
K3	-				
労務	R1			運転手(特殊)	
	R2			普通作業員	
	R3			-	
	R4			-	
材料	Z1			軽油 パトロール給油	
	Z2			-	
	Z3			-	
	Z4			-	
市場単価	S			-	
20,000m ³ 以上	機械		K1	ブルドーザ[湿地・排出ガス対策型(2011年規制)]16t級	賃料
			K2	振動ローラ(土工用)[フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型(2011年規制)]運転質量11~12t	賃料
			K3	-	
	労務		R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	-	
			R4	-	
	材料		Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	-	
Z3		-			
Z4		-			
市場単価	S	-			

3-6 積込(ルーズ)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 26 積込(ルーズ) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] バケット容量 0.8m ³	作業内容が土量 50,000m ³ 未満の場合
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] バケット容量 1.3~1.5m ³	作業内容が土量 50,000m ³ 以上の場合
		バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] バケット容量 0.45m ³	作業内容が平均施工幅 1m以上 2m未満の場合
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] バケット容量 0.28m ³	作業内容が小規模(標準)の場合
		小型バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス型 (第3次基準値)] バケット容量 0.13m ³	作業内容が小規模(標準以外)の場合
K2	—		
K3	—		
労務	R1	運転手(特殊)	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 バトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-7 押土(ルーズ)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 28 押土(ルーズ) 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)

土質	施工数量
土砂	5,000m ³ 未満
	5,000m ³ 以上
岩塊・玉石	5,000m ³ 未満
	5,000m ³ 以上
破碎岩	5,000m ³ 未満
	5,000m ³ 以上

(注) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 29 押土(ルーズ) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (2011年規制)] 通称 7t 級	・施工数量 5,000m ³ 未満 の場合
		ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (2014年規制)] 通称 20t 級	・施工数量 5,000m ³ 以上 の場合
	K2	—	
K3	—		
労務	R1	運転手(特殊)	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 バトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	作業内容が土量 50,000m ³ 未満の場合
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積 1.4m ³ (平積 1.0m ³)	作業内容が土量 50,000m ³ 以上の場合
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	作業内容が平均施工幅 1m以上 2m未満の場合
		バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	作業内容が小規模(標準)の場合
		小型バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス型 (第2次基準値)] 山積 0.13m ³ (平積 0.10m ³)	作業内容が小規模(標準以外)の場合
K2	—		
K3	—		
労務	R1	運転手(特殊)	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 バトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-7 押土(ルーズ)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする

表 3. 28 押土(ルーズ) 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)

土質	[新設]
土砂	[新設]
	[新設]
岩塊・玉石	[新設]
	[新設]
破碎岩	[新設]
	[新設]

(注) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。V

表 3. 29 押土(ルーズ) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 20t 級	[新設]
		[新設]	[新設]
	K2	—	
K3	—		
労務	R1	運転手(特殊)	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 バトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-8 [略]

③ 作業土工（床掘り）

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 床掘り

(1) [略]

(2) 代表機材規格

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 2 床掘り 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	施工方法						備考
		標準	平均施工幅 1 m以上 2 m未満	掘削深さ 5 m超 20m以下	掘削深さ 20m超	左記以外 (小規模)	現場制約 有り	
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量0.8m³</u>	○					賃料
		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量0.45m³</u>		○				賃料
		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量0.28m³</u>				○		
		クラムシェル〔油圧ロープ式・クローラ型〕 <u>バケット容量（平積）0.8m³</u>				○		
		クラムシェル〔油圧クラムシェル・テレスコピック式・ <u>排ガス対策型（2014年規制）</u> 〕 <u>バケット容量（平積）0.26~0.3m³</u>			○			
		小型バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量0.08m³</u>			◎	○		
	K3	—						
労務	R1	運転手（特殊）	○	○	○	○	○	
	R2	普通作業員	△	△	○	○	○	○
	R3	特殊作業員			◎	○		
	R4	—						
材料	Z1	軽油 バトロール給油	○	○	○	○	○	
	Z2	—						
	Z3	—						
	Z4	—						
市場単価	S	—						

◎障害有りの場合
△土留方式無し以外の場合

3-2 [略]

3-3 舗装版破砕積込（小規模土工）

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 舗装版破砕積込（小規模土工） 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔標準型・ <u>超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）</u> 〕 <u>バケット容量0.13m³</u>
	K2	—
	K3	—
労務	R1	運転手（特殊）
	R2	—

3-8 [略]

③ 作業土工（床掘り）

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 床掘り

(1) [略]

(2) 代表機材規格

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 2 床掘り 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	施工方法						備考
		標準	平均施工幅 1 m以上 2 m未満	掘削深さ 5 m超 20m以下	掘削深さ 20m超	左記以外 (小規模)	現場制約 有り	
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>山積0.8m³（平積0.6m³）</u>	○					賃料
		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>山積0.45m³（平積0.35m³）</u>		○				賃料
		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 <u>山積0.28m³（平積0.2m³）</u>					○	
		クラムシェル〔油圧ロープ式・クローラ型〕 平積0.8m ³				○		
		クラムシェル〔油圧クラムシェル・テレスコピック式〕 平積0.4m ³			○			
		K2	小型バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 <u>山積0.08m³（平積0.06m³）</u>			◎	○	
	K3	—						
労務	R1	運転手（特殊）	○	○	○	○	○	
	R2	普通作業員	△	△	○	○	○	○
	R3	特殊作業員			◎	○		
	R4	—						
材料	Z1	軽油 バトロール給油	○	○	○	○	○	
	Z2	—						
	Z3	—						
	Z4	—						
市場単価	S	—						

◎障害有りの場合
△土留方式無し以外の場合

3-2 [略]

3-3 舗装版破砕積込（小規模土工）

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 舗装版破砕積込（小規模土工） 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 <u>山積0.13m³（平積0.1m³）</u>
	K2	—
	K3	—
労務	R1	運転手（特殊）
	R2	—

	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 掘削補助機械搬入搬出

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.5 掘削補助機械搬入搬出 代表機材規格一覧

項 目		代表機材規格	備 考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)] 最大吊上能力 16t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

④ 法面整形工

1. ~3. [略]

4. 施工パッケージ

4-1 法面整形

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表4.2 法面整形 代表機材規格一覧

現場制約の有無	整形箇所	項 目	代表機材規格	備 考	
無し	盛土部 切土部	機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] ポケット容量 0.8m ³	賃料
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	運転手(特殊)	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	

	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 掘削補助機械搬入搬出

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.5 掘削補助機械搬入搬出 代表機材規格一覧

項 目		代表機材規格	備 考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 16t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

④ 法面整形工

1. ~3. [略]

4. 施工パッケージ

4-1 法面整形

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表4.2 法面整形 代表機材規格一覧

現場制約の有無	整形箇所	項 目	代表機材規格	備 考	
無し	盛土部 切土部	機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	運転手(特殊)	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	

有り	盛土部	市場単価	Z4	—	
			S	—	
		機械	K1	ランマ <u>通称60～80kg級</u>	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	土木一般世話役	
			R3	特殊作業員	
			R4	—	
		材料	Z1	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z2		—		
	Z3		—		
	Z4		—		
	市場単価	S	—		
	切土部	機械	K1	—	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	土木一般世話役	
			R3	特殊作業員	軟岩 (I)、軟岩 (II)、中硬岩、硬岩の場合
R4			—		
材料		Z1	—		
		Z2	—		
		Z3	—		
	Z4	—			
市場単価	S	—			

有り	盛土部	市場単価	Z4	—	
			S	—	
		機械	K1	ランマ <u>質量60～80kg</u>	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	土木一般世話役	
			R3	特殊作業員	
			R4	—	
		材料	Z1	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z2		—		
	Z3		—		
	Z4		—		
	市場単価	S	—		
	切土部	機械	K1	—	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	土木一般世話役	
			R3	特殊作業員	軟岩 (I)、軟岩 (II)、中硬岩、硬岩の場合
R4			—		
材料		Z1	—		
		Z2	—		
		Z3	—		
	Z4	—			
市場単価	S	—			

⑤土工 (ICT)

1. 適用範囲

本資料は、ICTによる土工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]

(1) 3D-MG又はMCバックホウによる土砂、岩塊・玉石の掘削積込、又は、3D-MG又はMCバックホウによる土砂の片切掘削

1-1-2 路体 (築堤) 盛土 (ICT)

(1) 3D-MG又はMCブルドーザによる施工幅員 4.0m以上の土砂等を使用した路体 (築堤) 盛土

1-1-3 路床盛土 (ICT)

(1) 3D-MG又はMCブルドーザによる施工幅員 4.0m以上の土砂等を使用した路床盛土

1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]

(1) 3D-MG又はMCバックホウ以外による掘削

1-2-2 路体 (築堤) 盛土 (ICT)

(1) 3D-MG又はMCブルドーザ以外による路体 (築堤) 盛土

1-2-3 路床盛土 (ICT)

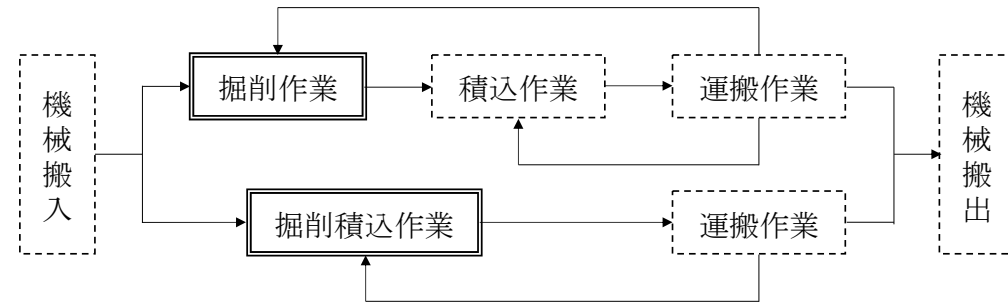
(1) 3D-MG又はMCブルドーザ以外による路床盛土

[新設]

2. 施工概要

2-1 施工フロー

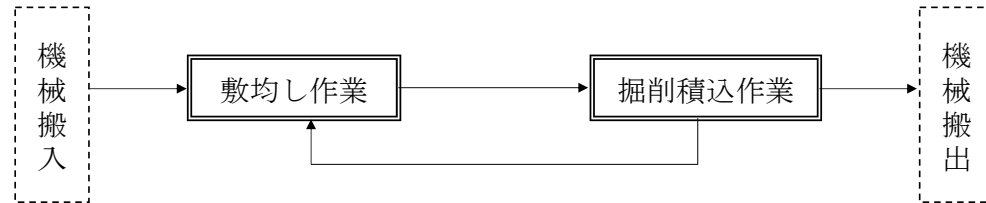
2-1-1 「掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]」



- ※1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
- ※2. 積込、運搬作業が必要な場合は、「施工パッケージ型積算基準1. 土工」により別途計上すること。

図2-1 施工フロー(掘削 ICT)※[ICT建機使用割合 100%]

2-1-2 路体(築堤)盛土 (ICT)、路床盛土 (ICT)



- ※ 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
- 図2-2 施工フロー(路体(築堤)盛土 (ICT)、路床盛土 (ICT))

3. 施工パッケージ

3-1 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%] 積算条件区分一覧 (積算単位: m³)

土質	施工方法	障害の有無	施工数量
土砂	オープンカット	無し	5,000m ³ 未満
			5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満
			10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満
		有り	50,000m ³ 以上
			5,000m ³ 未満
			5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満
片切掘削	無し	10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満	
	有り	50,000m ³ 以上	
岩塊・玉石	オープンカット	無し	5,000m ³ 未満
			5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満
			10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満
		有り	50,000m ³ 以上
			5,000m ³ 未満
			5,000m ³ 以上 10,000m ³ 未満
			10,000m ³ 以上 50,000m ³ 未満
			50,000m ³ 以上

- (注) 1. 上表は、土砂、岩塊・玉石の掘削積込（片切掘削は掘削のみ）の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含み、クレーン作業は含まない。
2. 上表は、同一の施工箇所において、3D-MG又はMCバックホウ（以下「ICT建機」という。）のみで施工する（ICT建機使用割合100%）場合である。
 なお、施工数量は、1工事当たりの全体掘削土量により判定し、「施工パッケージ型積算基準1. 土工② 土工3-1掘削（注）6. 施工数量、破砕片除去数量」によるものとする。また、該当する施工箇所におけるICT建機による施工の掘削土量をその箇所の掘削土量とし、これを合計したものを全体掘削土量とする。
3. 土砂、岩塊・玉石の掘削積込、又は土砂の片切掘削について、同一の施工箇所においてICT建機と通常建機（ICT建機を使用しない通常機種のバックホウ）を組合わせて施工する（ICT建機使用割合100%以外）場合は、該当する箇所における掘削土量をICT建機使用割合に応じてICT建機による施工分と通常建機による施工分に分割し、ICT建機による施工分に上表を適用する。通常建機による施工分は、「施工パッケージ型積算基準1. 土工② 土工3-1掘削」により別途計上する。
 なお、施工数量は、1工事当りの全体掘削土量により判定し、「施工パッケージ型積算基準1. 土工② 土工3-1掘削（注）6. 施工数量、破砕片除去数量」によるものとする。また、ICT建機使用割合100%以外の場合は、該当する施工箇所におけるICT建機による施工分と通常建機による施工分を合計した掘削土量をその箇所の掘削土量とし、これを合計したものを全体掘削土量とする。ただし、施工箇所が分かれる場合、通常建機のみで施工した箇所の掘削土量はこの全体掘削土量に含めない。
4. 土量は、地山土量とする。
5. 施工方法は、掘削箇所の地形により、「オープンカット」、「片切り」に区分する。区分については、「施工パッケージ型積算基準1. 土工② 土工」の図3. 1～図3. 3を参照のこと。
6. 障害の有無
 ①無し： 構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業ができる場合
 ②有り： 掘削作業において障害物等により施工条件に制限があり（例えば作業障害が多い場合）連続掘削作業が出来ない場合。掘削深さ5m以内で掘削箇所が地下水位等で排水をせず、水中掘削（溝掘り、基礎掘削）を行う場合
7. ICT建機使用割合は、上記(注) 2. 又は3. の1工事当りの全体掘削土量に対する1工事当りのICT建機による掘削土量の割合である。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 2 掘削（ICT）※[ICT建機使用割合100%] 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・ICT施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）]バケット容量0.8m ³ ・吊能力2.9t	賃料
	K2	ICT建設機械経費賃料加算額（バックホウ（ICT施工対応型））	賃料
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	片切掘削の場合
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

(注) ICT建設機械経費賃料加算額（バックホウ（ICT施工対応型）は、地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

3-2 路体（築堤）盛土（ICT）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3. 3 路体（築堤）盛土（ICT）積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

施工数量	障害の有無
20,000m ³ 未満	無し
	有り

20,000m ³ 以上	無し
	有り

- (注) 1. 上表は、路体又は築堤の自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等の敷均し・締固め、他工事で発生し運搬されてくる土砂等の敷均し・締固め、土取場（仮置場）で採取し運搬してくる土砂等の敷均し・締固め等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 施工数量は、ICT施工による1工事当りの全体盛土量（施工幅員4.0m以上の合計盛土量）とする。
3. 土量は、締固め後の土量とする。
4. 障害の有無
- ①無し： 作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合（例えば、新築のバイパス工事、築堤工事等）。
- ②有り： 作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合（例えば、現道上の工事、一車線程度の現道拡幅工事、拡築（腹付、嵩上）工事、現場が不連続、構造物等の障害等）
5. ブルドーザ（湿地・ICT施工対応型）での敷均しに適さない作業条件の場合や、振動ローラ（土工用）の締固めに適さない土質の場合は別途考慮する。

(2) 代表機務材規格

下表機務材は、当該施工パッケージで使用されている機務材の代表的な規格である。

表3-4 路体（築堤）盛土（ICT） 代表機務材規格一覧

施工数量	項目	代表機務材規格	備考	
20,000m ³ 未満	機械	K1	ブルドーザ[湿地・ICT施工対応型・排出ガス対策型（2011年規制）]通称7t級	賃料
		K2	ICT建設機械経費賃料加算額（ブルドーザ（ICT施工対応型））	賃料
		K3	振動ローラ（土工用）[フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型（2011年規制）]運転質量11～12t	賃料
	労務	R1	運転手（特殊）	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール軽油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	
	20,000m ³ 以上	機械	K1	ブルドーザ[湿地・ICT施工対応型・排出ガス対策型（2011年規制）]通称16t級
K2			ICT建設機械経費賃料加算額（ブルドーザ（ICT施工対応型））	賃料
K3			振動ローラ（土工用）[フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型（2011年規制）]運転質量11～12t	賃料
労務		R1	運転手（特殊）	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
材料		Z1	軽油 パトロール軽油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
市場単価		S	—	

(注) ICT建設機械経費賃料加算額（ブルドーザ（ICT施工対応型）は、地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

3-3 路床盛土（ICT）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 路床盛土（ICT）積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

施工数量	障害の有無
------	-------

20,000m ³ 未満	無し
	有り
20,000m ³ 以上	無し
	有り

- (注) 1. 上表は、路床の自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等の敷均し・締固め、他工事で発生し運搬されてくる土砂等の敷均し・締固め、土取場（仮置場）で採取し運搬して来る土砂等の敷均し・締固め等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む。）を含む。
2. 施工数量は、ICT施工による1工事当りの全体盛土量（施工幅員4.0m以上の合計盛土量）とする。
3. 土量は、締固め後の土量とする。
4. 障害の有無
- ①無し： 作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合（例えば、新築のバイパス工事、あるいは新設の築堤工事等）。
- ②有り： 作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合（例えば、現場上の工事、一車線程度の現道拡幅工事、あるいは拡築（腹付、嵩上）工事、現場が不連続、構造物等の障害等）。
5. ブルドーザ（湿地・ICT施工対応型）での敷均しに適さない作業条件の場合や、振動ローラ（土工用）の締固めに適さない土質の場合は別途考慮する。

(2) 代表機労務材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 路床盛土（ICT） 代表機労材規格一覧

施工数量	項目	代表機労材規格	備考	
20,000m ³ 未満	機械	K1	ブルドーザ〔湿地・ICT施工対応型・排出ガス対策型（2011年規制）〕通称7t級	賃料
		K2	ICT建設機械経費賃料加算額（ブルドーザ（ICT施工対応型））	賃料
		K3	振動ローラ（土工用）〔フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型（2011年規制）〕運転質量11～12t	賃料
	労務	R1	運転手（特殊）	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
	材料	Z1	軽油 パトロール軽油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
	市場単価	S	—	
	20,000m ³ 以上	機械	K1	ブルドーザ〔湿地・ICT施工対応型・排出ガス対策型（2011年規制）〕通称16t級
K2			ICT建設機械経費賃料加算額（ブルドーザ（ICT施工対応型））	賃料
K3			振動ローラ（土工用）〔フラット・シングルドラム型・排出ガス対策型（2011年規制）〕運転質量11～12t	賃料
労務		R1	運転手（特殊）	
		R2	—	
		R3	—	
		R4	—	
材料		Z1	軽油 パトロール軽油	
		Z2	—	
		Z3	—	
		Z4	—	
市場単価		S	—	

(注) ICT建設機械経費賃料加算額（ブルドーザ（ICT施工対応型））は、地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

⑥床掘工（ICT）

1. 適用範囲

本資料は、ICT施工において、3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術及び3次元マシンコントロール（バックホウ）技術を使用して、構造物の築造又は撤去を目的とした、平均施工幅1m以上の土砂の掘削等である床掘りに適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 床掘り（ICT）

- (1) 3D-MG又はMCバックホウによる作業土工（床掘り）（ICT）のうち、土砂におけるバックホウ床掘りの場合
- (2) 3D-MG又はMCバックホウによる作業土工（床掘り）（ICT）における、床付面の基面整正の場合

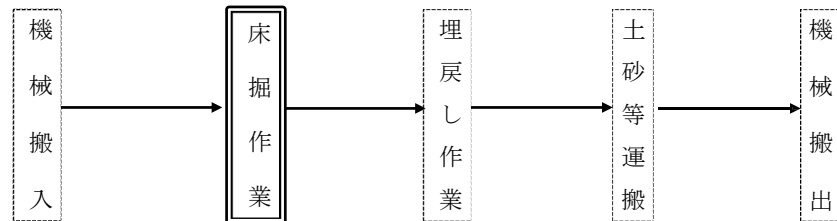
1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 床掘り（ICT）

- (1) 3D-MG又はMCバックホウ以外による作業土工（床掘り）

2. 施工概要

2-1 施工フロー



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
- 2. 埋戻しは「施工パッケージ積算基準1. 土工②土工」及び「積算基準 標準歩掛1. 土工④盛土・埋戻」による。

3. 施工パッケージ

3-1 床掘り（ICT）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 床掘（ICT）積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

施工方法	土留方式の種類	障害の有無
標準 平均施工幅 1m以上2m未満	(表3.2)	無し
		有り
		無し
		有り

- (注) 1. 上表は、構造物の築造又は撤去を目的とした土砂の掘削等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含み、クレーン作業は含まない。
- 2. 基面整正を行う場合は、「施工パッケージ型積算基準1. 土工③作業土工（床掘工）」により別途計上する。
- 3. 障害の有無
有り：① 床掘作業において、障害物等により施工条件に制限がある場合（たとえば作業障害が多い場合）
② 土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がある場合
無し：① 構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合
② 構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されない矢板のみの土留・仮締め切り工法掘削の場合
③ 土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がない場合
- 4. 掘削箇所が地下水等で排水をせず水中掘削作業を行う場合は、障害の有無で「有り」を適用する。

表3.2 土留方式の種類

積算条件	区分
土留方式の種類	無し
	自立式
	グラントアンカー式
	切梁腹起式

[新設]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 床掘 (ICT) 代表機材規格一覧

施工方法	項目	代表機材規格	備考		
標準	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・ICT施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)] バケット容量0.8m ³ ・吊能力2.9t	賃料	
		K2	ICT建設機械経費賃料加算額 (バックホウ (ICT施工対応型))	賃料	
		K3	—		
	労務	R1	運転手(特殊)		
		R2	普通作業員		
		R3	—		
		R4	—		
	材料	Z1	軽油 パトロール軽油		
		Z2	—		
		Z3	—		
		Z4	—		
	市場単価	S	—		
	平均施工幅 1m以上2m未満	機械	K1	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・ICT施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)] バケット容量0.5m ³ ・吊能力2.9t	賃料
			K2	ICT建設機械経費賃料加算額 (バックホウ (ICT施工対応型))	賃料
K3			—		
労務		R1	運転手(特殊)		
		R2	普通作業員		
		R3	—		
		R4	—		
材料		Z1	軽油 パトロール軽油		
		Z2	—		
		Z3	—		
		Z4	—		
市場単価		S	—		

(注) 1. ICT建設機械経費賃料加算額(バックホウ (ICT施工対応型))は、地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

3-2 基面整正

「施工パッケージ型積算基準 1. 土工③作業土工(床掘工)」により別途計上する。

⑦法面整形工 (ICT)

1. 適用範囲

本資料は、ICTによる盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。

1-1 適用できる範囲

(1) 3D-MG又はMCバックホウによる土質がレキ質土、砂及び砂質土、粘性土、軟岩Iの法面整形

1-2 適用出来ない範囲

(1) 3D-MG又はMCバックホウ以外の法面整形

(2) 現場制約がある場合

現場制約：施工パッケージ型積算基準 1. 土工④法面整形工 3. 施工フロー 図 3. 1 (注) 1による。

2. 施工概要

[新設]

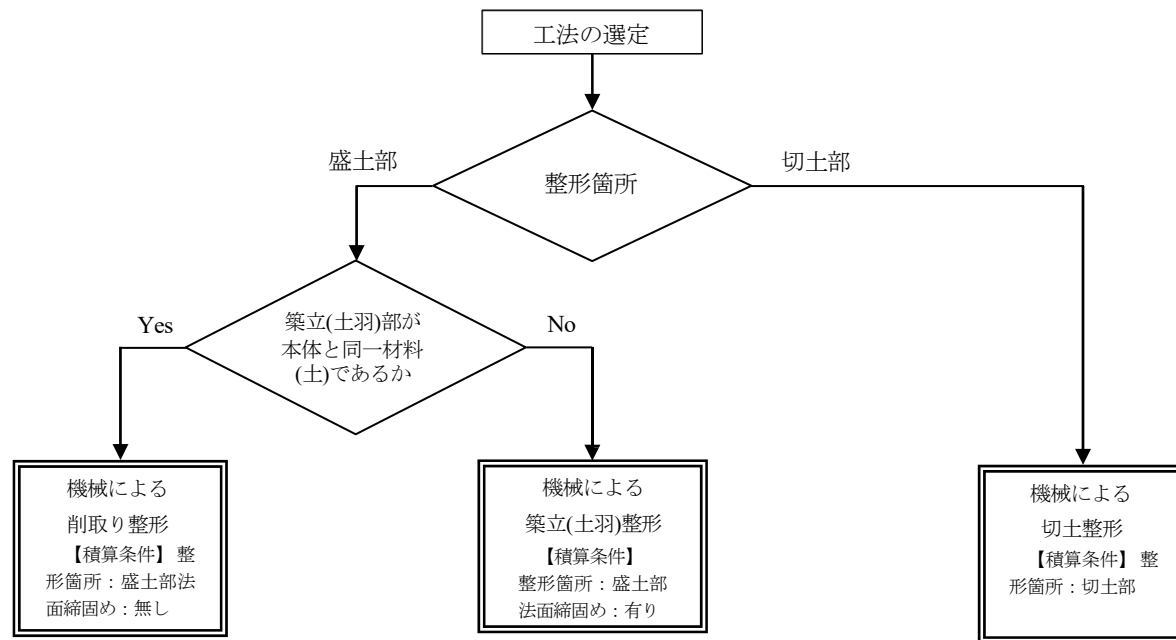
2-1 盛土法面整形工

法面表層部を締め整形することを盛土法面整形工という。

2-2 切土法面整形工

法面表層部を削取りながら整形することを切土法面整形工という。

3. 施工フロー



※ 盛土部の施工フローは、施工パッケージ型積算基準1. 土工④法面整形工の図3. 2を、切土部の施工フローは図3. 3を参照のこと。

図3-1 法面整形工(ICT) 工法選定フロー図

4. 施工パッケージ

4-1 法面整形 (ICT)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4. 1 法面整形(ICT) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

整形箇所	法面締めの有無	土質
盛土部	有り	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土
	無し	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土
切土部	二	レキ質土、砂及び砂質土、粘性土
		軟岩 I

- (注) 1. 上表は、切土法面の表層部を削取りながらの法面整形、盛土法面の表層部を削取りながらの法面整形及び築立てながらの法面(土羽)整形、土羽土の現場内小運搬(20m程度)の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含み、クレーン作業は含まない。
 2. 残土の積込み、工区外の運搬、並びに法面保護工は含まない。
 3. 土羽土の搬入等は含まない。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表4. 2 法面整形 (ICT) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・ICT施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)] バケット容量0.8m ³ 吊能力2.9t	賃料
	K2	ICT建設機械経費賃料加算額 (バックホウ (ICT施工対応型))	賃料
	K3	—	
労務	R1	運転手(特殊)	
	R2	土木一般世話役	
	R3	普通作業員	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 バトロール軽油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

※1. ICT建設機械経費賃料加算額(バックホウ (ICT施工対応型))は、地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

2. 共通工

① かが工

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 じゃかご

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 じゃかご 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第3次基準値)] バケット容量0.8m ³	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 バトロール給油	
	Z2	詰石 割栗石 15cm~20cm	撤去は除く
	Z3	鉄線じゃかご 円筒形じゃかご GS-7 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 径 45cm	撤去は除く じゃかご径 45cmの場合
		鉄線じゃかご 円筒形じゃかご GS-3 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 径 60cm	撤去は除く じゃかご径 60cmの場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 ふとんかご

(1) [略]

(2) 代表機材規格

2. 共通工

① かが工

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 じゃかご

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 じゃかご 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 バトロール給油	
	Z2	詰石 割栗石 15cm~20cm	撤去は除く
	Z3	鉄線じゃかご 円筒形じゃかご GS-7 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 径 45cm	撤去は除く じゃかご径 45cmの場合
		鉄線じゃかご 円筒形じゃかご GS-3 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 径 60cm	撤去は除く じゃかご径 60cmの場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 ふとんかご

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 ふとんかご 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	<u>土木一般世話役</u>	
	R3	<u>特殊作業員</u>	
	R4	運転手（特殊）	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 40cm×120cm	撤去は除く ふとんかご規格 40 cm×120 cmの場合
		ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 50cm×120cm	撤去は除く ふとんかご規格 50 cm×120 cmの場合
		ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 60cm×120cm	撤去は除く ふとんかご規格 60 cm×120 cmの場合
	Z3	詰石 割栗石 15cm～20cm	撤去は除く
Z4	—		
市場単価	S	—	

3-3 [略]

4. [略]

② 補強土壁工（帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁）

1. [略]

2. 施工概要

施工フローは次図を標準とする。

[略]

(注) [略]

図 2-1 施工フロー

3. 施工パッケージ

3-1 補強土壁壁面材組立・設置

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 補強土壁壁面材組立・設置 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）] <u>バケット容量</u> 0.5m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 ふとんかご 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	<u>特殊作業員</u>	
	R3	<u>土木一般世話役</u>	
	R4	運転手（特殊）	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 40cm×120cm	撤去は除く ふとんかご規格 40 cm×120 cmの場合
		ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 50cm×120cm	撤去は除く ふとんかご規格 50 cm×120 cmの場合
		ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm (#8) 網目 13cm 60cm×120cm	撤去は除く ふとんかご規格 60 cm×120 cmの場合
	Z3	詰石 割栗石 15cm～20cm	撤去は除く
Z4	—		
市場単価	S	—	

3-3 [略]

4. [略]

② 補強土壁工（帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁）

1. [略]

2. 施工概要

施工フローは次図を標準とする。

[略]

(注) [略]

[新設]

3. 施工パッケージ

3-1 補強土壁壁面材組立・設置

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 補強土壁壁面材組立・設置 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）] <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積</u> 0.4 m ³) 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	

	R4	特殊作業員	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2~3-4 [略]

3-5 まき出し・敷均し、締固め

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.7 まき出し・敷均し、締固め 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.5m ³ 吊能力2.9t	賃料
	K2	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 運転質量3~4t	賃料
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 [略]

3-7 碎石投入

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.8 碎石投入 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.5m ³ 吊能力2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	<u>運転手（特殊）</u>	
	R3	<u>土木一般世話役</u>	
	R4	<u>特殊作業員</u>	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	

	R4	特殊作業員	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2~3-4 [略]

3-5 まき出し・敷均し、締固め

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.7 まき出し・敷均し、締固め 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積0.4m³</u>) 吊能力2.9t	賃料
	K2	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 運転質量3~4t	賃料
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 [略]

3-7 碎石投入

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.8 碎石投入工 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積0.4m³</u>) 吊能力2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	<u>特殊作業員</u>	
	R3	<u>運転手（特殊）</u>	
	R4	<u>土木一般世話役</u>	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	

	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-8 壁面上端処理工

壁面上端処理を施工する場合は、下記による。

(1)・(2) [略]

(3) 鉄筋工

「土地改良事業等請負工事標準歩掛 3. コンクリート工③鉄筋工」により別途計上する。

③ 補強盛土工

1. 適用範囲

本資料は、ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強盛土及びジオテキスタイル補強土壁（鋼製枠タイプ）に適用する。

ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置

(1) [略]

[削る。]

1-2 [略]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1～3-3 [略]

3-4 まき出し・敷均し、締固め

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 まき出し・敷均し、締固め 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（2011年規制）] <u>バケット容量0.5m³</u>	賃料
	K2	振動ローラ（舗装用）[搭乗・コンパインド式・排出ガス対策型（第3次基準値）] 運転質量 3～4 t	賃料
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	
	R3	<u>土木一般世話役</u>	
	R4	<u>特殊作業員</u>	
材料	Z1	軽油 バトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5・3-6 [略]

3-7 壁面上端処理工

壁面上端処理を施工する場合は、下記による。

	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-8 壁面上端処理工

壁面上端処理を施工する場合は、下記による。

(1)・(2) [略]

(3) 鉄筋工

市場単価により別途計上する。

③ 補強盛土工

1. 適用範囲

本資料は、ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強盛土及びジオテキスタイル補強土壁（鋼製枠タイプ）に適用する。

ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置

(1) [略]

1-1-2 ジオテキスタイル敷設、まき出し・敷均し、締固め

(1) ジオテキスタイル工1段当りの施工高さが1.5mまでの場合

1-2 [略]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1～3-3 [略]

3-4 まき出し・敷均し、締固め

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 まき出し・敷均し、締固め 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（2011年規制）] <u>山積0.5m³（平積0.4m³）</u>	賃料
	K2	振動ローラ（舗装用）[搭乗・コンパインド式・排出ガス対策型（第3次基準値）] 運転質量 3～4 t	賃料
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	
	R3	<u>特殊作業員</u>	
	R4	<u>土木一般世話役</u>	
材料	Z1	軽油 バトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5・3-6 [略]

3-7 壁面上端処理工

壁面上端処理を施工する場合は、下記による。

(1)・(2) [略]

(3) 鉄筋工

「土地改良事業等請負工事標準歩掛 3. コンクリート工③鉄筋工」により別途計上する。

(4) [略]

4. [略]

④ プレキャスト擁壁工

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャスト擁壁設置

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 2 プレキャスト擁壁設置 代表機労材規格一覧

プレキャスト 擁壁高さ	項目		代表機労材規格	備考	
0.5m以上 2.0m以下	機械	K1	バックホウ（クローラ型） [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出 ガス対策型（2014年規制）] <u>バケット容量0.8m³</u> 2.9t 吊	賃料	
		K2	—		
		K3	—		
	労務	R1	普通作業員		
		R2	土木一般世話役		
		R3	特殊作業員		
		R4	運転手（特殊）		
	材料	Z1	コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 1000型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 0.5m を超え1.0m以下の場合	
			コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 1600型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 1.0m を超え2.0m以下の場合	
		Z2	軽油 パトロール給油		
		Z3	—		
	Z4	—			
	市場単価	S	—		
2.0mを超え 5.0m以下	機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型（2014年規制）] <u>最大吊上能 力25t 吊</u>	賃料	
		K2	—		
		K3	—		
	労務	R1	普通作業員		
		R2	土木一般世話役		
		R3	特殊作業員		
		R4	—		
	材料	Z1	コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 2500型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 2.0m を超え3.5m以下の場合	
			コンクリート擁壁（中地震対応型） ハイタッチウォール宅認（q=10kN/m ² ） 4250 型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 3.5m を超え5.0m以下の場合	
		Z2	—		
		Z3	—		

(1)・(2) [略]

(3) 鉄筋工

市場単価により別途計上する。

(4) [略]

4. [略]

④ プレキャスト擁壁工

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャスト擁壁設置

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 2 プレキャスト擁壁設置 代表機労材規格一覧

プレキャスト 擁壁高さ	項目		代表機労材規格	備考	
0.5m以上 2.0m以下	機械	K1	バックホウ（クローラ型） [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出 ガス対策型（2014年規制）] <u>山積0.8m³（平積0.6m³）</u> 2.9t 吊	賃料	
		K2	—		
		K3	—		
	労務	R1	普通作業員		
		R2	土木一般世話役		
		R3	特殊作業員		
		R4	運転手（特殊）		
	材料	Z1	コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 1000型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 0.5m を超え1.0m以下の場合	
			コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 1600型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 1.0m を超え2.0m以下の場合	
		Z2	軽油 パトロール給油		
		Z3	—		
	Z4	—			
	市場単価	S	—		
2.0mを超え 5.0m以下	機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型（2014年規制）] <u>25t 吊</u>	賃料	
		K2	—		
		K3	—		
	労務	R1	普通作業員		
		R2	土木一般世話役		
		R3	特殊作業員		
		R4	—		
	材料	Z1	コンクリート擁壁（中地震対応型） 宅認（q=10kN/m ² ） 2500型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 2.0m を超え3.5m以下の場合	
			コンクリート擁壁（中地震対応型） ハイタッチウォール宅認（q=10kN/m ² ） 4250 型（L=2.0m）	プレキャスト擁壁高さ 3.5m を超え5.0m以下の場合	
		Z2	—		
		Z3	—		

	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑤ **コンクリートブロック積（張）工**

1. ・ 2. [略]

3. **施工パッケージ**

3-1 間知ブロック積

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 3 間知ブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	<u>普通作業員</u>	
	R3	<u>ブロック工</u>	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	間知ブロック 高 250×幅 400×控 350 滑面	
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16	鉄筋規格「不要」の場合を除く
	Z3	軽油 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 大型ブロック積

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 5 大型ブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料 2,000kg/個以下の場合
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）] <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	賃料 2,000kg/個超えの場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	ブロック工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	

	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑤ **大型ブロック積（張）工**

1. ・ 2. [略]

3. **施工パッケージ**

3-1 間知ブロック積

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 3 間知ブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>) 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	<u>ブロック工</u>	
	R3	<u>普通作業員</u>	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	間知ブロック 高 250×幅 400×控 350 滑面	
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16	鉄筋規格「不要」の場合を除く
	Z3	軽油 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 大型ブロック積

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 5 大型ブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>) 吊能力 2.9t	賃料 2,000kg/個以下の場合
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）] 25t 吊	賃料 2,000kg/個超えの場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	ブロック工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	

	Z4	—	
	S	—	

3-3 [略]

3-4 間知ブロック張

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 12 間知ブロック張 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	特殊作業員	
	R4	ブロック工	
材料	Z1	間知ブロック 高 250×幅 400×控 350 滑面	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」の場合を除く
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z4	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート規格「不要」の場合を除く
市場単価	S	—	

3-5 平ブロック張

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 16 平ブロック張 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	平ブロック 厚さ 100mm	
	Z2	再生クラッシュラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z3	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m	吸出し防止材有りの場合
	Z4	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート規格「不要」の場合を除く
市場単価	S	—	

	Z4	—	
	S	—	

3-3 [略]

3-4 間知ブロック張

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 12 間知ブロック張 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>) 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	特殊作業員	
	R4	ブロック工	
材料	Z1	間知ブロック 高 250×幅 400×控 350 滑面	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」の場合を除く
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z4	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート規格「不要」の場合を除く
市場単価	S	—	

3-5 平ブロック張

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 16 平ブロック張 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>) 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	平ブロック 厚さ 100mm	
	Z2	再生クラッシュラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z3	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m	吸出し防止材有りの場合
	Z4	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート規格「不要」の場合を除く
市場単価	S	—	

3-6 連節ブロック張

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 19 連節ブロック張 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>ポケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手（特殊）	
材料	Z1	連節ブロック 厚さ 250mm	
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SR235 φ13	連結方式が「鉄筋又は鋼線」の場合
	Z3	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート規格「不要」の場合を除く
	Z4	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m	吸出し防止材有りの場合
市場単価	S	—	

3-7 胴込・裏込コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 21 胴込・裏込コンクリート 代表機材規格一覧

ブロックの種類	ブロックの質量	項目	代表機材規格	備考	
間知ブロック	—	機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>ポケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手（特殊）	
			R4	—	
		材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」の場合を除く
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	

3-6 連節ブロック張

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 19 連節ブロック張 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	ブロック工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手（特殊）	
材料	Z1	連節ブロック 厚さ 250mm	
	Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SR235 φ13	連結方式が「鉄筋又は鋼線」の場合
	Z3	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート規格「不要」の場合を除く
	Z4	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m	吸出し防止材有りの場合
市場単価	S	—	

3-7 胴込・裏込コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 21 胴込・裏込コンクリート 代表機材規格一覧

ブロックの種類	ブロックの質量	項目	代表機材規格	備考	
間知ブロック	—	機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)吊能力 2.9t	賃料
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手（特殊）	
			R4	—	
		材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」の場合を除く
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	

大型 ブロック	2,000kg/個 以下	機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手(特殊)	
			R4	—	
		材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
	Z4		—		
	市場単価	S	—		
	2,000kg/個 超え	機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	賃料 (つづき)
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	—	
			R4	—	
		材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
Z2			—		
Z3			—		
Z4	—				
市場単価	S	—			

3-8 胴込・裏込材(砕石)

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 23 胴込・裏込材(砕石) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	—	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	裏込材規格「不要」の

大型 ブロック	2,000kg/個 以下	機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>) 吊能力 2.9t	賃料
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手(特殊)	
			R4	—	
		材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
	Z4		—		
	市場単価	S	—		
	2,000kg/個 超え	機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第3次基準値)]25t 吊	賃料 (つづき)
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	—	
			R4	—	
		材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
Z2			—		
Z3			—		
Z4	—				
市場単価	S	—			

3-8 胴込・裏込材(砕石)

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 23 胴込・裏込材(砕石) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>) 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	—	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	裏込材規格「不要」の

			場合を除く
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-9・3-10 [略]

3-11 現場打基礎コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 29 現場打基礎コンクリート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力2.9t	賃料
	K2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
	K3	—	
労務	R1	型わく工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-12 現場打小口止コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 31 現場打小口止コンクリート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	<u>普通作業員</u>	
	R2	<u>型わく工</u>	
	R3	<u>土木一般世話役</u>	
	R4	<u>特殊作業員</u>	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	

			場合を除く
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-9・3-10 [略]

3-11 現場打基礎コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 29 現場打基礎コンクリート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³) 吊能力2.9t	賃料
	K2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
	K3	—	
労務	R1	型わく工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-12 現場打小口止コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 31 現場打小口止コンクリート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³) 吊能力2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	<u>型わく工</u>	
	R2	<u>普通作業員</u>	
	R3	<u>特殊作業員</u>	
	R4	<u>土木一般世話役</u>	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	

市場単価	S	—	
------	---	---	--

3-13 現場打横帯（隔壁）コンクリート

(1) 略

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 33 現場打横帯（隔壁）コンクリート 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量 0.8m³ 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	型わく工	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-14 現場打天端コンクリート

(1) 略

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 35 現場打天端コンクリート 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量 0.8m³ 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	型わく工	
	R2	普通作業員	
	R3	<u>土木一般世話役</u>	
	R4	<u>特殊作業員</u>	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-15 プレキャスト基礎ブロック

(1) 略

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 36 プレキャスト基礎ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

市場単価	S	—	
------	---	---	--

3-13 現場打横帯（隔壁）コンクリート

(1) 略

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 33 現場打横帯（隔壁）コンクリート 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積 0.8m³ (平積 0.6m³) 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	型わく工	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-14 現場打天端コンクリート

(1) 略

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 35 現場打天端コンクリート 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積 0.8m³ (平積 0.6m³) 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	型わく工	
	R2	普通作業員	
	R3	<u>特殊作業員</u>	
	R4	<u>土木一般世話役</u>	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-15 プレキャスト基礎ブロック

(1) 略

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 36 プレキャスト基礎ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量 0.8m³ 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	(つづき)
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-16 [略]

3-17 プレキャスト小口止ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 37 プレキャスト小口止ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量 0.8m³ 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-18 [略]

3-19 プレキャスト横帯(隔壁)ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 38 プレキャスト横帯(隔壁)ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量 0.8m³ 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	

機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積 0.8m³ (平積 0.6m³) 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	(つづき)
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-16 [略]

3-17 プレキャスト小口止ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 37 プレキャスト小口止ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積 0.8m³ (平積 0.6m³) 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-18 [略]

3-19 プレキャスト横帯(隔壁)ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 38 プレキャスト横帯(隔壁)ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積 0.8m³ (平積 0.6m³) 吊能力 2.9t</u>	賃料
	K2	—	

	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-20 [略]

3-21 プレキャスト巻止ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 39 プレキャスト巻止ブロック 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] バケット容量 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手（特殊）	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-22 [略]

4. [略]

⑥ 石積（張）工

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 石積(練石) (複合)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 5 石積（練石）（複合）代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)]	賃料

	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手（特殊）	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-20 [略]

3-21 プレキャスト巻止ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 39 プレキャスト巻止ブロック 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手（特殊）	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-22 [略]

4. [略]

⑥ 石積（張）工

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 石積(練石) (複合)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3. 5 石積（練石）（複合）代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)]	賃料

		バケット容量 0.28m ³ 吊能力 1.7t 吊	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	石工	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 石張(複合)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 9 石張(複合) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・ <u>超低騒音型</u> ・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] バケット容量 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	石工	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	再生クラッシュラン RC-40	裏込材が有りの場合
	Z3	軽油 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 石積(張)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 11 石積(張) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] バケット容量 0.28m ³ 吊能力 1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・ <u>超低騒音型</u> ・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] バケット容量 0.8m ³ 能力 2.9t	・賃料 ・張工の場合
	K2	—	

		山積 0.28m ³ (<u>平積 0.2m³</u>) 1.7t 吊	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	石工	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	再生クラッシュラン RC-40	
	Z3	軽油 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 石張(複合)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 9 石張(複合) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>) 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	石工	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	再生クラッシュラン RC-40	裏込材が有りの場合
	Z3	軽油 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 石積(張)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 11 石積(張) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.28m ³ (<u>平積 0.2m³</u>) 吊能力 1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>) 吊能力 2.9t	・賃料 ・張工の場合
	K2	—	

	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	石工	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 [略]

3-5 胴込・裏込コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 13 胴込・裏込コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>バケット容量</u> 0.28m ³ 吊能力1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・ <u>超低騒音型</u> ・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力2.9t	・賃料 ・張工の場合
	K2	—	
K3	—		
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	—	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 裏込材(クラッシュラン)

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 15 裏込材(クラッシュラン) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>バケット容量</u> 0.28m ³ 吊能力1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・ <u>超低騒音型</u> ・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力2.9t	・賃料 ・張工の場合

	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	石工	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 [略]

3-5 胴込・裏込コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 13 胴込・裏込コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>山積</u> 0.28m ³ (<u>平積</u> 0.2m ³)吊能力1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)吊能力2.9t	・賃料 ・張工の場合
	K2	—	
K3	—		
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	—	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20)W/C 60%	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 裏込材(クラッシュラン)

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 15 裏込材(クラッシュラン) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>山積</u> 0.28m ³ (<u>平積</u> 0.2m ³)吊能力1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)吊能力2.9t	・賃料 ・張工の場合

	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑦ [略]

⑧ 舗装版切断工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリート舗装版、アスファルト舗装版及びこれらの重複舗装版における舗装版切断に適用する。
なお、切断作業において複数回切断（ステップカット）の有無にかかわらず適用できる。

1-1-1-2 [略]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版切断

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 2 舗装版切断 代表機労材規格一覧

舗装版種別	項目	代表機労材規格	備考	
アスファルト 舗装版	機械	コンクリートカッター [バキューム式(超低騒音型)・湿式・エンジン駆動] 通称(切削深)20cm級 ブレード径φ56cm	舗装版厚が 15cm 以下の 場合	
		コンクリートカッター [バキューム式(超低騒音型)・湿式・エンジン駆動] 通称(切削深)30cm級 ブレード径φ75cm	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
		コンクリートカッター [バキューム式(超低騒音型)・湿式・エンジン駆動] 通称(切削深)40cm級 ブレード径φ96cm	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
コンクリート 舗装版	K2	—		
		—		
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	一般土木世話役	
		R3	普通作業員	
		R4	—	
	材料	Z1	コンクリートカッター (ブレード) 径 18 インチ	舗装版厚が 15cm 以下の 場合
			コンクリートカッター (ブレード) 径 30 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
コンクリートカッター (ブレード) 径 38 インチ			舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
Z2		ガソリン レギュラー スタンド	舗装版厚が 15cm 以下の	

	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑦ [略]

⑧ 舗装版切断工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリート舗装版、アスファルト舗装版及びこれらの重複舗装版における舗装版切断に適用する。

1-1-1-2 [略]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版切断

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 2 舗装版切断 代表機労材規格一覧

舗装版種別	項目	代表機労材規格	備考	
アスファルト 舗装版	機械	コンクリートカッター [バキューム式(超低騒音型)・湿式] 切削深 20cm級 ブレード径φ56cm	舗装版厚が 15cm 以下の 場合	
		コンクリートカッター [バキューム式(超低騒音型)・湿式] 切削深 30cm級 ブレード径φ75cm	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
		コンクリートカッター [バキューム式(超低騒音型)・湿式] 切削深 40cm級 ブレード径φ96cm	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
コンクリート 舗装版	K2	—		
		—		
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	一般土木世話役	
		R3	普通作業員	
		R4	—	
	材料	Z1	コンクリートカッター (ブレード) 径 18 インチ	舗装版厚が 15cm 以下の 場合
			コンクリートカッター (ブレード) 径 30 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
コンクリートカッター (ブレード) 径 38 インチ			舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
Z2		ガソリン レギュラー スタンド	舗装版厚が 15cm 以下の	

			場合		
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 18 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
			Z3	コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
				コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合
			Z4	ガソリン レギュラー スタンド	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合				
市場単価	S	-			

(つづく)
(つづき)

舗装版種別	項目	代表機材規格	備考		
コンクリート + アスファルト (カバー) 舗装版	機械	K1 コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型) ・湿式・ <u>エンジン駆動</u>] <u>通称(切削深)</u> 20cm 級 ブレード径 φ 56cm	全体厚が 15cm 以下の 場合		
		K1 コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型) ・湿式・ <u>エンジン駆動</u>] <u>通称(切削深)</u> 30cm 級 ブレード径 φ 75cm	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合		
		K1 コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型) ・湿式・ <u>エンジン駆動</u>] <u>通称(切削深)</u> 40cm 級 ブレード径 φ 96cm	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合		
	労務	K2	-		
		K3	-		
		R1	特殊作業員		
		R2	一般土木世話役		
	材料	Z1	コンクリートカッタ (ブレード) 径 18 インチ	全体厚が 15cm 以下の 場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 38 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z2	ガソリン レギュラー スタンド	全体厚が 15cm 以下の 場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 18 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z3	コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z4	ガソリン レギュラー スタンド	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		市場単価	S	-	

⑨ 舗装版破碎工

			場合		
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 18 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
			Z3	コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
				コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合
			Z4	ガソリン レギュラー スタンド	舗装版厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合
コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	舗装版厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合				
市場単価	S	-			

(つづく)
(つづき)

舗装版種別	項目	代表機材規格	備考		
コンクリート + アスファルト (カバー) 舗装版	機械	K1 コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型) ・湿式] <u>切削深</u> 20cm 級 ブレード径 φ 56cm	全体厚が 15cm 以下の 場合		
		K1 コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型) ・湿式] <u>切削深</u> 30cm 級 ブレード径 φ 75cm	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合		
		K1 コンクリートカッタ [バキューム式 (超低騒音型) ・湿式] <u>切削深</u> 40cm 級 ブレード径 φ 96cm	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合		
	労務	K2	-		
		K3	-		
		R1	特殊作業員		
		R2	一般土木世話役		
	材料	Z1	コンクリートカッタ (ブレード) 径 18 インチ	全体厚が 15cm 以下の 場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 38 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z2	ガソリン レギュラー スタンド	全体厚が 15cm 以下の 場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 18 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 30 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z3	コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 22 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		Z4	ガソリン レギュラー スタンド	全体厚が 15cm を超え 30cm 以下の場合	
			コンクリートカッタ (ブレード) 径 14 インチ	全体厚が 30cm を超え 40cm 以下の場合	
		市場単価	S	-	

⑨ 舗装版破碎工

1. 適用範囲

[略]

1-1 適用できる範囲

- (1) 機械によるコンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破砕作業及び掘削・積込み作業における以下の場合
 - ・アスファルト舗装版厚 40cm 以下の場合
 - ・コンクリート舗装版厚 35cm 以下の場合
 - ・コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において、全体厚 45cm 以下の場合
 - ・コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において、コンクリート舗装版厚が 15cm 以上 35cm 以下の場合
 - ・破砕塊をバックホウにより掘削・積込を行うことが可能な場合
 - ・バックホウにより直接掘削・積込を行う作業で、舗装版厚 15cm 以下の場合
- (2) 人力によるアスファルト舗装版の破砕作業及び掘削・積込みの場合
- (3) 人力による橋梁舗装版撤去の場合

1-2 適用できない範囲

- (1) 急速施工（舗装版とりこわしから舗装までを1日で完了する施工）、機械による橋梁舗装版撤去の場合
- (2) コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において、全体厚が 45cm を超える場合又は舗装版厚のうちアスファルト層が占める割合が 50%を超える場合
- (3) 人力によるコンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破砕作業及び掘削・積込みの場合

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版破砕

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 2 舗装版破砕 代表機労材規格一覧

障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	項目		代表機労材規格	備考
			機械	労務		
無し	不要	15cm 以下	機械	K1	バックホウ（クローラ型） [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2011年規制）] バケツト容量 0.45m ³	賃料
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	土木一般世話役	
				R2	運転手（特殊）	
				R3	普通作業員	
				R4	—	
		材料	Z1	軽油 パトロール給油		
			Z2	—		
			Z3	—		
			Z4	—		
		市場単価	S	—		
		15cm 超	機械	K1	バックホウ（クローラ型） [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2011年規制）] バケツト容量 0.45m ³	賃料
				K2	大型ブレーカ（油圧ブレーカ） バケツト容量 0.4m ³	

1. 適用範囲

[略]

1-1 適用できる範囲

- (1) 機械によるコンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破砕作業及び掘削・積込みの場合
[新規]
- (2) 人力によるアスファルト舗装版の破砕作業及び掘削・積込みの場合
- (3) 人力による橋梁舗装版撤去の場合

1-2 適用できない範囲

- (1) 急速施工（舗装版とりこわしから舗装までを1日で完了する施工）、機械による橋梁舗装版撤去の場合
- (2) 人力によるコンクリート舗装版、コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版の破砕作業及び掘削・積込みの場合
- (3) コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版において、全体厚が 45cm を超える場合又は舗装版厚のうちアスファルト層が占める割合が 50%を超える場合

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 舗装版破砕

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 2 舗装版破砕 代表機労材規格一覧

障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	項目		代表機労材規格	備考
			機械	労務		
無し	不要	15cm 以下	機械	K1	バックホウ（クローラ型） [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2011年規制）] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	賃料
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	土木一般世話役	
				R2	運転手（特殊）	
				R3	普通作業員	
				R4	—	
		材料	Z1	軽油 パトロール給油		
			Z2	—		
			Z3	—		
			Z4	—		
		市場単価	S	—		
		15cm 超	機械	K1	バックホウ（クローラ型） [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（2011年規制）] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	賃料
				K2	大型ブレーカ（油圧ブレーカ） バケツト容量 0.4m ³	

					アタッチメントのみ	
				K3	—	
			労務	R1	運転手 (特殊)	
				R2	普通作業員	
				R3	土木一般世話役	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	

(つづく)
(つづき)

障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	項目	代表機労材規格		備考
無し	必要	—	機械	K1	バックホウ (クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] <u>バケット容量0.45m³</u>	賃料
				K2	バックホウ用アタッチメント [コンクリート圧砕装置 [大割機]] 開口幅 735~850mm 破砕力 550~980kN <u>適用ショベル0.45~0.6 m³級</u>	
				K3	—	
			労務	R1	普通作業員	
				R2	土木一般世話役	
				R3	運転手 (特殊)	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
			有り	—	—	機械
K2	さく岩機 [コンクリートブレーカ] <u>通称 20kg 級</u>					
K3	—					
労務	R1	特殊作業員				
	R2	普通作業員				
	R3	—				
	R4	—				
材料	Z1	軽油 パトロール給油				
	Z2	—				
	Z3	—				
	Z4	—				
市場単価	S	—				

⑩ 殻運搬

1. 適用範囲

本資料は、構造物撤去工における殻運搬に適用する。

1-1 [略]

					アタッチメントのみ	
				K3	—	
			労務	R1	運転手 (特殊)	
				R2	普通作業員	
				R3	土木一般世話役	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	

(つづく)
(つづき)

障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	項目	代表機労材規格		備考
無し	必要	—	機械	K1	バックホウ (クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] <u>山積 0.45m³ (平積 0.35m³)</u>	賃料
				K2	バックホウ用アタッチメント [コンクリート圧砕装置 [大割機]] 開口幅 735~850mm 破砕力 550~980kN	
				K3	—	
			労務	R1	普通作業員	
				R2	土木一般世話役	
				R3	運転手 (特殊)	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
			有り	—	—	機械
K2	さく岩機 [コンクリートブレーカ] 20kg 級					
K3	—					
労務	R1	特殊作業員				
	R2	普通作業員				
	R3	—				
	R4	—				
材料	Z1	軽油 パトロール給油				
	Z2	—				
	Z3	—				
	Z4	—				
市場単価	S	—				

⑩ 殻運搬

1. 適用範囲

本資料は、構造物撤去工における殻運搬に適用する。

1-1 [略]

1-2 適用できない範囲

- (1) 路面切削作業で発生したアスファルト殻の運搬
- (2) 繊維入りモルタルの吹付法面のとりこわし作業により発生した殻の運搬
- (3) 自動車専用道路を利用する場合
- (4) 運搬距離が60kmを超える場合
- (5) 既設コンクリート構造物のとりこわし等により発生した殻（鉄筋・無筋）を人力で積み込む場合
- (6) 「土木工事標準単価 構造物とりこわし工」によるとりこわし作業（積み込みを含む）が人力施工の場合

2. 施工パッケージ

2-1 殻運搬
(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2. 2 殻運搬 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] <u>通称</u> 10 t 積級	・下記以外の場合 ・タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む
		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] <u>通称</u> 2 t 積級	・積込工法区分が機械積込（小規模土工）の場合 ・タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む
		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] <u>通称</u> 4 t 積級	・賃料 ・殻発生作業が吹付法面とりこわし（モルタル）の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手（一般）	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑪ 吹付法面とりこわし工

1. ~3. [略]

4. 施工パッケージ

4-1 吹付法面とりこわし
(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 4. 2 吹付法面とりこわし 代表機労材規格一覧

集積積込の有無	工法区分	項目	代表機労材規格	備考	
有り	人力施工	機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）] <u>バケット容量</u> 0.5m ³	賃料
			K2	—	

1-2 適用できない範囲

- (1) 路面切削作業で発生したアスファルト殻の運搬
[新規]
- (2) 自動車専用道路を利用する場合
- (3) 運搬距離が60kmを超える場合
- (4) 既設コンクリート構造物のとりこわし等により発生した殻（鉄筋・無筋）を人力で積み込む場合
[新規]

2. 施工パッケージ

2-1 殻運搬
(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2. 2 殻運搬 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	・下記以外の場合 ・タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む
		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2 t 積級	・積込工法区分が機械積込（小規模土工）の場合 ・タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む
		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4 t 積級	・賃料 ・殻発生作業が吹付法面とりこわし（モルタル）の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手（一般）	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑪ 吹付法面とりこわし工

1. ~3. [略]

4. 施工パッケージ

4-1 吹付法面とりこわし
(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 4. 2 吹付法面とりこわし 代表機労材規格一覧

集積積込の有無	工法区分	項目	代表機労材規格	備考	
有り	人力施工	機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）] <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積</u> 0.4m ³)	賃料
			K2	—	

無し	機械施工	労務	K3	—	
			R1	法面工	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
		R4	運転手（特殊）		
		材料	Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
	機械	K	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量</u> 0.5m ³	賃料
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
Z4	—				
市場単価	S	—			
人力施工	機械	K1	—		
		K2	—		
		K3	—		
	労務	R1	法面工		
		R2	土木一般世話役		
		R3	普通作業員		
		R4	—		
	材料	Z1	—		
		Z2	—		
		Z3	—		
Z4		—			
市場単価	S	—			
機械施工	機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量</u> 0.5m ³	賃料	
		K2	—		
		K3	—		
	労務	R1	運転手（特殊）		
		R2	土木一般世話役		
		R3	—		
		R4	—		
	材料	Z1	軽油 パトロール給油		
		Z2	—		
		Z3	—		
Z4		—			
市場単価	S	—			

⑫ アンカー工（ロータリーパーカッション式）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

- 3-1 削孔（アンカー）
(1) 条件区分

無し	機械施工	労務	K3	—	
			R1	法面工	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
		R4	運転手（特殊）		
		材料	Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
	機械	K	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積</u> 0.4m ³)	賃料
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
Z4	—				
市場単価	S	—			
人力施工	機械	K1	—		
		K2	—		
		K3	—		
	労務	R1	法面工		
		R2	土木一般世話役		
		R3	普通作業員		
		R4	—		
	材料	Z1	—		
		Z2	—		
		Z3	—		
Z4		—			
市場単価	S	—			
機械施工	機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積</u> 0.4m ³)	賃料	
		K2	—		
		K3	—		
	労務	R1	運転手（特殊）		
		R2	土木一般世話役		
		R3	—		
		R4	—		
	材料	Z1	軽油 パトロール給油		
		Z2	—		
		Z3	—		
Z4		—			
市場単価	S	—			

⑫ アンカー工（ロータリーパーカッション式）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

- 3-1 削孔（アンカー）
(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 削孔（アンカー） 積算条件区分一覧 [略]

- (注) 1. 上表はアンカー孔の削孔、ドリルパイプの引抜き、ボーリングマシン横移動作業、削孔材料損耗品費の他、削孔水用ポンプ、給水用ポンプ、排水用ポンプ、空気圧縮機、水槽損料、電力に関する経費等、その施工に要するすべての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. 呼び径とは、ドリルパイプ外径（mm）をいう。
3. 転石等土質条件が上表区分に適用しないと判断される場合は、別途検討する。
4. 泥水処理が必要な場合は、別途計上する。
5. 削孔水が現地調達できない場合は、取水に要する費用を別途考慮する。

表 3. 2 土質 [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 削孔（アンカー） 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] スキット型通称 55kW 級	足場工有りの場合
		ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] クローラ型通称 81kW 級	足場工無しの場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	<u>ドリルパイプ</u> φ90mm 用 (1.5m)	呼び径 90mm の場合
		<u>ドリルパイプ</u> φ115mm 用 (1.5m)	呼び径 115mm の場合
		<u>ドリルパイプ</u> φ135mm 用 (1.5m)	呼び径 135mm の場合
		<u>ドリルパイプ</u> φ146mm 用 (1.5m)	呼び径 146mm の場合
	Z2	<u>リングビット</u> φ90mm 用	呼び径 90mm の場合
		<u>リングビット</u> φ115mm 用	呼び径 115mm の場合
		<u>リングビット</u> φ135mm 用	呼び径 135mm の場合
		<u>リングビット</u> φ146mm 用	呼び径 146mm の場合
	Z3	<u>インナーロッド</u> φ90mm 用 (1.5m)	呼び径 90mm の場合
		<u>インナーロッド</u> φ115mm 用 (1.5m)	呼び径 115mm の場合
		<u>インナーロッド</u> φ135mm 用 (1.5m)	呼び径 135mm の場合
		<u>インナーロッド</u> φ146mm 用 (1.5m)	呼び径 146mm の場合
	Z4	<u>インナービット</u> φ90mm 用 (1.5m)	呼び径 90mm の場合
		<u>インナービット</u> φ115mm 用 (1.5m)	呼び径 115mm の場合
		<u>インナービット</u> φ135mm 用 (1.5m)	呼び径 135mm の場合
		<u>インナービット</u> φ146mm 用 (1.5m)	呼び径 146mm の場合
市場単価	S	—	

3-2・3-3 [略]

3-4 ボーリングマシン移設（アンカー）

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 10 ボーリングマシン移設（アンカー） 代表機材規格一覧

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 削孔（アンカー） 積算条件区分一覧 [略]

- (注) 1. 上表はアンカー孔の削孔、ドリルパイプの引抜き、ボーリングマシン横移動作業、削孔材料損耗品費の他、削孔水用ポンプ、給水用ポンプ、排水用ポンプ、空気圧縮機、水槽損料、電力に関する経費等、その施工に要するすべての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. 呼び径とは、ドリルパイプ外径（mm）をいう。
3. 転石等土質条件が上表区分に適用しないと判断される場合は、別途検討する。
4. 泥水処理が必要な場合は、別途計上する。

[新規]

表 3. 2 土質 [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 削孔（アンカー） 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] スキット型 55kW 級	足場工有りの場合
		ボーリングマシン[ロータリパーカッション式] クローラ型 81kW 級	足場工無しの場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	<u>インナーロッド</u> φ90mm 用 (1.5m)	呼び径 90mm の場合
		<u>インナーロッド</u> φ115mm 用 (1.5m)	呼び径 115mm の場合
		<u>インナーロッド</u> φ135mm 用 (1.5m)	呼び径 135mm の場合
		<u>インナーロッド</u> φ146mm 用 (1.5m)	呼び径 146mm の場合
	Z2	<u>インナービット</u> φ90mm 用	呼び径 90mm の場合
		<u>インナービット</u> φ115mm 用	呼び径 115mm の場合
		<u>インナービット</u> φ135mm 用	呼び径 135mm の場合
		<u>インナービット</u> φ146mm 用	呼び径 146mm の場合
	Z3	<u>リングビット</u> φ90mm 用	呼び径 90mm の場合
		<u>リングビット</u> φ115mm 用	呼び径 115mm の場合
		<u>リングビット</u> φ135mm 用	呼び径 135mm の場合
		<u>リングビット</u> φ146mm 用	呼び径 146mm の場合
	Z4	<u>ドリルパイプ</u> φ90mm 用 (1.5m)	呼び径 90mm の場合
		<u>ドリルパイプ</u> φ115mm 用 (1.5m)	呼び径 115mm の場合
		<u>ドリルパイプ</u> φ135mm 用 (1.5m)	呼び径 135mm の場合
		<u>ドリルパイプ</u> φ146mm 用 (1.5m)	呼び径 146mm の場合
市場単価	S	—	

3-2・3-3 [略]

3-4 ボーリングマシン移設（アンカー）

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 10 ボーリングマシン移設（アンカー） 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 最大吊上能力 25t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5 足場 (アンカー)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 11 足場 (アンカー) 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 最大吊上能力 25t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	とび工	
	R2	土木一般世話役	
	R3	普通作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 [略]

3. コンクリート工

① 基礎・裏込砕石工

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 基礎砕石

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 225t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5 足場 (アンカー)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 11 足場 (アンカー) 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 225t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	とび工	
	R2	土木一般世話役	
	R3	普通作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 [略]

3. コンクリート工

① 基礎・裏込砕石工

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 基礎砕石

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 基礎砕石 代表機労材規格一覧

項 目		代表機労材規格	備 考
機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケツ容量 0.8m³</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手 (特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 裏込砕石

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 5 裏込砕石 代表機労材規格一覧

項 目		代表機労材規格	備 考
機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] <u>バケツ容量 0.8m³</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手 (特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

② コンクリート工

1. 適用範囲

本資料は、一般的な構造物（無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物）の人力及び機械によるコンクリート打設に適用する。

1-1 [略]

1-2 適用できない範囲

(1) ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、並びに、橋梁床版の養生工、深礎工、張コンクリート工 (平均厚さ 5cm 以上 10 cm 以下)

表 1. 1 コンクリート構造物の分類

構造物種別	コンクリート構造物の分類
無筋構造物	マッシブな無筋構造物。比較的単純な鉄筋を有する構造物、均しコンクリート等

表 3. 3 基礎砕石 代表機労材規格一覧

項 目		代表機労材規格	備 考
機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積 0.8m³ (平積 0.6m³)</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手 (特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 裏込砕石

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 5 裏込砕石 代表機労材規格一覧

項 目		代表機労材規格	備 考
機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014年規制)] <u>山積 0.8m³ (平積 0.6m³)</u>	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手 (特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

② コンクリート工

1. 適用範囲

本資料は、一般的な構造物（無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物）の人力及び機械によるコンクリート打設に適用する。

1-1 [略]

1-2 適用できない範囲

(1) ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、並びに、橋梁床版の養生工、深礎工

表 1. 1 コンクリート構造物の分類

構造物種別	コンクリート構造物の分類
無筋構造物	<u>重力式擁壁等の</u> マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物 <u>で半重力</u>

鉄筋構造物	水路、ボックスカルバート、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、橋梁床版、 <u>壁高欄</u> 等の鉄筋量の多い構造物等
小型構造物	コンクリート断面積が1 m ² 以下の連続している側溝、笠コンクリート等、コンクリート量が1 m ³ 以下の点在する集水桝、照明基礎、標識基礎等

2. [略]

3. コンクリート打設工法の選定

コンクリート打設工法の選定は図3. 1 及び図3. 2、図3. 3を標準とするが、現場状況等を考慮し、これにより難しい場合は、別途考慮する。

図3. 1～図3. 3 [略]

(参考図)バックホウによるコンクリート打設範囲 [略]

※コンクリート打設地上高さとは、プラス側・マイナス側ともにバックホウ設置面からの高さとする。

4. 施工パッケージ

4-1 コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 4. 5 コンクリート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	コンクリートポンプ車[トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	・無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合
	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ ・ <u>吊能力</u> 2.9 t	・賃料 ・無筋・鉄筋構造物で、バックホウ打設の場合、又は小型構造物バックホウ打設の場合
	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 16 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約17m以下、水平打設距離約17m以下の場合
	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 20 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約25m以下、水平打設距離約18m以下の場合
	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約25m以下、水平打設距離約20m以下の場合
	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 35 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約28m以下、水平打設距離約20m以下の場合
	クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ <u>排出ガス対策型</u> (第2次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 50 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、水平打設距離約30m以下の場合
K2	業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型]熱出力 126MJ/h (30、100kcal/h) <u>燃料識別</u> 灯油	・賃料 ・無筋・鉄筋構造物で特殊養生(練炭、ジェットヒータ)の場合、または小型構造物で特殊養生(ジェットヒータ)の場合

鉄筋構造物	水路、 <u>ボックスカルバート</u> 、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、 <u>突桁又は扶壁式の擁壁及び橋台、橋脚</u> 、橋梁床版等の鉄筋量の多い構造物等
小型構造物	コンクリート断面積が1 m ² 以下の連続している側溝、笠コンクリート等、コンクリート量が1 m ³ 以下の点在する集水桝、照明基礎、標識基礎等

2. [略]

3. コンクリート打設工法の選定

コンクリート打設工法の選定は図3. 1 及び図3. 2、図3. 3を標準とするが、現場状況等を考慮し、これにより難しい場合は、別途考慮する。

図3. 1～図3. 3 [略]

(参考図)バックホウによるコンクリート打設範囲 [略]

[新設]

4. 施工パッケージ

4-1 コンクリート

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 4. 5 コンクリート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	コンクリートポンプ車[トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	・無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合
	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)・2.9 t 吊	・賃料 ・無筋・鉄筋構造物で、バックホウ打設の場合、又は小型構造物バックホウ打設の場合
	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 16 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約17m以下、水平打設距離約17m以下の場合
	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 20 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約25m以下、水平打設距離約18m以下の場合
	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 25 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約25m以下、水平打設距離約20m以下の場合
	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 35 t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約28m以下、水平打設距離約20m以下の場合
	クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型]	・賃料 ・小型構造物で、水平打設距離約30m以下の場合
K2	業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型]熱出力 126MJ/h (30、100kcal/h) <u>油種</u> 灯油	・賃料 ・無筋・鉄筋構造物で特殊養生(練炭、ジェットヒータ)の場合、または小型構造物で特殊養生(ジェットヒータ)の場合

	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手（特殊）	・無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合、無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合、又は小型構造物バックホウ打設の場合
材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C55%	
	Z2	軽油 パトロール給油	・無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合、無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合、又は小型構造物バックホウ打設の場合、又は小型構造物で、水平打設距離約30m以下の場合
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	・無筋・鉄筋構造物で特殊養生（練炭、ジェットヒータ）の場合、又は小型構造物で特殊養生（ジェットヒータ）の場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

5. 施工歩掛

- 5-1・5-2 [略]
- 5-3 養生工（特殊養生）
- 5-3-1 [略]

- 5-3-2 特殊養生工
 - (1) 機種を選定
 - 機械・規格は、次表を標準とする。

表 5. 4 機種を選定

機 械 名	規 格
業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ]	[油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30、100kcal/h) 燃料識別 灯油

6. 単価表

- (1) ~ (3) [略]
- (4) 養生工（特殊養生・ジェットヒータ）10m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5. 5
普 通 作 業 員		〃		〃
業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] 運転	[油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30、100kcal/h) 燃料識別 灯油	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項

	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手（特殊）	・無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合、無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合、又は小型構造物バックホウ打設の場合
材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C55%	
	Z2	軽油 パトロール給油	・無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合、無筋・鉄筋構造物バックホウ打設の場合、又は小型構造物バックホウ打設の場合、又は小型構造物で、水平打設距離約30m以下の場合
	Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	・無筋・鉄筋構造物で特殊養生（練炭、ジェットヒータ）の場合、又は小型構造物で特殊養生（ジェットヒータ）の場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

5. 施工歩掛

- 5-1・5-2 [略]
- 5-3 養生工（特殊養生）
- 5-3-1 [略]

- 5-3-2 特殊養生工
 - (1) 機種を選定
 - 機械・規格は、次表を標準とする。

表 5. 4 機種を選定

機 械 名	規 格
業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ]	[油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30、100kcal/h) 油種 灯油

6. 単価表

- (1) ~ (3) [略]
- (4) 養生工（特殊養生・ジェットヒータ）10m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5. 5
普 通 作 業 員		〃		〃
業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] 運転	[油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30、100kcal/h) 油種 灯油	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項

業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ]	[油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30、100kcal/h) <u>燃料識別</u> 灯油	機-16	燃料消費量 →表 5. 6 機械賃料数量 →1.20
------------------------	---	------	-------------------------------

③ [略]

④ コンクリート継目工

1. 適用範囲

本資料は、目地板、止水板、シール材を設置する作業及びペイント塗装に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 目地板

(1) 目地板 (厚さ 10~20mm) を水門、樋門・樋管、水路、ボックスカルバート、擁壁、天端コンクリート、地覆・壁高欄等に設置する 目地板が、工事当り 0.3m²以上の場合

1-1-2 止水板

(1) 止水板 (幅 100~300mm) を水門、樋門・樋管、水路、ボックスカルバート、擁壁等に設置する 止水板が、工事当り 3.2m 以上の場合

1-1-3 シール材

(1) シーリング材を新設の橋梁地覆、壁高欄、砂防 (収縮継手部)、ボックスカルバート、水路等に設置する シール材が、工事当り 4.8m 以上の場合

1-1-4 [略]

2. ~6. [略]

4. フリューム類据付工

① コンクリート分水槽据付

1. ・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリート分水槽

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 3 コンクリート分水槽 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機 械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.28m ³ 吊能力 1.7 t	・賃料 ・製品質量が 50kg/基以上 1,200kg/基以下の場合
		バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.5m ³ 吊能力 2.9 t	・賃料 ・製品質量が 1,200kg/基を超え 2,800kg/基以下の場合
	K2	—	
	K3	—	
労 務	R1	運転手 (特殊)	製品質量が 800kg/基以下の場合
		普通作業員	製品質量が 800kg/基超えの場合
	R2	普通作業員	製品質量が 800kg/基以下の場合
		運転手 (特殊)	製品質量が 800kg/基超えの場合
R3	土木一般世話役		

業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ]	[油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30、100kcal/h) <u>油種</u> 灯油	機-16	燃料消費量 →表 5. 6 機械賃料数量 →1.20
------------------------	---	------	-------------------------------

③ [略]

④ コンクリート継目工

1. 適用範囲

本資料は、目地板、止水板、シール材を設置する作業及びペイント塗装に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 目地板

(1) 目地板 (厚さ 10~20mm) を水門、樋門・樋管、水路、ボックスカルバート、擁壁、天端コンクリート、地覆・壁高欄等に設置する場合

1-1-2 止水板

(1) 止水板 (幅 100~300mm) を水門、樋門・樋管、水路、ボックスカルバート、擁壁等に設置する場合

1-1-3 シール材

(1) シーリング材を新設の橋梁地覆、壁高欄、砂防 (収縮継手部)、ボックスカルバート、水路等に設置する場合

1-1-4 [略]

2. ~6. [略]

4. フリューム類据付工

① コンクリート分水槽据付

1. ・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリート分水槽

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 3 コンクリート分水槽 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機 械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.28m ³ (<u>平積 0.2m³</u>) 吊能力 1.7 t	・賃料 ・製品質量が 50kg/基以上 1,200kg/基以下の場合
		バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積 0.4m³</u>) 吊能力 2.9 t	・賃料 ・製品質量が 1,200kg/基を超え 2,800kg/基以下の場合
	K2	—	
	K3	—	
労 務	R1	運転手 (特殊)	製品質量が 800kg/基以下の場合
		普通作業員	製品質量が 800kg/基超えの場合
	R2	普通作業員	製品質量が 800kg/基以下の場合
		運転手 (特殊)	製品質量が 800kg/基超えの場合
R3	土木一般世話役		

	R4	特殊作業員	
材 料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 [略]

② ボックスカルバート機械据付

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ボックスカルバート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 ボックスカルバート 積算条件区分一覧 [略]

(注) 1. 上表は、現場内小運搬（運搬車から直接据え付ける場合も含む）、ボックスカルバートの設置、PC 鋼材による縦締め、基礎砕石、均しコンクリート、型枠（剥離材塗布及びケレン作業を含む）、養生、敷モルタル、目地モルタル、グラウト材、レバーブロック、油圧ジャッキ（ポンプを含む）、グラウトポンプ、ハンドミキサーの損料等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
ただし、ボックスカルバート材料費、PC 鋼材材料費、定着金具材料費は含まない。

2. ～ 4. [略]

5. ボックスカルバート、PC 鋼材、定着金具の材料費は、必要数量を別途計上する。

6. ～ 12. [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 ボックスカルバート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備 考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	・ 賃料 ・ 内空高 2.5m 以下の場合
	K2	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・低騒音型・排出ガス対策型 (2011 年規制)] <u>最大吊上能力</u> 50 t 吊	・ 賃料 ・ 内空高 2.5m 超の場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 ボックスカルバート（材料費）

ボックスカルバート（材料費）の積算条件区分はない。

積算単位は、m とする。

	R4	特殊作業員	
材 料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 [略]

② ボックスカルバート機械据付

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ボックスカルバート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 ボックスカルバート 積算条件区分一覧 [略]

(注) 1. 上表は、現場内小運搬（運搬車から直接据え付ける場合も含む）、ボックスカルバートの設置、PC 鋼材による縦締め、基礎砕石、均しコンクリート、型枠（剥離材塗布及びケレン作業を含む）、養生、敷モルタル、目地モルタル、グラウト材、レバーブロック、油圧ジャッキ（ポンプを含む）、グラウトポンプ、ハンドミキサーの損料等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
ただし、PC 鋼材材料費、定着金具材料費は含まない。

2. ～ 4. [略]

5. PC 鋼材、定着金具の材料費は、必要量を別途計上する。

6. ～ 12. [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 ボックスカルバート 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備 考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] 25 t 吊	・ 賃料 ・ 内空高 2.5m 以下の場合
	K2	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・低騒音型・排出ガス対策型 (2011 年規制)] 50 t 吊	・ 賃料 ・ 内空高 2.5m 超の場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	<u>ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1000 T-25 土被り 0.2～3.0m</u>	<u>作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.0 m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、1.25m≤H≤2.5m の場合</u>
		<u>ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1000 T-25 土被り 0.2～3.0m</u>	<u>作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.0 m/個で、内空幅・内空高が 2.5m<B≤3.75m、1.25m<H≤2.5m の場合</u>
		<u>ボックスカルバート RC B1500×H1000×L1500 T-25 土被り 0.2～3.0m</u>	<u>作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.5 m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、0m<H≤1.25m の場合</u>
		<u>ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1500 T-25 土被り 0.2～3.0m</u>	<u>作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が 1.5 m/個で、内空幅・内空高が 1.25m<B≤2.5m、1.25m<H≤2.5m の場合</u>

5. 河川・水路工

① 消波根固めブロック工

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 消波根固めブロック製作

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 消波根固めブロック製作 積算条件区分一覧 (積算単位：個)

消波根固め ブロック規格	型枠の種類	生コンク リート規 格	1個当り コンクリート 体積(m ³ /個)	1個当り型枠 面積(m ² /個)	養生工の種別
2.5t 以下	鋼製型枠 異形ブロック 10t 未満	(表 3. 2)	(表 3. 3)	(表 3. 3)	(表 3. 6)
	FRP 製型枠				
	異形ブロック 10t 未満				
直積ブロック用鋼製型枠	(表 3. 4)		(表 3. 4)		
異形ブロック 10t 未満					
鋼製型枠					
2.5t を超え 5.5 t 以下	異形ブロック 10t 未満				
	FRP 製型枠				
	異形ブロック 10t 未満				
2.5t を超え 5.5 t 以下	直積ブロック用鋼製型枠	(表 3. 4)	(表 3. 4)	(表 3. 4)	(表 3. 6)
	異形ブロック 10t 未満				
	鋼製型枠				

(つづく)

(つぎ)

項目	代表機材規格	備 考
材料	ボックスカルバート RC B3000×H2000× L1500 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5 m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m、 1.25m≤H≤2.5mの場合
	ボックスカルバート RC B3000×H3000× L1500 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5 m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m、 2.5m<H≤3.75mの場合
	ボックスカルバート RC B600×H600× L2000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0 m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m、0m<H ≤1.25mの場合
	ボックスカルバート RC B1500×H1000× L2000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0 m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤ 2.5m、 0m<H≤1.25mの場合
	ボックスカルバート RC B1000×H1500× L2000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0 m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m、1.25m <H≤2.5mの場合
	ボックスカルバート RC B1500×H1500× L2000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0 m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m、 1.25m<H≤2.5mの場合
Z2	—	
Z3	—	
Z4	—	
市場単価	S	—

5. 河川・水路工

① 消波根固めブロック工

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 消波根固めブロック製作

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 消波根固めブロック製作 積算条件区分一覧 (積算単位：個)

消波根固め ブロック規格	型枠の種類	生コンクリ ート規 格	1個当り コンクリート 体積(m ³ /個)	1個当り型枠 面積(m ² /個)	養生工の種別
2.5t 以下	鋼製型枠 10t 未満	(表 3. 2)	(表 3. 3)	(表 3. 3)	(表 3. 6)
	FRP 製型枠				
	直積ブロック用 鋼製型枠				
鋼製型枠 10t 未満	(表 3. 4)		(表 3. 4)		
FRP 製型枠					
直積ブロック用 鋼製型枠					

5.5tを超え 11.0t以下	鋼製型枠 <u>異形ブロック</u> 10t未満	(表 3. 5)	(表 3. 5)
	鋼製型枠 <u>異形ブロック</u> 10t以上20t未満		
	FRP製型枠 <u>異形ブロック</u> 10t未満		
	FRP製型枠 <u>異形ブロック</u> 10t以上20t未満		
	直積ブロック用鋼製型枠 <u>異形ブロック</u> 10t未満		
	直積ブロック用鋼製型枠 <u>異形ブロック</u> 10t以上30t未満		

(注) 1.・2. [略]
3. 鉄筋(連結用フック含む)の加工・組立費用及び材料費は、別途計上する。
4.・5. [略]

表 3. 2 ～表 3. 5 [略]

(2) 代表機材規格
下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 7 消波根固めブロック製作 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 21-8-25 (20) W/C 55%	
	Z2	鋼製型枠 <u>異形ブロック</u> 10t未満	賃料
	Z3	<u>軽油</u> <u>パトロール給油</u>	
	Z4	<u>練炭</u> <u>マッチ練炭4号</u>	<u>給熱養生の場合</u>
市場単価	S	—	

3-2 消波根固めブロック横取り

(1) 条件区分
条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 8 [略]

表 3. 9 クレーン規格

積算条件	区分
クレーン規格	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) <u>最大吊能力</u> 25t吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) <u>最大吊能力</u> 35t吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) <u>最大吊能力</u> 50t吊

(2) 代表機材規格
下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 10 消波根固めブロック横取り 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

5.5tを超え 11.0t以下	鋼製型枠 10t未満	(表 3. 5)	(表 3. 5)
	鋼製型枠		
	10t以上20t未満 FRP製型枠		
	[新設]		
	直積ブロック用 鋼製型枠		
	[新設]		

(注) 1.・2. [略]
3. 鉄筋(連結用フック含む)の加工・組立費用及び材料費は、市場単価による。
4.・5. [略]

表 3. 2 ～表 3. 5 [略]

(2) 代表機材規格
下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 7 消波根固めブロック製作 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 21-8-25 (20) W/C 55%	
	Z2	鋼製型枠 <u>異形ブロック</u> 10t未満	賃料
	Z3	<u>練炭</u> <u>マッチ練炭4号</u>	<u>給熱養生の場合</u>
	Z4	<u>軽油</u> <u>パトロール給油</u>	
市場単価	S	—	

3-2 消波根固めブロック横取り

(1) 条件区分
条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 8 [略]

表 3. 9 クレーン規格

積算条件	区分
クレーン規格	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25t吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 35t吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 50t吊

(2) 代表機材規格
下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 10 消波根固めブロック横取り 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料 消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m ≤ H ≤ 3m」の場合
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 50t 吊	賃料
K2	—		
K3	—		
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	運転手（特殊）	消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m ≤ H ≤ 3m」の場合
材料	Z1	軽油 パトロール給油	消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m ≤ H ≤ 3m」の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 消波根固めブロック積込

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.12 消波根固めブロック積込 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料 消波根固めブロック規格「2.5t以下」
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 50t 吊	賃料
K2	—		
K3	—		
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	

機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³) 吊能力 2.9t	賃料 消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m ≤ H ≤ 3m」の場合
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 50t 吊	賃料
K2	—		
K3	—		
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	運転手（特殊）	消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m ≤ H ≤ 3m」の場合
材料	Z1	軽油 パトロール給油	消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m ≤ H ≤ 3m」の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 消波根固めブロック積込

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.12 消波根固めブロック積込 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³) 吊能力 2.9t	賃料 消波根固めブロック規格「2.5t以下」
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 50t 吊	賃料
K2	—		
K3	—		
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	

	R3	普通作業員	
	R4	運転手（特殊）	消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
材料	Z1	軽油 パトロール給油	消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 消波根固めブロック荷卸

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 14 消波根固めブロック荷卸 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014 年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料 消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊能力</u> 50t 吊	賃料
K2	—		
K3	—		
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	運転手（特殊）	消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
材料	Z1	軽油 パトロール給油	消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5 消波根固めブロック据付

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 16 消波根固めブロック据付 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

	R3	普通作業員	
	R4	運転手（特殊）	消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
材料	Z1	軽油 パトロール給油	消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 消波根固めブロック荷卸

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 14 消波根固めブロック荷卸 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014 年規制）〕 <u>山積</u> 0.8m ³ <u>（平積 0.6m³）</u> 吊能力 2.9t	賃料 消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕50t 吊	賃料
K2	—		
K3	—		
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	運転手（特殊）	消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
材料	Z1	軽油 パトロール給油	消波根固めブロック規格「2.5t 以下」
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5 消波根固めブロック据付

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 16 消波根固めブロック据付 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
----	--------	----

機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.8m ³ 吊能力 2.9t	賃料 据付場所が「陸上」かつ消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m≤H≤3m」の場合
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊上能力</u> 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊上能力</u> 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>最大吊上能力</u> 50t 吊	賃料
K2	—		
K3	—		
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	据付場所が「陸上」の場合
		潜水士	据付場所が「水中」の場合
	R3	特殊作業員	据付場所が「陸上」の場合
		潜水連絡員	据付場所が「水中」の場合
	R4	運転手（特殊）	据付場所が「陸上」かつ消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m≤H≤3m」の場合
潜水送気員		据付場所が「水中」の場合	
材料	Z1	連結金具（根固めブロック用）φ16	
	Z2	軽油 パトロール給油	据付場所が「陸上」かつ消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m≤H≤3m」の場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 消波根固めブロック運搬

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³) 吊能力 2.9t	賃料 据付場所が「陸上」かつ消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m≤H≤3m」の場合
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕50t 吊	賃料
K2	—		
K3	—		
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	据付場所が「陸上」の場合
		潜水士	据付場所が「水中」の場合
	R3	特殊作業員	据付場所が「陸上」の場合
		潜水連絡員	据付場所が「水中」の場合
	R4	運転手（特殊）	据付場所が「陸上」かつ消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m≤H≤3m」の場合
潜水送気員		据付場所が「水中」の場合	
材料	Z1	連結金具（根固めブロック用）φ16	
	Z2	軽油 パトロール給油	据付場所が「陸上」かつ消波根固めブロック規格「2.5t以下」かつブロック移動距離「12m以下」かつ据付面高さ(H)「-3m≤H≤3m」の場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 消波根固めブロック運搬

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 20 消波根固めブロック運搬 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	トラック[普通型] <u>通称 10~11t 積級</u>
	K2	—
	K3	—
労務	R1	運転手 (一般)
	R2	—
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	軽油 パトロール給油
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

② 捨石工

1. 適用範囲

本資料は、河川及び海岸工事における護岸の根固めを目的とした、捨石工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 捨石投入

(1) 捨石質量 500kg 以下/個の陸上からの施工を行う場合

1-1-2 [略]

1-2 適用できない範囲

1-2-1 砕石投入

(1) 最大作業半径 24m を超える場合

(2) 最大作業半径 7m 以下かつ設置高さ (捨石投入底面) -5m 未満の場合

1-2-2 表面均し

(1) 潜水土等を用いて水中部の表面を均す場合

(2) 最大作業半径 24m を超える場合

(3) 最大作業半径 7m 以下かつ設置高さ (表面均し面) -5m 未満の場合

(4) 最大作業半径 7m を超え 15m 以下かつ設置高さ (表面均し面) -7m 未満の場合

(5) 最大作業半径 15m を超え 24m 以下かつ設置高さ (表面均し面) -5m 未満の場合

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

[略]

注) [略]

図 2-1 施工フロー

3. 施工パッケージ

3-1 捨石投入

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 捨石投入 積算条件区分一覧

(積算単位: m³)

最大作業半径及び設置高さ(捨石投入底面)
<u>最大作業半径 7m 以下かつ 設置高さ -5m 以上</u>
<u>最大作業半径 7m を超え 12m 以下かつ 設置高さ -7m 以上</u>
<u>最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ -7m 以上</u>
<u>最大作業半径 7m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ -7m 未満</u>
<u>最大作業半径 15m を超え 24m 以下</u>

(注) 1. 上表は、捨石の投入の他、ワイヤモッコ等、その施工に必要なすべて

表 3. 20 消波根固めブロック運搬 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	トラック[普通型] 10~11t 積
	K2	—
	K3	—
労務	R1	運転手 (一般)
	R2	—
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	軽油 パトロール給油
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

② 捨石工

1. 適用範囲

本資料は、河川及び海岸工事における護岸の根固めを目的とした、捨石工に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 捨石

(1) 捨石質量 1,000kg 以下/個の陸上からの施工を行う場合

1-1-2 [略]

1-2 適用できない範囲

[新設]

1-2-1 表面均し (水中部)

(1) 潜水土等を用いて水中部の表面を均す場合

[新設]

[新設]

[新設]

[新設]

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

[略]

注) [略]

[新設]

3. 施工パッケージ

3-1 捨石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 捨石 積算条件区分一覧

(積算単位: m³)

最大作業半径
<u>9m 以下</u>
<u>9m を超え 24m 以下</u>
[新設]
[新設]
[新設]

(注) 1. 上表は、捨石の投入の他、ワイヤモッコ等、その施工に必要なすべて

の機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
ただし、捨石（材料費）は含まない。

2. 作業半径は、機械を水平で安定した地盤に設置した場合における機械の旋回中心から捨石投入箇所までの水平距離である。
3. 設置高さは、施工基面（機械設置基面）から捨石投入底面である。
4. 捨石規格、作業半径、現場条件により、表 3. 2 に示す代表機械により難しい場合は、別途考慮する。
5. 捨石の材料費は別途計上する。

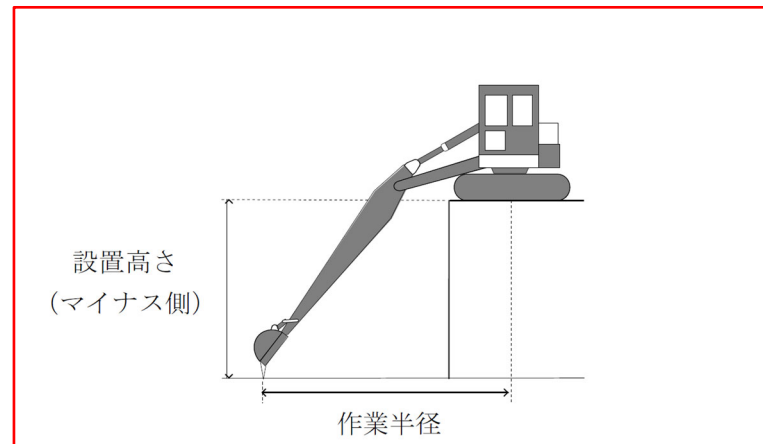


図 3-1 (参考図) バックホウによる捨石投入・表面均しにおける作業半径及び設置高さ

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 捨石投入 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考	
機械	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] バケット容量 0.8m ³	・最大作業半径 7m 以下 かつ設置高さ-5m 以上の場合 ・賃料	
	バックホウ (クローラ型) [超ロングアーム型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] バケット容量 0.45m ³	・最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ設置高さ-7m 以上の場合	
	バックホウ (クローラ型) [超ロングアーム型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] バケット容量 0.3m ³	・最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ設置高さ-7m 以上の場合	
	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 最大吊上能力 25t 吊	・最大作業半径 7m を超え 15m 以下 かつ設置高さ-7m 未満の場合 ・最大作業半径 15m を超え 24m 以下の場合 ・賃料	
K2	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] バケット容量 0.8m ³	・最大作業半径 7m を超え 15m 以下 かつ設置高さ-7m 未満の場合 ・最大作業半径 15m を超え 24m 以下の場合 ・賃料	
K3	—		
労務	R1	運転手 (特殊)	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	・最大作業半径 7m を超え 15m 以下 かつ設置高さ-7m 未満の場合 ・最大作業半径 15m を超え 24m 以下の場合
	R4	土木一般世話役	

の機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
ただし、捨石（材料費）は含まない。

[新設]

[新設]

2. 捨石規格、作業半径、現場条件により、表 3. 2 に示す代表機械により難しい場合は、別途考慮する。
3. 捨石の材料費は別途計上する。

[新設]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 捨石 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考	
機械	[新設]	[新設]	
	[新設]	[新設]	
	[新設]	[新設]	
	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 25t 吊	・最大作業半径が 9m を超え 24m 以下の場合 ・賃料	
K2	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	[新設] [新設]	
K3	—		
労務	R1	運転手 (特殊)	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	[新設] 最大作業半径が 9m を超え 24m 以下の場合
	R4	土木一般世話役	

材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 [略]

3-3 表面均し

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 4 表面均し 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

最大作業半径及び設置高さ (表面均し面)
最大作業半径 7m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上
最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上
最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上
最大作業半径 15m を超え 24m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上

- (注) 1. 根固め等のために投入した捨石の表面均し、人力による間詰、中詰石の現場内小運搬 (20m 程度) 等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。
 2. 作業半径は、機械を水平で安定した地盤に設置した場合における機械の旋回中心から表面均し箇所までの水平距離である。
 3. 設置高さは、施工基面 (機械設置基面) から表面均し面である。
 4. 最大作業半径 15m を超え 24m 以下かつ設置高さ-5m 以上の場合、バックホウ (クローラ型) 標準型・バケット容量 0.8m³ を捨石投入箇所から施工箇所に搬入して施工することを標準とする。
 5. 捨石規格、作業半径、現場条件により、表 3. 5 に示す代表機械により難い場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 5 表面均し 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] バケット容量 0.8m ³	・最大作業半径 7m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上の場合 ・最大作業半径 15m を超え 24m 以下 かつ設置高さ-5m 以上の場合 ・賃料
		・最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ設置高さ-7m 以上の場合
		・最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ設置高さ-7m 以上の場合
	K2	—
K3	—	
労務	R1	普通作業員
	R2	運転手 (特殊)
	R3	土木一般世話役
	R4	—
材料	Z1	軽油 パトロール給油
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 [略]

3-3 表面均し

(1) 条件区分

表面均しにおける積算条件区分はない。
積算単位は、m²とする。

[新設]

- (注) 1. 根固め等のために投入した捨石の表面均し、人力による間詰、中詰石の現場内小運搬等、その施工に必要なすべての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。

[新設]

[新設]

[新設]

2. 捨石規格、作業半径、現場条件により、表 3. 4 に示す代表機械により難い場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 4 表面均し 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	[新設]
		[新設]
		[新設]
	K2	—
K3	—	
労務	R1	普通作業員
	R2	運転手 (特殊)
	R3	土木一般世話役
	R4	—
材料	Z1	軽油 パトロール給油
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

③ 多自然型護岸工（木杭打工）

1. [略]

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

[略]

(注) [略]

[図 2-1 施工フロー](#)

3. 施工パッケージ

3-1 木杭打

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 1 多自然型護岸工 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型） [標準型・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>バケット容量 0.5m³</u>	
	K2	大型ブレーカ（ベースマシン含まず）[油圧式] <u>通称 600～800kg 級</u>	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	—	
材料	Z1	杭丸太（松） 長さ 2.0m×末口 12cm 皮付 先端加工	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

6. 管水路工

① 遠心力コンクリート管（B形）機械布設

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 遠心力鉄筋コンクリート管（B形）

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 4 遠心力鉄筋コンクリート管（B形） 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
----	---------	----

③ 多自然型護岸工（木杭打工）

1. [略]

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

[略]

(注) [略]

[\[新設\]](#)

3. 施工パッケージ

3-1 木杭打

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 1 多自然型護岸工 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型） [標準型・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>山積 0.5m³ (平積 0.4m³)</u>	
	K2	大型ブレーカ（ベースマシン含まず）[油圧式] <u>質量 600～800kg 級</u>	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	—	
材料	Z1	杭丸太（松） 長さ 2.0m×末口 12cm 皮付 先端加工	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

6. 管水路工

① 遠心力コンクリート管（B形）機械布設

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 遠心力鉄筋コンクリート管（B形）

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 4 遠心力鉄筋コンクリート管（B形） 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
----	---------	----

機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 25 t 吊	・賃料 ・管径が 1,100~1,350mm の場合
	K2	バックホウ(クローラ型)[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>バケット容量</u> 0.45m ³ <u>吊能力</u> 2.9 t	・賃料 ・管径が 200~1,000mm の場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	管径が 200~1,000mm の場合
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>200mm×長さ 2,000mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 200mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>250mm×長さ 2,000mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 250mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>300mm×長さ 2,000mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 300mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>350mm×長さ 2,000mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 350mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>400mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 400mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>450mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 450mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>500mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 500mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>600mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 600mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>700mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 700mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>800mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 800mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>900mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 900mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>1,000mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 1,000mm の場合
	遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>1,100mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 1,100mm の場合	
	遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>1,200mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 1,200mm の場合	
	遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 <u>1,350mm×長さ 2,430mm</u>	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 1,350mm の場合	
	Z2	軽油 パトロール給油	管径が 200~1,000mm の場合
	Z3	—	
	Z4	—	
	市場単価	S	—

7. 道路工

① 安定処理工

1. 適用範囲

本資料は、地盤改良工における安定処理に適用する。

機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25 t 吊	・賃料 ・管径が 1,100~1,350mm の場合
	K2	バックホウ(クローラ型)[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] <u>山積</u> 0.45m ³ (<u>平積</u> 0.35m ³) 2.9 t <u>吊</u>	・賃料 ・管径が 200~1,000mm の場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	管径が 200~1,000mm の場合
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 200 長さ 2.00m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 200mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 250 長さ 2.00m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 250mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 300 長さ 2.00m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 300mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 350 長さ 2.00m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 350mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 400 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 400mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 450 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 450mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 500 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 500mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 600 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 600mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 700 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 700mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 800 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 800mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 900 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 900mm の場合
		遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 1,000 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 1,000mm の場合
	遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 1,100 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 1,100mm の場合	
	遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 1,200 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 1,200mm の場合	
	遠心力鉄筋コンクリート管 B形 外圧1種 径 1,350 長さ 2.43m	作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 1,350mm の場合	
	Z2	軽油 パトロール給油	管径が 200~1,000mm の場合
	Z3	—	
	Z4	—	
	市場単価	S	—

7. 道路工

① 安定処理工

1. 適用範囲

本資料は、地盤改良工における安定処理に適用する。

(1) [略]

(2) バックホウ混合

現場条件によりスタビライザによる施工が出来ない路床改良工事のうち1層の混合深さが路床1m以下における現位置での混合作業、又は構造物基礎の地盤改良工事で1層の混合深さが2m以下における現位置での混合作業に適用する。

なお、固化材は石灰やセメント系にかかわらず適用する。ただし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。

- ① 施工現場が狭隘な場合
- ② 転石がある場合
- ③ 移設出来ない埋設物がある場合

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 安定処理 積算条件区分一覧 (積算単位: m²)

使用機種	施工箇所	混合深さ	固化材 100m ² 当り 使用量	混合回数	固化材区分
スタビライザ	-	0.6m以下	(実数入力)	1回	(表 3. 2)
		0.6mを超え1m以下		2回	
バックホウ	路床			1m以下	
	構造物基礎	1m以下		-	
		1mを超え2m以下	-		

(注) [略]

表 3. 2 固化材区分

積算条件	区分
固化材 区分	セメント系 (一般軟弱土用) バラ
	セメント系 (一般軟弱土用) フレコン
	セメント系 (特殊土用) バラ
	セメント系 (特殊土用) フレコン
	セメント系 (高有機質土用) バラ
	セメント系 (高有機質土用) フレコン
	生石灰 バラ
	生石灰 フレコン
	各種

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 安定処理 代表機材規格一覧

使用機種	施工箇所	項目	代表機材規格	備考
スタビライザ	-	機械	K1 スタビライザ (路床改良用) [排出ガス対策型 (第2次基準値)] 混合幅 2.0m 混合深さ 0.6m	混合深さ 0.6m以下の 場合
			K1 スタビライザ (路床改良用) [排出ガス対策型 (第2次基準値)] 混合幅 2.0m 混合深さ 1.2m	混合深さ 0.6mを超え 1m以下の 場合
		K2	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付] 排出ガス対策型 (第3次基準値) バケット容量 0.45m ³ 吊能力 2.9 t	賃料

(1) [略]

(2) バックホウ混合

現場条件によりスタビライザによる施工が出来ない路床改良工事のうち1層の混合深さが路床1m以下における現位置での混合作業、又は構造物基礎の地盤改良工事で1層の混合深さが2m以下における現位置での混合作業に適用する。

なお、固化材はセメント系のみとし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。

- ① 施工現場が狭隘な場合
- ② 転石がある場合
- ③ 移設出来ない埋設物がある場合

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 安定処理 積算条件区分一覧 (積算単位: m²)

使用機種	施工箇所	混合深さ	固化材 100m ² 当り 使用量	混合回数
スタビライザ	-	0.6m以下	(実数入力)	1回
		0.6mを超え1m以下		2回
バックホウ	路床			1m以下
	構造物基礎	1m以下		-
		1mを超え2m以下	-	

(注) [略]

[新規]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 安定処理 代表機材規格一覧

使用機種	施工箇所	項目	代表機材規格	備考
スタビライザ	-	機械	K1 スタビライザ [路床改良用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 幅 2.0m 深 0.6m	混合深さ 0.6m以下の 場合
			K1 スタビライザ [路床改良用・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 幅 2.0m 深 1.2m	混合深さ 0.6mを超え 1m以下の 場合
		K2	バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付] 排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 吊能力 2.9 t	賃料

			K3	ブルドーザ湿地〔低騒音型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 <u>通称</u> 7 t級	賃料
	労務		R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
	材料		Z1	セメント系固化材 特殊土用・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
	市場単価		S	—	

(つづく)
(つづき)

使用機種	施工箇所	項目	代表機材規格	備考	
バックホウ	路床	機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付〕 排出ガス対策型（2014年規制） <u>バケット容量</u> 0.5m ³ 吊能力2.9 t	賃料
			K2	タイヤローラ〔普通型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕質量8～20 t	賃料
			K3	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕質量3～ <u>5</u> t	賃料
		労務	R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	セメント系固化材 特殊土用・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
		バックホウ	構造物基礎	機械	K1
K2	振動ローラ（舗装用）〔ハンドガイド式・低騒音型〕質量0.6～0.7 t				賃料
K3	—				
労務	R1			土木一般世話役	
	R2			<u>運転手（特殊）</u>	
	R3			<u>特殊作業員</u>	
	R4			普通作業員	
材料	Z1			セメント系固化材 特殊土用・フレコン・1トンパック	
	Z2			軽油 パトロール給油	
	Z3			—	
	Z4			—	
市場単価	S			—	

(注) [略]

			K3	ブルドーザ湿地〔低騒音型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕7 t級	賃料
	労務		R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
	材料		Z1	セメント系固化材 特殊土用・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
	市場単価		S	—	

(つづく)
(つづき)

使用機種	施工箇所	項目	代表機材規格	備考	
バックホウ	路床	機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付〕 排出ガス対策型（2014年規制） <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積</u> 0.4m ³) 吊能力2.9 t	賃料
			K2	タイヤローラ〔普通型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕質量8～20 t	賃料
			K3	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕質量3～ <u>4</u> t	賃料
		労務	R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	セメント系固化材 特殊土用・フレコン・1トンパック	
			Z2	軽油 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
		バックホウ	構造物基礎	機械	K1
K2	振動ローラ（舗装用）〔ハンドガイド式・低騒音型〕質量0.6～0.7 t				賃料
K3	—				
労務	R1			土木一般世話役	
	R2			<u>特殊作業員</u>	
	R3			<u>運転手（特殊）</u>	
	R4			普通作業員	
材料	Z1			セメント系固化材 特殊土用・フレコン・1トンパック	
	Z2			軽油 パトロール給油	
	Z3			—	
	Z4			—	
市場単価	S			—	

(注) [略]

② 路盤工

1. 適用範囲

本資料は、アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。

1-1 適用できる範囲

- (1) [略]
- (2) 車道・路肩部における上層路盤（粒度調整砕石路盤）及び下層路盤のうち、施工幅が3.1m以上の場合
- (3)～(5) [略]

1-2 [略]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1・3-2 [略]

3-3 下層路盤（歩道部）

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 10 下層路盤（歩道部） 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量</u> 0.09m ³	
	K2	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕質量3～ <u>5</u> t	賃料
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 上層路盤（車道・路肩部）

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 15 上層路盤（車道・路肩部） 代表機労材規格一覧

材料	平均幅員	項目	代表機労材規格	備考
瀝青安定処理	1.4m未満	機械	K1	振動ローラ（舗装用）〔ハンドガイド式〕質量0.5～0.6t
			K2	振動コンパクタ〔前進型〕 <u>通称</u> 40～60kg <u>級</u>

② 路盤工

1. 適用範囲

本資料は、アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。

1-1 適用できる範囲

- (1) [略]
- (2) 車道・路肩部における上層路盤（粒度調整砕石路盤）及び下層路盤の施工幅が3.1m以上の場合
- (3)～(5) [略]

1-2 [略]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1・3-2 [略]

3-3 下層路盤（歩道部）

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 10 下層路盤（歩道部） 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>山積</u> 0.09m ³ (<u>平積</u> 0.07m ³)	
	K2	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕質量3～ <u>4</u> t	賃料
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 上層路盤（車道・路肩部）

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 15 上層路盤（車道・路肩部） 代表機労材規格一覧

材料	平均幅員	項目	代表機労材規格	備考
瀝青安定処理	1.4m未満	機械	K1	振動ローラ（舗装用）〔ハンドガイド式〕質量0.5～0.6t
			K2	振動コンパクタ〔前進型〕 <u>質量</u> 40～60kg

	1.4m以上 3.0m以下	労務	K3	—	
			R1	特殊作業員	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)	
			Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
				アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
			Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
			Z4	軽油 パトロール給油	
	市場単価	S	—		
	1.4m以上 3.0m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 1.4~3.0m	賃料
			K2	振動ローラ [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~5 t	賃料
			K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~4 t	賃料
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手 (特殊)	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)	
			Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用				タックコートの場合	
Z3	軽油 パトロール給油				
Z4	—				
市場単価	S	—			

(つづく)
(つづき)

材料	平均幅員	項目	代表機材規格	備考	
瀝青安定処理	3.0m超	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m	賃料
			K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 質量 10 t	賃料
			K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 質量 13~14 t	賃料
		労務	R1	普通作業員	
			R2	<u>運転手 (特殊)</u>	
			R3	<u>特殊作業員</u>	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)	
			Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
				アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
			Z3	軽油 パトロール給油	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
		粒度調整碎石	—	機械	K1
K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 質量 10 t				賃料
K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型]				賃料

	1.4m以上 3.0m以下	労務	K3	—	
			R1	特殊作業員	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)	
			Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
				アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
			Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
			Z4	軽油 パトロール給油	
	市場単価	S	—		
	1.4m以上 3.0m以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 1.4~3.0m	賃料
			K2	振動ローラ [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~4 t	賃料
			K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~4 t	賃料
		労務	R1	普通作業員	
			R2	特殊作業員	
			R3	運転手 (特殊)	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)	
			Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用				タックコートの場合	
Z3	軽油 パトロール給油				
Z4	—				
市場単価	S	—			

(つづく)
(つづき)

材料	平均幅員	項目	代表機材規格	備考	
瀝青安定処理	3.0m超	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m	賃料
			K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 質量 10 t <u>締固め幅 2.1m</u>	賃料
			K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 質量 13 t	賃料
		労務	R1	普通作業員	
			R2	<u>特殊作業員</u>	
			R3	<u>運転手 (特殊)</u>	
			R4	土木一般世話役	
		材料	Z1	アスファルト混合物 (安定処理材) AS 安定処理 (40)	
			Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
				アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
			Z3	軽油 パトロール給油	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
		粒度調整碎石	—	機械	K1
K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 質量 10 t				賃料
K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型]				賃料

			(2014年規制)] 質量13~14t	
	労務	R1	運転手(特殊)	
		R2	普通作業員	
		R3	特殊作業員	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生粒度調整砕石 RM-40	
		Z2	軽油 パトロール給油	
		Z3	-	
		Z4	-	
	市場単価	S	-	

3-4 上層路盤(歩道部)

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.18 上層路盤(歩道部) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>バケット容量0.09m³</u>	
	K2	振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 質量3~ <u>5</u> t	賃料
	K3	-	
労務	R1	運転手(特殊)	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生粒度調整砕石 RM-30	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

③ アスファルト舗装

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目	代表機労材規格		備考
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式] 質量0.5~0.6t	
		K2	振動コンパクト [前進型] <u>通称</u> 40~60kg <u>級</u>	

			(2014年規制)] 質量13~14t	
	労務	R1	運転手(特殊)	
		R2	普通作業員	
		R3	特殊作業員	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生粒度調整砕石 RM-40	
		Z2	軽油 パトロール給油	
		Z3	-	
		Z4	-	
	市場単価	S	-	

3-4 上層路盤(歩道部)

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.18 上層路盤(歩道部) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] <u>山積0.09m³ (平積0.07m³)</u>	
	K2	振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 質量3~ <u>4</u> t	賃料
	K3	-	
労務	R1	運転手(特殊)	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生粒度調整砕石 RM-30	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

③ アスファルト舗装

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部) 代表機労材規格一覧

平均幅員	項目	代表機労材規格		備考
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式] 質量0.5~0.6t	
		K2	振動コンパクト [前進型] <u>質量</u> 40~60kg	

	労務	K3	—		
		R1	特殊作業員		
		R2	普通作業員		
		R3	土木一般世話役		
	R4	—			
	材料	Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³	
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³	
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種(1.90以上2.50 t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド		
		Z4	軽油 パトロール給油		
	市場単価	S	—		
	1.4m 以上 3.0m 以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 1.4~ <u>3.2</u> m	賃料
			K2	振動ローラ [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~ <u>5</u> t	賃料
K3			タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~4 t	賃料	
労務		R1	普通作業員		
		R2	<u>運転手 (特殊)</u>		
		R3	<u>特殊作業員</u>		
		R4	土木一般世話役		
材料		Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³	
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³	
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
		Z3	軽油 パトロール給油		
		Z4	—		
市場単価		S	—		
3.0m 超	機械	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m	賃料	
		K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (<u>2014年規制</u>)] 質量 10 t	賃料	
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (<u>2014年規制</u>)] 質量 13t~ <u>14</u> t	賃料	
	労務	R1	普通作業員		

	労務	K3	—		
		R1	特殊作業員		
		R2	普通作業員		
		R3	土木一般世話役		
	R4	—			
	材料	Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³	
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³	
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種(1.90以上2.50 t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
		Z3	ガソリン レギュラー スタンド		
		Z4	軽油 パトロール給油		
	市場単価	S	—		
	1.4m 以上 3.0m 以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 1.4~ <u>3.0</u> m	賃料
			K2	振動ローラ [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~ <u>4</u> t	賃料
K3			タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~4 t	賃料	
労務		R1	普通作業員		
		R2	<u>特殊作業員</u>		
		R3	<u>運転手 (特殊)</u>		
		R4	土木一般世話役		
材料		Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³	
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³	
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
		Z3	軽油 パトロール給油		
		Z4	—		
市場単価		S	—		
3.0m 超	機械	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m	賃料	
		K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (<u>第2次基準値</u>)] 質量 10 t <u>締固め幅 2.1m</u>	賃料	
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (<u>2011年規制</u>)] 質量 13t	賃料	
	労務	R1	普通作業員		

		R2	<u>運転手(特殊)</u>	
		R3	<u>特殊作業員</u>	
		R4	土木一般世話役	
		Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³
	細粒度アスコン (13)		標準締固め後密度 2.30t/m ³	
	開粒度アスコン (13)		標準締固め後密度 1.94t/m ³	
	再生粗粒度アスコン (20)		標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50t/m ³ 未満)	
	Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
		アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
	Z3	軽油 パトロール給油		
	Z4	—		
	市場単価	S	—	

		R2	<u>特殊作業員</u>	
		R3	<u>運転手(特殊)</u>	
		R4	土木一般世話役	
		Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³
	細粒度アスコン (13)		標準締固め後密度 2.30t/m ³	
	開粒度アスコン (13)		標準締固め後密度 1.94t/m ³	
	再生粗粒度アスコン (20)		標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50t/m ³ 未満)	
	Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
		アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
	Z3	軽油 パトロール給油		
	Z4	—		
	市場単価	S	—	

表 3. 5 表層(車道・路肩部) 代表機材規格一覧

平均幅員	項目	代表機材規格	備考	
1.4m 未満	機械	K1	振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式] 質量0.5~0.6t	
		K2	振動コンパクタ [前進型] <u>通称</u> 40~60kg <u>級</u>	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	—	
	材料	Z1	密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³
			密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50 t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
	Z3	ガソリン レギュラー スタンド		
Z4	軽油 パトロール給油			
市場単価	S	—		
1.4m 以上 3.0m 以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・ 排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅1.4~ <u>3.2</u> m	賃料
		K2	振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低 騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量3~ <u>5</u> t	賃料
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第 3次基準値)] 質量3~4t	賃料
	労務	R1	普通作業員	
		R2	<u>運転手(特殊)</u>	
		R3	<u>特殊作業員</u>	
		R4	土木一般世話役	

表 3. 5 表層(車道・路肩部) 代表機材規格一覧

平均幅員	項目	代表機材規格	備考	
1.4m 未満	機械	K1	振動ローラ(舗装用) [ハンドガイド式] 質量0.5~0.6t	
		K2	振動コンパクタ [前進型] <u>質量</u> 40~60kg	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	—	
	材料	Z1	密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³
			密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50 t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
	Z3	ガソリン レギュラー スタンド		
Z4	軽油 パトロール給油			
市場単価	S	—		
1.4m 以上 3.0m 以下	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・低騒音型・ 排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅1.4~ <u>3.0</u> m	賃料
		K2	振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低 騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量3~ <u>4</u> t	賃料
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第 3次基準値)] 質量3~4t	賃料
	労務	R1	普通作業員	
		R2	<u>特殊作業員</u>	
		R3	<u>運転手(特殊)</u>	
		R4	土木一般世話役	

	材料	Z1	密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³	
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³	
			密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50 t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
		Z3	軽油 パトロール給油		
		Z4	—		
		市場単価	S	—	

(つづく)

(つづき)

平均幅員	項目		代表機材規格	備考
3.0m 超	機械	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m	賃料
		K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 質量 10t	賃料
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 質量 13t~14	賃料
	労務	R1	普通作業員	
		R2	運転手 (特殊)	
		R3	特殊作業員	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³
			密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50 t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
	Z3	軽油 パトロール給油		
	Z4	—		
	市場単価	S	—	

3-2 基層 (歩道部)・中間層 (歩道部)・表層 (歩道部)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.8 基層 (歩道部)・中間層 (歩道部) 代表機材規格一覧

平均幅員	項目		代表機材規格	備考
1.4m 未満	機械	K1	振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6 t	
		K2	振動コンパクト [前進型] 通称 40~60kg 級	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	

	材料	Z1	密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³	
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³	
			密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50 t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
		Z3	軽油 パトロール給油		
		Z4	—		
		市場単価	S	—	

(つづく)

(つづき)

平均幅員	項目		代表機材規格	備考
3.0m 超	機械	K1	アスファルトフィニッシャー [ホイール型・低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制)] 舗装幅 2.3~6.0m	賃料
		K2	ロードローラ [マカダム・超低騒音型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 質量 10t 締固め幅 2.1m	賃料
		K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2011年規制)] 質量 13t	賃料
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	運転手 (特殊)	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.35t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.30t/m ³
			開粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 1.94t/m ³
			密粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90 以上 2.50 t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
	Z3	軽油 パトロール給油		
	Z4	—		
	市場単価	S	—	

3-2 基層 (歩道部)・中間層 (歩道部)・表層 (歩道部)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.8 基層 (歩道部)・中間層 (歩道部) 代表機材規格一覧

平均幅員	項目		代表機材規格	備考
1.4m 未満	機械	K1	振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6 t	
		K2	振動コンパクト [前進型] 質量 40~60kg	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	

	材料	R2	普通作業員		
		R3	土木一般世話役		
		R4	—		
		Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.20t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³	
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.40 t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用		タックコートの場合		
	Z3	ガソリン レギュラー スタンド			
	Z4	軽油 パトロール給油			
	市場単価	S	—		
	1.4m以上	機械	K1	アスファルトフィニッシャー [クローラ型・ <u>排出ガス対策型</u> <u>(第3次基準値)</u>] 舗装幅 1.4~3.0m	
			K2	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低騒 音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~ <u>5</u> t	賃料
			K3	—	
労務		R1	普通作業員		
		R2	特殊作業員		
		R3	運転手 (特殊)		
		R4	土木一般世話役		
材料		Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.20t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³	
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.40 t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
		Z3	軽油 パトロール給油		
Z4		—			
市場単価	S	—			

表 3. 9 表層 (歩道部) 代表機材規格一覧

平均幅員	項目	代表機材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6 t	
		K2	振動コンパクト [前進型] <u>通称</u> 40~60kg <u>級</u>	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	—	
	材料	Z1	再生密粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生密粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.40 t/m ³ 未満)
Z2		アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
		アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
Z3	ガソリン レギュラー スタンド			

	材料	R2	普通作業員		
		R3	土木一般世話役		
		R4	—		
		Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.20t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³	
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.40 t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用		タックコートの場合		
	Z3	ガソリン レギュラー スタンド			
	Z4	軽油 パトロール給油			
	市場単価	S	—		
	1.4m以上	機械	K1	アスファルトフィニッシャー [クローラ型] 舗装幅 1.4~3.0m	
			K2	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低騒 音型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 質量 3~ <u>4</u> t	賃料
			K3	—	
労務		R1	普通作業員		
		R2	特殊作業員		
		R3	運転手 (特殊)		
		R4	土木一般世話役		
材料		Z1	再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 2.20t/m ³	
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³	
			再生粗粒度アスコン (20)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.40 t/m ³ 未満)	
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
		Z3	軽油 パトロール給油		
Z4		—			
市場単価	S	—			

表 3. 9 表層 (歩道部) 代表機材規格一覧

平均幅員	項目	代表機材規格	備考	
1.4m未満	機械	K1	振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 質量 0.5~0.6 t	
		K2	振動コンパクト [前進型] <u>質量</u> 40~60kg	
		K3	—	
	労務	R1	特殊作業員	
		R2	普通作業員	
		R3	土木一般世話役	
		R4	—	
	材料	Z1	再生密粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生密粒度アスコン (13)	標準締固め後密度 各種 (1.90以上2.40 t/m ³ 未満)
Z2		アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合	
		アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合	
Z3	ガソリン レギュラー スタンド			

		Z4	軽油 パトロール給油	
	市場単価	S	—	
1.4m以上	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [クローラ型・ <u>排出ガス対策型</u> (第3次基準値)] 舗装幅 1.4~3.0m	
		K2	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・ <u>排出ガス対策型</u> (第3次基準値)] 質量 3~ <u>5</u> t	賃料
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	運転手 (特殊)	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生密粒度アスコン (13)	標準締め後密度 2.20t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締め後密度 2.15t/m ³
			再生密粒度アスコン (13)	標準締め後密度 各種 (1.90以上 2.40 t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 パトロール給油	
	Z4	—		
市場単価	S	—		

3-3 アスカーブ

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.12 アスカーブ 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] <u>通称</u> 2 t 積級	タイヤ損料費及び補修費 (良好) を含む
	K2	アスファルトカーバ [ガソリンエンジン駆動式] <u>施工能力</u> 4.0~4.5m ³ /h	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	運転手 (一般)	
材料	Z1	再生細粒度アスコン (13)	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

④ マンホール据付

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャストマンホール

		Z4	軽油 パトロール給油	
	市場単価	S	—	
1.4m以上	機械	K1	アスファルトフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅 1.4~3.0 m	
		K2	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・超低騒音型・ <u>排出ガス対策型</u> (第3次基準値)] 質量 3~ <u>4</u> t	賃料
		K3	—	
	労務	R1	普通作業員	
		R2	特殊作業員	
		R3	運転手 (特殊)	
		R4	土木一般世話役	
	材料	Z1	再生密粒度アスコン (13)	標準締め後密度 2.20t/m ³
			細粒度アスコン (13)	標準締め後密度 2.15t/m ³
			再生密粒度アスコン (13)	標準締め後密度 各種 (1.90以上 2.40 t/m ³ 未満)
		Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z3	軽油 パトロール給油	
	Z4	—		
市場単価	S	—		

3-3 アスカーブ

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.12 アスカーブ 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2 t 積級	タイヤ損料費及び補修費 (良好) を含む
	K2	アスファルトカーバ [ガソリンエンジン駆動式] 4.0~4.5m ³ /h	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	運転手 (一般)	
材料	Z1	再生細粒度アスコン (13)	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

④ マンホール据付

1.・2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャストマンホール

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 プレキャストマンホール 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.5m ³ 吊能力 2.9 t	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	<u>運転手（特殊）</u>	
	R3	<u>土木一般世話役</u>	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	下記の材料を各1個ずつ組み合わせて1つの代表材料とする。 ・下水道用マンホール蓋φ600mm 浮上防止型かぎ付 T-25 ・調整リング 600×50 ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（斜壁 600×750×300mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（直壁 750×300mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（管取付け壁 750×600mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（底版）	作業区分が据付又は据付・撤去、製品質量が2,000kg/基以下の場合
		下記の材料を各1個ずつ組み合わせて1つの代表材料とする。 ・下水道用マンホール蓋φ600mm 浮上防止型かぎ付 T-25 ・調整リング 600×150 ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（斜壁 600×750×600mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（直壁 750×1800mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（管取付け壁 750×1800mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（底版）	作業区分が据付又は据付・撤去、製品質量が2,000kg/基を超え4,000kg/基以下の場合
	Z2	軽油 バトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑤ プレキャストL形側溝

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャストL形側溝

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 プレキャストL形側溝 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.5m ³ 吊能力 2.9 t	

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 プレキャストマンホール 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積 0.4m³</u>) 吊能力 2.9 t	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	<u>土木一般世話役</u>	
	R3	<u>運転手（特殊）</u>	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	下記の材料を各1個ずつ組み合わせて1つの代表材料とする。 ・下水道用マンホール蓋φ600mm 浮上防止型かぎ付 T-25 ・調整リング 600×50 ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（斜壁 600×750×300mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（直壁 750×300mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（管取付け壁 750×600mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（底版）	作業区分が据付又は据付・撤去、製品質量が2,000kg/基以下の場合
		下記の材料を各1個ずつ組み合わせて1つの代表材料とする。 ・下水道用マンホール蓋φ600mm 浮上防止型かぎ付 T-25 ・調整リング 600×150 ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（斜壁 600×750×600mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（直壁 750×1800mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（管取付け壁 750×1800mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（底版）	作業区分が据付又は据付・撤去、製品質量が2,000kg/基を超え4,000kg/基以下の場合
	Z2	軽油 バトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑤ プレキャストL形側溝

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャストL形側溝

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 プレキャストL形側溝 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.5m ³ (<u>平積 0.4 m³</u>) 吊能力 2.9 t	

	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	鉄筋コンクリートL形 300（500×155×600）	作業区分が据付又は据付・撤去の場合
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S		

⑥ 暗渠排水管布設

1. 適用範囲

本資料は、硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付、撤去、据付・撤去作業に適用する。ただし、管水路工事、水路工事及びほ場整備工事等には適用しない。

1-1 [略]

1-2 適用できない範囲

1-2-1 暗渠排水管

[削る。]

- (1) 直管の呼び径 50mm 未満及び 400mm を超える据付、撤去、据付・撤去の場合
- (2) 波状管の呼び径 50mm 未満及び 1,500mm を超える据付、撤去、据付・撤去の場合
- (3) 網状管の呼び径 50mm 未満及び 400mm を超える据付、撤去、据付・撤去の場合
- (4) 埋設を行わない地上露出配管の据付、撤去の場合

1-2-2 [略]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 暗渠排水管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 暗渠排水管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	管種別	管規格	呼び径	継手材料費
据付	直管		50 ～ 150mm	—
			200 ～ 400mm	
	網状管		50 ～ 150mm	要
				不要
			200 ～ 400mm	要
				不要
	波状管		50 ～ 150mm	要
				不要
200 ～ 400mm		要		
		不要		

(つづく)

(つづき)

	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	鉄筋コンクリートL形 300（500×155×600）	作業区分が据付又は据付・撤去の場合
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S		

⑥ 暗渠排水管布設

1. 適用範囲

本資料は、硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付、撤去、据付・撤去作業に適用する。ただし、管水路工事、水路工事及びほ場整備工事等には適用しない。

1-1 [略]

1-2 適用できない範囲

1-2-1 暗渠排水管

(1) 人力施工で持ち上げ高が 2 m 以上の場合

- (2) 直管の呼び径 50mm 未満及び 400mm を超える据付、撤去、据付・撤去の場合
- (3) 波状管の呼び径 50mm 未満及び 1,500mm を超える据付、撤去、据付・撤去の場合
- (4) 網状管の呼び径 50mm 未満及び 400mm を超える据付、撤去、据付・撤去の場合
- (5) 埋設を行わない地上露出配管の据付、撤去の場合

1-2-2 [略]

2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 暗渠排水管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3. 1 暗渠排水管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	管種別	[新規]	呼び径	継手材料費
据付	直管		50 ～ 150mm	—
			200 ～ 400mm	
	網状管		50 ～ 150mm	要
				不要
			200 ～ 400mm	要
				不要
	波状管		50 ～ 150mm	要
				不要
200 ～ 400mm		要		
		不要		

(つづく)

(つづき)

作業区分	管種別	(表3.2)	呼び径	継手材料費			
据付	波状管		450 ~ 600mm	要			
				不要			
			700 ~ 1,000mm	要			
				不要			
			1,100 ~ 1,500mm	要			
				不要			
撤去	直管		50 ~ 150mm	-			
			200 ~ 400mm				
	網状管		50 ~ 150mm				
			200 ~ 400mm				
	波状管		50 ~ 150mm				
			200 ~ 400mm				
			450 ~ 600mm				
			700 ~ 1,000mm				
			1,100 ~ 1,500mm				
	据付・撤去		直管			50 ~ 150mm	-
						200 ~ 400mm	
網状管		50 ~ 150mm	要				
			不要				
200 ~ 400mm		要					
			不要				
波状管		50 ~ 150mm	要				
			不要				
		200 ~ 400mm	要				
			不要				
		450 ~ 600mm	要				
			不要				
		700 ~ 1,000mm	要				
			不要				
1,100 ~ 1,500mm		要					
		不要					

- (注) 1. ~ 4. [略]
5. 継手材料費の要とは継手接合（形状は問わない）の場合であり、不要とは継手を必要としない場合及び排水管価格に含む場合である。
6. [略]

表3.2 管規格

積算条件	区 分	
管規格	シングル構造 呼径 75mm	ダブル構造 呼径 100mm
	〃 呼径 100mm	〃 呼径 150mm
	〃 呼径 150mm	〃 呼径 200mm
	〃 呼径 200mm	〃 呼径 250mm
	〃 呼径 250mm	〃 呼径 300mm
	〃 呼径 300mm	〃 呼径 350mm
	〃 呼径 350mm	〃 呼径 400mm
	〃 呼径 400mm	〃 呼径 450mm
	〃 呼径 450mm	〃 呼径 500mm
	〃 呼径 500mm	〃 呼径 600mm

作業区分	管種別	[新規]	呼び径	継手材料費			
据付	波状管		450 ~ 600mm	要			
				不要			
			700 ~ 1,000mm	要			
				不要			
			1,100 ~ 1,500mm	要			
				不要			
撤去	直管		50 ~ 150mm	-			
			200 ~ 400mm				
	網状管		50 ~ 150mm				
			200 ~ 400mm				
	波状管		50 ~ 150mm				
			200 ~ 400mm				
			450 ~ 600mm				
			700 ~ 1,000mm				
			1,100 ~ 1,500mm				
	据付・撤去		直管			50 ~ 150mm	-
						200 ~ 400mm	
網状管		50 ~ 150mm	要				
			不要				
200 ~ 400mm		要					
			不要				
波状管		50 ~ 150mm	要				
			不要				
		200 ~ 400mm	要				
			不要				
		450 ~ 600mm	要				
			不要				
		700 ~ 1,000mm	要				
			不要				
1,100 ~ 1,500mm		要					
		不要					

- (注) 1. ~ 4. [略]
5. 継手材料費は継手接合（形状は問わない）の場合であり、継手を必要としない場合及び排水管価格に含む場合は計上しない。
6. [略]

	〃 呼径 600mm	〃 呼径 700mm
	〃 呼径 700mm	〃 呼径 800mm
	〃 呼径 800mm	〃 呼径 900mm
	〃 呼径 900mm	〃 呼径 1,000mm
	〃 呼径 1,000mm	〃 呼径 1,100mm
	ダブル構造 呼径 50mm	〃 呼径 1,200mm
	〃 呼径 60mm	〃 呼径 1,350mm
	〃 呼径 65mm	〃 呼径 1,500mm
	〃 呼径 75mm	各種

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 3 暗渠排水管 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考	
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] バケット容量 0.5~0.6m ³ 吊能力 2.9t	管種別が波状管、呼び径が 700~1,500mm の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	管種別が波状管、呼び径が 700~1,500mm の場合
	R4	運転手(特殊)	管種別が波状管、呼び径が 700~1,500mm の場合
材料	Z1	暗渠排水管 直管 呼び径 75mm ポリエチレン吸水管	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が直管、呼び径が 50~150mm の場合
		暗渠排水管 直管 呼び径 300mm ポリエチレン吸水管	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が直管、呼び径が 200~400mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 75mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が 50~150mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 300mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が 200~400mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 500mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管、呼び径が 450~600mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 800mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管、呼び径が 700~1,000mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 1,200mm 高密度ポリエチレン管(ダブル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管、呼び径が 1,100~1,500mm の場合
	Z2	軽油 パトロール給油	管種別が波状管、呼び径が 700~1,500mm の場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 フィルター材

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 フィルター材 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] バケット容量 0.5~0.6m ³ 吊能力 2.9t

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 暗渠排水管 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考	
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] 山積 0.5m ³ (平積 0.4m ³) 吊能力 2.9t	管種別が波状管、呼び径が 700~1,500mm の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	管種別が波状管、呼び径が 700~1,500mm の場合
	R4	運転手(特殊)	管種別が波状管、呼び径が 700~1,500mm の場合
材料	Z1	暗渠排水管 直管 呼び径 75mm ポリエチレン吸水管	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が直管、呼び径が 50~150mm の場合
		暗渠排水管 直管 呼び径 300mm ポリエチレン吸水管	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が直管、呼び径が 200~400mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 75mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が 50~150mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 300mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が 200~400mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 500mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管、呼び径が 450~600mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 800mm 高密度ポリエチレン管(シングル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管、呼び径が 700~1,000mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 1,200mm 高密度ポリエチレン管(ダブル構造)	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管、呼び径が 1,100~1,500mm の場合
	Z2	軽油 パトロール給油	管種別が波状管、呼び径が 700~1,500mm の場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 フィルター材

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 4 フィルター材 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(2014年規制)] 山積 0.5m ³ (平積 0.4m ³) 吊能力 2.9t

	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑦ 路側工（据付け）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 5 歩車道境界ブロック 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量</u> 0.09m ³ 吊能力0.9t	・賃料 ・ブロック規格②③⑤⑥の場合
		バックホウ（クローラ型）〔超小旋回型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.28m ³ 吊能力1.7t	・賃料 ・ブロック規格⑦の場合
	K2	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.8m ³	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型わく工	・均し基礎コンクリート有りの場合
運転手（特殊）		・基礎砕石有り、かつ均し基礎コンクリート無しの場合 ・ブロック規格⑦で基礎砕石無し、かつ均し基礎コンクリート無しの場合	
材料	Z1	歩車道境界ブロック A種(150/170×200×600)	設置の場合
		歩車道境界ブロック B種(180/205×250×600)	
		歩車道境界ブロック C種(180/210×300×600)	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	均し基礎コンクリート有りの場合
Z3	再生クラッシュラン RC-40	基礎砕石有りの場合	
Z4	軽油 パトロール給油	ブロック規格①④、かつ基礎砕石無しの場合を除く	
市場単価	S	—	

※ [略]

	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	再生クラッシュラン RC-40	
	Z2	軽油 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑦ 路側工（据付け）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 5 歩車道境界ブロック 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>山積</u> 0.09m ³ (<u>平積</u> 0.07m ³)吊能力0.9t	・賃料 ・ブロック規格②③⑤⑥の場合
		バックホウ（クローラ型）〔超小旋回型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.28m ³ (<u>平積</u> 0.2m ³)吊能力1.7t	・賃料 ・ブロック規格⑦の場合
	K2	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積</u> 0.6m ³)	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型わく工	・均し基礎コンクリート有りの場合
運転手（特殊）		・基礎砕石有り、かつ均し基礎コンクリート無しの場合 ・ブロック規格⑦で基礎砕石無し、かつ均し基礎コンクリート無しの場合	
材料	Z1	歩車道境界ブロック A種(150/170×200×600)	設置の場合
		歩車道境界ブロック B種(180/205×250×600)	
		歩車道境界ブロック C種(180/210×300×600)	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	均し基礎コンクリート有りの場合
Z3	再生クラッシュラン RC-40	基礎砕石有りの場合	
Z4	軽油 パトロール給油	ブロック規格①④、かつ基礎砕石無しの場合を除く	
市場単価	S	—	

※ [略]

3-2 地先境界ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 8 地先境界ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>バケット容量</u> 0.09m ³ 吊能力 0.9t	・賃料 ・ブロック規格⑤⑥の場合
		バックホウ（クローラ型）〔超小旋回型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.28m ³ 吊能力 1.7t	・賃料 ・ブロック規格⑦の場合
	K2	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>バケット容量</u> 0.8m ³	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型わく工	・均し基礎コンクリート有りの場合
運転手（特殊）		・基礎砕石有り、かつ均し基礎コンクリート無しの場合 ・ブロック規格⑦で基礎砕石無し、かつ均し基礎コンクリート無しの場合	
材料	Z1	地先境界ブロック A種(120×120×600)	設置の場合
		地先境界ブロック B種(150×120×600)	
		地先境界ブロック C種(150×150×600)	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	均し基礎コンクリート有りの場合
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	基礎砕石有りの場合
Z4	軽油 パトロール給油	ブロック規格①②③④、かつ基礎砕石無しの場合を除く	
市場単価	S	—	

※ [略]

⑧ 路側工（取外し）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 歩車道境界ブロック撤去 地先境界ブロック撤去 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔超小旋回型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 <u>バケット容量</u> 0.22m ³	賃料
	K2	—	

3-2 地先境界ブロック

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 8 地先境界ブロック 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 <u>山積</u> 0.09m ³ (<u>平積 0.07m³</u>) 吊能力 0.9t	・賃料 ・ブロック規格⑤⑥の場合
		バックホウ（クローラ型）〔超小旋回型・クレーン機能付・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.28m ³ (<u>平積 0.20m³</u>) 吊能力 1.7t	・賃料 ・ブロック規格⑦の場合
	K2	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（2014年規制）〕 <u>山積</u> 0.8m ³ (<u>平積 0.6m³</u>)	・賃料 ・基礎砕石有りの場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	型わく工	・均し基礎コンクリート有りの場合
運転手（特殊）		・基礎砕石有り、かつ均し基礎コンクリート無しの場合 ・ブロック規格⑦で基礎砕石無し、かつ均し基礎コンクリート無しの場合	
材料	Z1	地先境界ブロック A種(120×120×600)	設置の場合
		地先境界ブロック B種(150×120×600)	
		地先境界ブロック C種(150×150×600)	
	Z2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C60%	均し基礎コンクリート有りの場合
	Z3	再生クラッシュラン RC-40	基礎砕石有りの場合
Z4	軽油 パトロール給油	ブロック規格①②③④、かつ基礎砕石無しの場合を除く	
市場単価	S	—	

※ [略]

⑧ 路側工（取外し）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 歩車道境界ブロック撤去、地先境界ブロック撤去

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 歩車道境界ブロック撤去 地先境界ブロック撤去 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	小型バックホウ（クローラ型）〔超小旋回型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 <u>山積</u> 0.22m ³ (<u>平積 0.16m³</u>)	賃料
	K2	—	

	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	<u>運転手（特殊）</u>	
	R4	<u>特殊作業員</u>	<u>再利用区分が再利用の場合</u>
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑨ 防雪柵設置工

1. 防雪柵設置及び撤去工

3. 施工パッケージ

1-1・1-2 [略]

1-3 施工パッケージ

1-3-1 防雪柵

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 防雪柵 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	トラック [クレーン装置付] <u>通称</u> 4~4.5 t <u>積級</u> 吊能力 2.9 t	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

1-3-2~1-4 [略]

2 [略]

⑩ 橋梁排水管設置工

1. 2. [略]

3. 施工パッケージ

	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	<u>特殊作業員</u>	<u>再利用区分が再利用の場合</u>
	R4	<u>運転手（特殊）</u>	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

⑨ 防雪柵設置工

1. 防雪柵設置及び撤去工

3. 施工パッケージ

1-1・1-2 [略]

1-3 施工パッケージ

1-3-1 防雪柵

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3. 2 防雪柵 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	トラック [クレーン装置付] <u>ベーストラック</u> 4~4.5 t 積 吊能力 2.9 t	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

1-3-2~1-4 [略]

2 [略]

⑩ 橋梁排水管設置工

1. 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリートアンカーボルト設置

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.2 コンクリートアンカーボルト設置 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	高所作業車 トラック架装・伸縮ブーム型・プラットホーム型・最大地上高 12m・最大積載荷重 1,000kg	・賃料 ・足場無しの場合
	K2	—	
	K3	—	

(つづき)
(つづく)

労務	R1	特殊作業員	
	R2	運転手 (特殊)	・足場無しの場合
		土木一般世話役	・足場有りの場合
	R3	土木一般世話役	・足場無しの場合
普通作業員		・足場有りの場合	
R4	普通作業員	・足場無しの場合	
材料	Z1	あと施工アンカー 芯棒打込み式 M12	
	Z2	軽油 パトロール給油	・足場無しの場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 排水管設置

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.4 排水管設置 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	高所作業車 トラック架装・伸縮ブーム型・プラットホーム型・最大地上高 12m・最大積載荷重 1,000kg	・賃料 ・足場無しの場合
	K2	—	
	K3	—	

(つづき)
(つづく)

労務	R1	特殊作業員	
	R2	運転手 (特殊)	・足場無しの場合
		普通作業員	・足場有りの場合
	R3	土木一般世話役	
R4	普通作業員	・足場無しの場合	

3-1 コンクリートアンカーボルト設置

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.2 コンクリートアンカーボルト設置 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	高所作業車 トラック架装リフト・ブーム型・幅広デッキタイプ 作業床高さ 10~12m以下	・賃料 ・足場無しの場合
	K2	—	
	K3	—	

(つづき)
(つづく)

労務	R1	特殊作業員	
	R2	運転手 (特殊)	・足場無しの場合
		土木一般世話役	・足場有りの場合
	R3	土木一般世話役	・足場無しの場合
普通作業員		・足場有りの場合	
R4	普通作業員	・足場無しの場合	
材料	Z1	あと施工アンカー 芯棒打込み式 M12	
	Z2	軽油 パトロール給油	・足場無しの場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 排水管設置

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.4 排水管設置 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	高所作業車 トラック架装リフト・ブーム型・幅広デッキタイプ 作業床高さ 10~12m以下	・賃料 ・足場無しの場合
	K2	—	
	K3	—	

(つづき)
(つづく)

労務	R1	特殊作業員	
	R2	運転手 (特殊)	・足場無しの場合
		普通作業員	・足場有りの場合
	R3	土木一般世話役	
R4	普通作業員	・足場無しの場合	

			場合
材料	Z1	軽油 パトロール給油	・足場無しの場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 [略]

⑪ 橋梁用高欄

1. [略]

2. 施工パッケージ

2-1 橋梁用高欄

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2. 2 橋梁用高欄 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	トラック [クレーン装置付] 通称 4~4.5 t 積級 吊能力 2.9 t	一体式の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手 (特殊)	一体式の場合
	R4	—	
材料	Z1	高欄 (鋼製) B種 丸・縦棧型 ビーム数 3本 高さ 1,000 mm スパン 2.0m めっき	組立式の場合
		軽油 パトロール給油	一体式の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-2 [略]

⑫ [略]

⑬ 路盤工 (ICT)

1. 適用範囲

ICTによるアスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工 (瀝青安定処理路盤を除く。) に適用する。

(1) 適用できる範囲

- ・ 3D-MCモータグレーダによる新設道路の車道部の施工
- ・ 3D-MCモータグレーダによる路盤・路床面等の不陸整正
- ・ 3D-MCモータグレーダによる1層当たりの仕上がり厚さが20cmまでの下層路盤
- ・ 3D-MCモータグレーダによる1層当たりの仕上がり厚さが15cmまでの上層路盤
- ・ 3D-MCモータグレーダによる舗装構成が車道部と同じ場合の路肩部の路盤
- ・ 3D-MCモータグレーダによる施工幅が3.1m以上の路盤

			場合
材料	Z1	軽油 パトロール給油	・足場無しの場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 [略]

⑪ 橋梁用高欄

1. [略]

2. 施工パッケージ

2-1 橋梁用高欄

(1) [略]

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 2. 2 橋梁用高欄 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	トラック [クレーン装置付] ベーストラック 4~4.5 t 積 吊能力 2.9 t	一体式の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手 (特殊)	一体式の場合
	R4	—	
材料	Z1	高欄 (鋼製) B種 丸・縦棧型 ビーム数 3本 高さ 1,000 mm スパン 2.0m めっき	組立式の場合
		軽油 パトロール給油	一体式の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-2 [略]

⑫ [略]

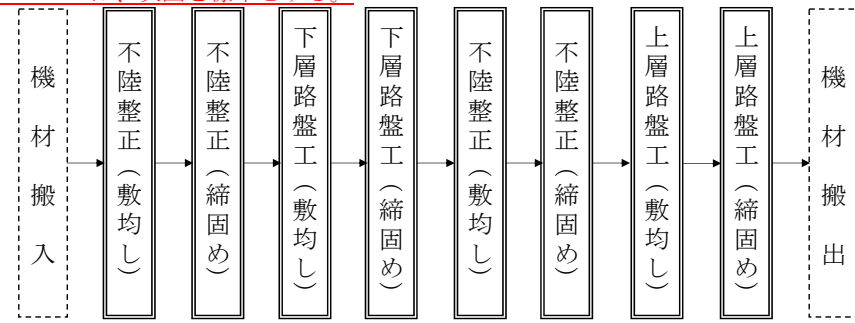
[新設]

(2) 適用できない範囲

- ・3D-MCモータグレーダ以外による施工
- ・供用部で通行規制を伴う車道部の施工
- ・歩道部の施工

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



※1 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

※2 不陸整正(敷均し・締固め)は、必要に応じて計上する。

※3 下層路盤工(下層路盤(車道・路肩部)(ICT))は、凍上抑制層の施工にも適用する。

3. 施工パッケージ

(1) 不陸整正 (ICT)

ア 条件区分

条件区分は、表3-1を標準とする。

表3-1 不陸整正 (ICT) 積算条件区分一覧 (積算単位: m²)

補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料
無し	—	—
有り	(表3-2)	(表3-3)

※1 上表は、路盤・路路面等の不陸整正(補足材料がある場合も含む。)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む。)を含む。

※2 補足材料の材料ロスを含む。(標準ロス率は+0.27)

表3-2 補足材料平均厚さ

積算条件	区分
補足材料平均厚さ	1mm以上6mm未満
	6mm以上11mm未満
	11mm以上16mm未満
	16mm以上22mm未満
	22mm以上28mm未満
	28mm以上34mm未満
	34mm以上40mm未満
	40mm以上46mm未満
	46mm以上53mm未満
	53mm以上60mm未満
	60mm以上68mm未満
	68mm以上75mm未満

表3-3 補足材料

積算条件	区分
補足材料	クラッシュラン C20
	クラッシュラン C30
	クラッシュラン C40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	再生粒度調整砕石 RM-25
	再生粒度調整砕石 RM-30
	再生粒度調整砕石 RM-40
	粒度調整砕石 M-25
	粒度調整砕石 M-30
	粒度調整砕石 M-40
	補足材料(各種)

イ 代表機材規格

表3-4に示す機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3-4 不陸整正 (ICT) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1	ICT建設機械経費賃料加算額(モータグレーダ) 賃料
	K2	モータグレーダ[土工用・排出ガス対策型(2014年規制)]ブレード幅3.1m 賃料

	K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] 運転質量13~14t	賃料
労務	R1	運転手 (特殊)	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	二	
材料	Z1	軽油 バトロール軽油	
	Z2	再生クラッシャー RC-40	補足材料有りの場合
	Z3		
	Z4		
市場単価	S		

※1 ICT建設機械経費賃料加算額 (モータグレーダ) は、建設機械に取り付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

(2) 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)

ア 条件区分

条件区分は、表3-5を標準とする。

表3-5 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 積算条件区分一覧 (積算単位: m²)

全仕上がり層	施工区分	材料
実数入力	1層施工	表3-6
	2層施工	
	3層施工	
	4層施工	
	5層施工	
	6層施工	

※1 上表は、車道部及び路肩部の下層路盤 (凍上抑制層がある場合も含む。) の路盤材敷均し・締固めのほか、散水、振動ローラによる補助作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む。) を含む。

※2 施工区分は、1層当たりの仕上がり層を20cmとして施工層数を算出し決定する。
 なお、施工層数は小数点以下を切り上げるものとする。

(例: 全仕上がり厚さが500mmの場合 500mm÷200mm=2.5 → 3層施工)

※3 路盤材の材料ロスを含む。(標準ロス率は+0.27)

表3-6 材料

積算条件	区分
材料	クラッシャー C-20
	クラッシャー C-30
	クラッシャー C-40
	再生クラッシャー RC-20
	再生クラッシャー RC-30
	再生クラッシャー RC-40
	路盤材 (各種)

イ 代表機労材規格

表3-7に示す機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3-7 下層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1	ICT建設機械経費賃料加算額 (モータグレーダ)
	K2	モータグレーダ [土工用・排出ガス対策型 (2014年規制)] ブレード幅3.1m
	K3	タイヤローラ [普通型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] 運転質量13~14t
労務	R1	運転手 (特殊)
	R2	普通作業員
	R3	土木一般世話役
	R4	二
材料	Z1	クラッシャー C-40

	Z2	軽油 パトロール軽油	
	Z3		
	Z4		
市場単価	S		

※1 ICT建設機械経費賃料加算額（モータグレーダ）は、建設機械に取り付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

(3) 上層路盤（車道・路肩部）（ICT）

ア 条件区分

条件区分は、表3-8を標準とする。

表3-8 上層路盤（車道・路肩部）（ICT）積算条件区分一覧（積算単位：m²）

全仕上がり層	施工区分	材料
実数入力	1層施工	表3-9
	2層施工	
	3層施工	

※1 上表は、上層路盤（車道部・路肩部）の路盤材敷均し・締固めのほか、散水、振動ローラによる補助作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む。）を含む。

※2 施工区分は、1層当たりの仕上がり層を15cmとして施工層数を算出し決定する。
なお、施工層数は小数点以下を切り上げるものとする。

（例：全仕上がり厚さが400mmの場合 400mm÷150mm=2.66 → 3層施工）

※3 路盤材の材料ロスを含む。（標準ロス率は+0.27）

表3-9 材料

積算条件	区分
材料	再生粒度調整砕石 RM-25
	再生粒度調整砕石 RM-30
	再生粒度調整砕石 RM-40
	粒度調整砕石 M-25
	粒度調整砕石 M-30
	粒度調整砕石 M-40
	路盤材（各種）

イ 代表機労材規格

表3-10に示す機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3-10 上層路盤（車道・路肩部）（ICT）代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 ICT建設機械経費賃料加算額（モータグレーダ）	賃料
	K2 モータグレーダ[土工用・排出ガス対策型（2014年規制）]ブレード幅3.1m	賃料
	K3 タイヤローラ[普通型・超低騒音型・排出ガス対策型（2014年規制）]運転質量13～14t	賃料
労務	R1 運転手（特殊）	
	R2 普通作業員	
	R3 土木一般世話役	
	R4 二	
材料	Z1 再生粒度調整砕石 RM-40	
	Z2 軽油 パトロール軽油	
	Z3	
	Z4	
市場単価	S	

※1 ICT建設機械経費賃料加算額（モータグレーダ）は、建設機械に取り付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用である。

⑭ 現場取卸工

1. 適用範囲

本資料は、鋼桁等（鋼桁、門扉）の現場荷卸作業で、運搬車両から直接架設せずに仮置きをするために現場取卸する場合及

[新設]

び鋼管杭の現場荷卸作業に適用する。

1-1 適用できる範囲

1-1-1 現場取卸（鋼桁等、門扉）

(1) クレーン規格が最大吊上能力 200t 吊以下の場合

1-1-2 現場取卸（鋼管杭）

(1) クレーン規格が最大吊上能力 65t 吊以下の場合

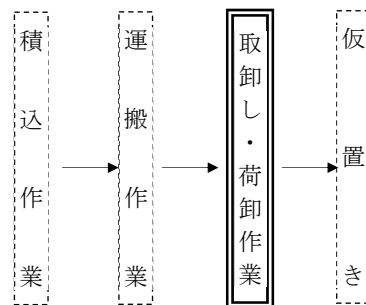
1-2 適用できない範囲

(1) 運搬車両から地組用架台に取卸す場合

(2) PC 桁を現場取卸する場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

図 2-1 施工フロー

3. 施工パッケージ

3-1 現場取卸（鋼桁等、門扉）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 現場取卸（鋼桁等、門扉） 積算条件区分一覧

(積算単位：t)

クレーン規格
ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕最大吊上能力 16t 吊
ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕最大吊上能力 20t 吊
ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕最大吊上能力 25t 吊
ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕最大吊上能力 35t 吊
ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕最大吊上能力 50t 吊
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕最大吊上能力 100t 吊
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕最大吊上能力 120t 吊
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕最大吊上能力 160t 吊
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕最大吊上能力 200t 吊

(注) 1. 上表は、鋼桁の現場取卸、玉掛ワイヤー、シャックル、介錯ロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）。

2. 規格は最大部材質量等により決定する。

3. 直接工事費に計上する。

4. 現場条件により上表によりがたい場合は、別途考慮する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.2 現場取卸（鋼桁等、門扉） 代表機材規格一覧

(積算単位：t)

項目	代表機材規格一覧	
機械	K1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 16t 吊
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 20t 吊
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 25t 吊
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 35t 吊
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 50t 吊
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 最大吊上能力 100t 吊
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 最大吊上能力 120t 吊
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 最大吊上能力 160t 吊
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 最大吊上能力 200t 吊
		K2
K3	—	
労務	R1	とび工
	R2	普通作業員
	R3	土木一般世話役
	R4	—
材料	Z1	—
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

3-2 現場取卸 (鋼管杭)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.4 現場取卸 (鋼管杭) 積算条件区分一覧

(積算単位: t)

クレーン規格
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 16t 吊
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 20t 吊
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 25t 吊
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 35t 吊
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 50t 吊
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 最大吊上能力 65t 吊

(注) 1. 上表は、鋼桁の現場取卸、玉掛ワイヤー、シャックル、介錯ロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料を含む)。

2. 規格は最大部材質量等により決定する。

3. 直接工事費に計上する。

4. 現場条件により上表によりがたい場合は、別途考慮する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.2 現場取卸 (鋼管杭) 代表機材規格一覧

(積算単位: t)

項目	代表機材規格一覧
機械	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)]

	K1	最大吊上能力1.6t吊
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕
		最大吊上能力2.0t吊
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕
		最大吊上能力2.5t吊
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕
		最大吊上能力3.5t吊
	K2	—
	K3	—
	R1	とび工
労務	R2	普通作業員
	R3	土木一般世話役
	R4	—
	材料	Z1
Z2		—
Z3		—
Z4		—
市場単価	S	—

8. 地すべり防止工

①集排水ボーリング工（ロータリーパーカッション式）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ボーリング

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.4 ボーリング 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ボーリングマシン〔ロータリーパーカッション式・スキッド型〕 <u>通称</u> 55kW 級	
	K2	発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)〕125kVA	賃料
	K3	グラウトポンプ〔二筒複動ピストン式〕吐出量200L/min	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	<u>リングピットφ90mm用</u>	<u>呼び径がφ90mm</u>
		<u>リングピットφ115mm用</u>	<u>呼び径がφ115mm</u>
		<u>リングピットφ135mm用</u>	<u>呼び径がφ135mm</u>

8. 地すべり防止工

①集排水ボーリング工（ロータリーパーカッション式）

1. ・ 2. [略]

3. 施工パッケージ

3-1 ボーリング

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.4 ボーリング 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ボーリングマシン〔ロータリーパーカッション式・スキッド型〕55kW 級	
	K2	発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)〕125kVA	賃料
	K3	グラウトポンプ〔二筒複動ピストン式〕吐出量200L/min	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	<u>ドリルパイプφ90mm用(1.0m)</u>	<u>呼び径がφ90mmで集水井内の場合</u>
		<u>ドリルパイプφ90mm用(1.5m)</u>	<u>呼び径がφ90mmで地表の場合</u>
		<u>ドリルパイプφ115mm用(1.0m)</u>	<u>呼び径がφ115mmで集水井内の場合</u>

		[削る。]	[削る。]
		[削る。]	[削る。]
		[削る。]	[削る。]
	Z2	ドリルパイプφ90mm用(1.0m)	呼び径がφ90mmで 集水井内の場合
		ドリルパイプφ90mm用(1.5m)	呼び径がφ90mmで 地表の場合
		ドリルパイプφ115mm用(1.0m)	呼び径がφ115mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ115mm用(1.5m)	呼び径がφ115mm で地表の場合
		ドリルパイプφ135mm用(1.0m)	呼び径がφ135mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ135mm用(1.5m)	呼び径がφ135mm で地表の場合
	Z3	インナーロッドφ90mm用(1.0m)	呼び径がφ90mmで 地表の場合
		インナーロッドφ90mm用(1.5m)	呼び径がφ90mmで 地表の場合
		インナーロッドφ115mm用(1.0m)	呼び径がφ115mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ115mm用(1.5m)	呼び径がφ115mm で地表の場合
		インナーロッドφ135mm用(1.0m)	呼び径がφ135mm で集水井内の場合
	インナーロッドφ135mm用(1.5m)	呼び径がφ135mm で地表の場合	
Z4	軽油 パトロール給油		
市場単価	S	—	

3-2 保孔管

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.8 保孔管 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ボーリングマシン[ロータリーパーカッション式・スキッド型] 通称 55kW 級	SGP の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	配管工	SGP の場合
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	配管用炭素鋼鋼管 (SGP JIS G 3452)	SGP の場合
		黒ねじ無し管 80A	
		硬質塩化ビニル管 (VP管 JIS K 6741) φ40mm	VP の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
Z4	—		
市場単価	S	—	

		ドリルパイプφ115mm用(1.5m)	呼び径がφ115mm で地表の場合
		ドリルパイプφ135mm用(1.0m)	呼び径がφ135mm で集水井内の場合
		ドリルパイプφ135mm用(1.5m)	呼び径がφ135mm で地表の場合
	Z2	インナーロッドφ90mm用(1.0m)	呼び径がφ90mmで 集水井内の場合
		インナーロッドφ90mm用(1.5m)	呼び径がφ90mmで 地表の場合
		インナーロッドφ115mm用(1.0m)	呼び径がφ115mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ115mm用(1.5m)	呼び径がφ115mm で地表の場合
		インナーロッドφ135mm用(1.0m)	呼び径がφ135mm で集水井内の場合
		インナーロッドφ135mm用(1.5m)	呼び径がφ135mm で地表の場合
	Z3	リングビットφ90mm用	呼び径がφ90mmの 場合
		[新設]	[新設]
		リングビットφ115mm用	呼び径がφ115mm 場合
		[新設]	[新設]
		リングビットφ135mm用	呼び径がφ135mmの 場合
	[新設]	[新設]	
Z4	軽油 パトロール給油		
市場単価	S	—	

3-2 保孔管

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.8 保孔管 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ボーリングマシン[ロータリーパーカッション式・スキッド型] 55kW 級	SGP の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	配管工	SGP の場合
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	配管用炭素鋼鋼管 (SGP JIS G 3452)	SGP の場合
		黒ねじ無し管 80A	
		硬質塩化ビニル管 (VP管 JIS K 6741) φ40mm	VP の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
Z4	—		
市場単価	S	—	

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.10 ボーリング仮設機材 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	クローラクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 4.9t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 足場(地表)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.12 足場(地表) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	クローラクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値)] <u>最大吊上能力</u> 4.9t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	とび工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

9. その他

① 作業日当り標準作業量

1. [略]

2. 作業日当り標準作業量

工種名	設定内容

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.10 ボーリング仮設機材 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	クローラクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値)]4.9t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 足場(地表)

(1) [略]

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.12 足場(地表) 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	クローラクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値)]4.9t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	とび工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	軽油 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

9. その他

① 作業日当り標準作業量

1. [略]

2. 作業日当り標準作業量

工種名	設定内容

土工												
①掘削												
土質	施工方法	押土の有無	障害の有無	施工数量	平均施工幅員	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	作業日当り標準作業量			
土砂	オープンカット	有り	-	普通土 30,000m ³ 未満又は湿地軟弱土	二	-	-	-	300m ³ /日			
				30,000m ³ 以上	二	-	-	-	660m ³ /日			
		無し	無し	-	5,000m ³ 未満	二	-	-	-	230m ³ /日		
					5,000m ³ 以上	二	-	-	-	270m ³ /日		
					10,000m ³ 未満	二	-	-	-	330m ³ /日		
					10,000m ³ 以上	二	-	-	-	330m ³ /日		
			有り	-	50,000m ³ 未満	二	-	-	-	500m ³ /日		
					50,000m ³ 以上	二	-	-	-	500m ³ /日		
					5,000m ³ 未満	二	-	-	-	140m ³ /日		
					5,000m ³ 以上	二	-	-	-	170m ³ /日		
	無し	-	-	10,000m ³ 未満	二	-	-	-	210m ³ /日			
				10,000m ³ 以上	二	-	-	-	210m ³ /日			
				50,000m ³ 未満	二	-	-	-	320m ³ /日			
				50,000m ³ 以上	二	-	-	-	320m ³ /日			
				片切掘削	-	-	-	二	-	-	220m ³ /日	
水中掘削	-	-	-	二	-	-	260m ³ /日					
現場制約有り	-	-	-	二	-	-	4 m ³ /日					
上記以外(小規模)	-	-	1箇所 100m ³ 以下(標準)	二	-	-	-	37m ³ /日				
			1箇所 50m ³ 以下(標準以外)	二	-	-	-	15m ³ /日				
岩塊・玉石	オープンカット	有り	-	普通土 30,000m ³ 未満又は湿地軟弱土	二	-	-	-	190m ³ /日			
				30,000m ³ 以上	二	-	-	-	410m ³ /日			
		無し	無し	-	5,000m ³ 未満	二	-	-	-	180m ³ /日		
					5,000m ³ 以上	二	-	-	-	210m ³ /日		
					10,000m ³ 未満	二	-	-	-	250m ³ /日		
					10,000m ³ 以上	二	-	-	-	250m ³ /日		
			有り	-	-	50,000m ³ 未満	二	-	-	-	410m ³ /日	
						50,000m ³ 以上	二	-	-	-	410m ³ /日	
						5,000m ³ 未満	二	-	-	-	110m ³ /日	
						5,000m ³ 以上	二	-	-	-	130m ³ /日	
	有り	-	-	10,000m ³ 未満	二	-	-	-	150m ³ /日			
				10,000m ³ 以上	二	-	-	-	150m ³ /日			
				50,000m ³ 未満	二	-	-	-	260m ³ /日			
				50,000m ³ 以上	二	-	-	-	260m ³ /日			
				水中掘削	-	-	-	二	-	-	180m ³ /日	
現場制約有り	-	-	-	二	-	-	3 m ³ /日					
軟岩	オープンカット	-	無し	1,000m ³ 未満	二	-	無し	無し	59m ³ /日			
					二	-	有り(5千m ³ 未満)	59m ³ /日				
					二	-	有り(5千m ³ 以上)	59m ³ /日				

土工												
①掘削												
土質	施工方法	押土の有無	障害の有無	施工数量	[新設]	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	作業日当り標準作業量			
土砂	オープンカット	有り	-	普通土 30,000m ³ 未満又は湿地軟弱土	[新設]	-	-	-	320m ³ /日			
				30,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	710m ³ /日			
		無し	無し	-	5,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	230m ³ /日		
					5,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	270m ³ /日		
					10,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	330m ³ /日		
					10,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	330m ³ /日		
			有り	-	-	50,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	500m ³ /日	
						50,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	500m ³ /日	
						5,000m ³ 未満	[新設]	二	二	二	140m ³ /日	
						5,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	170m ³ /日	
	無し	-	-	10,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	210m ³ /日			
				10,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	210m ³ /日			
				50,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	320m ³ /日			
				50,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	320m ³ /日			
				片切掘削	-	-	-	[新設]	-	-	220m ³ /日	
水中掘削	-	-	-	[新設]	-	-	260m ³ /日					
現場制約有り	-	-	-	[新設]	-	-	4 m ³ /日					
上記以外(小規模)	-	-	1箇所 100m ³ 以下(標準)	[新設]	-	-	-	37m ³ /日				
			1箇所 50m ³ 以下(標準以外)	[新設]	-	-	-	15m ³ /日				
岩塊・玉石	オープンカット	有り	-	普通土 30,000m ³ 未満又は湿地軟弱土	[新設]	-	-	-	200m ³ /日			
				30,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	440m ³ /日			
		無し	無し	-	5,000m ³ 未満	[新設]	二	二	二	180m ³ /日		
					5,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	210m ³ /日		
					10,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	250m ³ /日		
					10,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	250m ³ /日		
			有り	-	-	50,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	410m ³ /日	
						50,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	410m ³ /日	
						5,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	110m ³ /日	
						5,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	130m ³ /日	
	有り	-	-	10,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	150m ³ /日			
				10,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	150m ³ /日			
				50,000m ³ 未満	[新設]	-	-	-	260m ³ /日			
				50,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	260m ³ /日			
				水中掘削	-	-	-	[新設]	-	-	180m ³ /日	
現場制約有り	-	-	-	[新設]	-	-	3 m ³ /日					
軟岩	オープンカット	-	無し	1,000m ³ 未満	[新設]	-	無し	無し	59m ³ /日			
					[新設]	-	有り	59m ³ /日				
					[新設]	-	[新設]	[新設]				

						有り (5万 m ³ 未 満)	無し	59m ³ /日
						有り (5万 m ³ 以 上)	無し	59m ³ /日
					1,000m ³ 以上 3,000m ³ 未満	無し	無し	81m ³ /日
				有り (5千 m ³ 未 満)				81m ³ /日
				有り (5千 m ³ 以 上)				81m ³ /日
					1,000m ³ 以上 3,000m ³ 未満	無し	無し	81m ³ /日
				有り (5万 m ³ 未 満)				81m ³ /日
					3,000m ³ 以上 5,000m ³ 未満	無し	無し	102 m3/日
				有り (5千 m ³ 未 満)				102 m3/日
				有り (5千 m ³ 以 上)				102 m3/日
					3,000m ³ 以上 5,000m ³ 未満	有り (5万 m ³ 未 満)	無し	102 m3/日
				有り (5万 m ³ 以 上)				102 m3/日
					5,000m ³ 以上 7,000m ³ 未満	無し	無し	102 m3/日
				有り (5千 m ³ 未 満)				102 m3/日
				有り (5千 m ³ 以 上)				102 m3/日
				有り (5万 m ³ 未 満)				102 m3/日

						有り (5万 m ³ 未 満)	無し	59m ³ /日
						有り (5万 m ³ 以 上)	無し	59m ³ /日
					1,000m ³ 以上 5,000m ³ 未満	無し	無し	91m ³ /日
				有り				91m ³ /日
				[新設]				[新設]
					1,000m ³ 以上 5,000m ³ 未満	有り (5万 m ³ 未 満)	無し	91m ³ /日
				有り (5万 m ³ 以 上)				91m ³ /日
					[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
				[新設]				[新設]
				[新設]				[新設]
					[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
				[新設]				[新設]
					[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
				[新設]				[新設]
				[新設]				[新設]
				[新設]				[新設]

									満)									
									有り (5万 m ³ 以 上)	無し	102 m ³ /日							
									20m以上	二	二	二	二	340 m ³ /日				
									7,000m ³ 以上	二	-	-	-	340m ³ /日				
									有り	二	二	-	無し	無し	32m ³ /日			
														有り (5千 m ³ 未 満)	32m ³ /日			
														有り (5千 m ³ 以 上)	32m ³ /日			
														有り (5万 m ³ 未 満)	無し	32m ³ /日		
														有り (5万 m ³ 以 上)	無し	32m ³ /日		
														無し	無し	35m ³ /日		
									片切掘削	-	-	-	二	-	無し	35m ³ /日		
															有り (5千 m ³ 未 満)	35m ³ /日		
															有り (5千 m ³ 以 上)	35m ³ /日		
															有り (5万 m ³ 未 満)	無し	35m ³ /日	
有り (5万 m ³ 以 上)	無し	35m ³ /日																
無し	無し	45m ³ /日																
硬岩	オープン カット	-	無し	二	不可	無し	45m ³ /日											
						有り (5千 m ³ 未 満)	45m ³ /日											
						有り (5千 m ³ 以 上)	45m ³ /日											
						有り (5万 m ³ 未 満)	無し	45m ³ /日										

																			[新設]	[新設]	[新設]						
																			[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]				
																			5,000m ³ 以上	[新設]	-	-	-	340m ³ /日			
																			有り	5,000m ³ 未満	[新設]	-	無し	無し	32m ³ /日		
																								有り	32m ³ /日		
																								[新設]	[新設]		
																								有り (5万 m ³ 未 満)	無し	32m ³ /日	
																								有り (5万 m ³ 以 上)	無し	32m ³ /日	
																								無し	無し	49m ³ /日	
																			片切掘削	-	-	-	[新設]	-	無し	49m ³ /日	
																									有り	49m ³ /日	
																									[新設]	[新設]	
																									有り (5万 m ³ 未 満)	無し	49m ³ /日
																									有り (5万 m ³ 以 上)	無し	49m ³ /日
																									無し	無し	45m ³ /日
硬岩	オープン カット	-	無し	-	[新設]	不可	無し	45m ³ /日																			
							有り	45m ³ /日																			
							[新設]	[新設]																			
							有り (5万 m ³ 未 満)	無し	45m ³ /日																		

							有り (5万 m ³ 以上)	無し	45m ³ /日
						可	—	—	190m ³ /日
						不可	無し	無し	21m ³ /日
								有り <u>(5千 m³未 満)</u>	21m ³ /日
								有り <u>(5千 m³以 上)</u>	<u>21m³/日</u>
								有り (5万 m ³ 未 満)	21m ³ /日
								有り (5万 m ³ 以上)	21m ³ /日
						不可	無し	無し	29m ³ /日
								有り <u>(5千 m³未 満)</u>	29m ³ /日
								有り <u>(5千 m³以 上)</u>	<u>29m³/日</u>
								有り (5万 m ³ 未 満)	29m ³ /日
								有り (5万 m ³ 以上)	29m ³ /日
						可	無し	無し	55m ³ /日
								有り <u>(5千 m³未 満)</u>	55m ³ /日
								有り <u>(5千 m³以 上)</u>	<u>55m³/日</u>
								有り (5万 m ³ 未 満)	55m ³ /日
								有り (5万 m ³ 以上)	55m ³ /日

							有り (5万 m ³ 以上)	無し	45m ³ /日
						可	—	—	190m ³ /日
						不可	無し	無し	21m ³ /日
								有り	21m ³ /日
								[新設]	[新設]
								有り (5万 m ³ 未 満)	21m ³ /日
								有り (5万 m ³ 以上)	21m ³ /日
						不可	無し	無し	29m ³ /日
								有り	29m ³ /日
								[新設]	[新設]
								有り (5万 m ³ 未 満)	29m ³ /日
								有り (5万 m ³ 以上)	29m ³ /日
						可	無し	無し	55m ³ /日
								有り	55m ³ /日
								[新設]	[新設]
								有り (5万 m ³ 未 満)	55m ³ /日
								有り (5万 m ³ 以上)	55m ³ /日

②土砂等運搬					
土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
標準	バックホウ バケット容量 0.8m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	0.3 km以下	154m ³ /日
				0.5 km以下	133m ³ /日
				1.0 km以下	118m ³ /日
				1.5 km以下	105m ³ /日
				2.0 km以下	91m ³ /日
				3.0 km以下	77m ³ /日
				4.0 km以下	67m ³ /日
				5.5 km以下	56m ³ /日
				6.5 km以下	48m ³ /日
				7.5 km以下	42m ³ /日
				9.5 km以下	37m ³ /日
				11.5 km以下	32m ³ /日
				15.5 km以下	26m ³ /日
				22.5 km以下	21m ³ /日
				有り	49.5 km以下
			60.0 km以下		11m ³ /日
			0.3 km以下		154m ³ /日
			0.5 km以下		133m ³ /日
			1.0 km以下		118m ³ /日
			1.5 km以下		105m ³ /日
			2.0 km以下		91m ³ /日
			3.0 km以下		77m ³ /日
			3.5 km以下		67m ³ /日
			5.0 km以下		56m ³ /日
			6.0 km以下		48m ³ /日
			7.0 km以下		42m ³ /日
			8.5 km以下	37m ³ /日	
11.0 km以下	32m ³ /日				
14.0 km以下	26m ³ /日				
19.5 km以下	21m ³ /日				
31.5 km以下	16m ³ /日				
60.0 km以下	11m ³ /日				
軟岩	—	—	—	土砂÷1.22	
硬岩	—	—	—	土砂÷1.37	
標準	バックホウ バケット容量 1.3~1.5m ³	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	0.3 km以下	200m ³ /日
				0.5 km以下	167m ³ /日
				1.0 km以下	143m ³ /日
				1.5 km以下	125m ³ /日
				2.0 km以下	111m ³ /日
				2.5 km以下	100m ³ /日
				3.0 km以下	83m ³ /日
				3.5 km以下	77m ³ /日
				4.5 km以下	67m ³ /日
				6.0 km以下	56m ³ /日
				7.0 km以下	48m ³ /日
				8.5 km以下	42m ³ /日

②土砂等運搬					
土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
標準	バックホウ 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	0.3 km以下	154m ³ /日
				0.5 km以下	133m ³ /日
				1.0 km以下	118m ³ /日
				1.5 km以下	105m ³ /日
				2.0 km以下	91m ³ /日
				3.0 km以下	77m ³ /日
				4.0 km以下	67m ³ /日
				5.5 km以下	56m ³ /日
				6.5 km以下	48m ³ /日
				7.5 km以下	42m ³ /日
				9.5 km以下	37m ³ /日
				11.5 km以下	32m ³ /日
				15.5 km以下	26m ³ /日
				22.5 km以下	21m ³ /日
				有り	49.5 km以下
			60.0 km以下		11m ³ /日
			0.3 km以下		154m ³ /日
			0.5 km以下		133m ³ /日
			1.0 km以下		118m ³ /日
			1.5 km以下		105m ³ /日
			2.0 km以下		91m ³ /日
			3.0 km以下		77m ³ /日
			3.5 km以下		67m ³ /日
			5.0 km以下		56m ³ /日
			6.0 km以下		48m ³ /日
			7.0 km以下		42m ³ /日
			8.5 km以下	37m ³ /日	
11.0 km以下	32m ³ /日				
14.0 km以下	26m ³ /日				
19.5 km以下	21m ³ /日				
31.5 km以下	16m ³ /日				
60.0 km以下	11m ³ /日				
軟岩	—	—	—	土砂÷1.22	
硬岩	—	—	—	土砂÷1.37	
標準	バックホウ 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	無し	0.3 km以下	200m ³ /日
				0.5 km以下	167m ³ /日
				1.0 km以下	143m ³ /日
				1.5 km以下	125m ³ /日
				2.0 km以下	111m ³ /日
				2.5 km以下	100m ³ /日
				3.0 km以下	83m ³ /日
				3.5 km以下	77m ³ /日
				4.5 km以下	67m ³ /日
				6.0 km以下	56m ³ /日
				7.0 km以下	48m ³ /日
				8.5 km以下	42m ³ /日

					10.0 km以下	37m ³ /日		
					12.5 km以下	32m ³ /日		
					16.5 km以下	26m ³ /日		
					23.5 km以下	21m ³ /日		
					51.5 km以下	16m ³ /日		
					60.0 km以下	11m ³ /日		
					有り	0.3 km以下	200m ³ /日	
						0.5 km以下	167m ³ /日	
						1.0 km以下	143m ³ /日	
						1.5 km以下	125m ³ /日	
						2.0 km以下	111m ³ /日	
						2.5 km以下	100m ³ /日	
						3.0 km以下	83m ³ /日	
						3.5 km以下	77m ³ /日	
						4.5 km以下	67m ³ /日	
						5.5 km以下	56m ³ /日	
						6.5 km以下	48m ³ /日	
						8.0 km以下	42m ³ /日	
						9.5 km以下	37m ³ /日	
						11.5 km以下	32m ³ /日	
						15.0 km以下	26m ³ /日	
						20.5 km以下	21m ³ /日	
						33.0 km以下	16m ³ /日	
						60.0 km以下	11m ³ /日	
						軟岩	—	—
					硬岩	—	—	土砂÷1.37
標準	バックホウ バケット容量 0.45m ³	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.5 km以下	91m ³ /日			
				1.0 km以下	83m ³ /日			
				2.0 km以下	71m ³ /日			
				2.5 km以下	63m ³ /日			
				3.5 km以下	56m ³ /日			
				4.5 km以下	48m ³ /日			
				6.0 km以下	42m ³ /日			
				7.5 km以下	37m ³ /日			
				10.0 km以下	32m ³ /日			
				13.5 km以下	26m ³ /日			
				19.5 km以下	21m ³ /日			
				39.0 km以下	16m ³ /日			
				60.0 km以下	11m ³ /日			
				有り	0.5 km以下	91m ³ /日		
			1.0 km以下		83m ³ /日			
			1.5 km以下		71m ³ /日			
			2.0 km以下		63m ³ /日			
			3.0 km以下		56m ³ /日			
			7.0 km以下		37m ³ /日			

					10.0 km以下	37m ³ /日		
					12.5 km以下	32m ³ /日		
					16.5 km以下	26m ³ /日		
					23.5 km以下	21m ³ /日		
					51.5 km以下	16m ³ /日		
					60.0 km以下	11m ³ /日		
					有り	0.3 km以下	200m ³ /日	
						0.5 km以下	167m ³ /日	
						1.0 km以下	143m ³ /日	
						1.5 km以下	125m ³ /日	
						2.0 km以下	111m ³ /日	
						2.5 km以下	100m ³ /日	
						3.0 km以下	83m ³ /日	
						3.5 km以下	77m ³ /日	
						4.5 km以下	67m ³ /日	
						5.5 km以下	56m ³ /日	
						6.5 km以下	48m ³ /日	
						8.0 km以下	42m ³ /日	
						9.5 km以下	37m ³ /日	
						11.5 km以下	32m ³ /日	
						15.0 km以下	26m ³ /日	
						20.5 km以下	21m ³ /日	
						33.0 km以下	16m ³ /日	
						60.0 km以下	11m ³ /日	
						軟岩	—	—
					硬岩	—	—	土砂÷1.37
標準	バックホウ 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.5 km以下	91m ³ /日			
				1.0 km以下	83m ³ /日			
				2.0 km以下	71m ³ /日			
				2.5 km以下	63m ³ /日			
				3.5 km以下	56m ³ /日			
				4.5 km以下	48m ³ /日			
				6.0 km以下	42m ³ /日			
				7.5 km以下	37m ³ /日			
				10.0 km以下	32m ³ /日			
				13.5 km以下	26m ³ /日			
				19.5 km以下	21m ³ /日			
				39.0 km以下	16m ³ /日			
				60.0 km以下	11m ³ /日			
				有り	0.5 km以下	91m ³ /日		
			1.0 km以下		83m ³ /日			
			1.5 km以下		71m ³ /日			
			2.0 km以下		63m ³ /日			
			3.0 km以下		56m ³ /日			
			7.0 km以下		37m ³ /日			

					9.0 km以下	32m ³ /日			
					12.0 km以下	26m ³ /日			
					17.5 km以下	21m ³ /日			
					28.5 km以下	16m ³ /日			
					60.0 km以下	11m ³ /日			
					軟岩	—	—	土砂÷1.22	
					硬岩	—	—	土砂÷1.37	
					クラムシェル バケツ容量 (平積) 0.26~0.3m ³ 又は バケツ容量 (平積) 0.8m ³	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.5 km以下	67m ³ /日
								2.0 km以下	56m ³ /日
								2.5 km以下	48m ³ /日
	4.0 km以下	42m ³ /日							
	5.5 km以下	37m ³ /日							
	7.5 km以下	32m ³ /日							
	10.5 km以下	26m ³ /日							
	16.0 km以下	21m ³ /日							
	30.0 km以下	16m ³ /日							
	60.0 km以下	11m ³ /日							
	標準	クラムシェル バケツ容量 (平積) 0.26~0.3m ³ 又は バケツ容量 (平積) 0.8m ³	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	有り	0.5 km以下	67m ³ /日			
					2.0 km以下	56m ³ /日			
					2.5 km以下	48m ³ /日			
3.5 km以下					42m ³ /日				
5.0 km以下					37m ³ /日				
7.0 km以下					32m ³ /日				
10.0 km以下					26m ³ /日				
14.5 km以下					21m ³ /日				
24.5 km以下					16m ³ /日				
60.0 km以下					11m ³ /日				
		軟岩	—	—	土砂÷1.22				
		硬岩	—	—	土砂÷1.37				
小規模	バックハウ バケツ容量 0.28m ³	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.2 km以下	50m ³ /日				
				1.0 km以下	40m ³ /日				
				1.5 km以下	33m ³ /日				
				2.5 km以下	29m ³ /日				
				3.5 km以下	25m ³ /日				
				4.0 km以下	22m ³ /日				
				5.0 km以下	20m ³ /日				
			6.0 km以下	18m ³ /日					
					有り	0.2 km以下	50m ³ /日		
						1.0 km以下	40m ³ /日		
						1.5 km以下	33m ³ /日		
						2.0 km以下	29m ³ /日		

					9.0 km以下	32m ³ /日			
					12.0 km以下	26m ³ /日			
					17.5 km以下	21m ³ /日			
					28.5 km以下	16m ³ /日			
					60.0 km以下	11m ³ /日			
					軟岩	—	—	土砂÷1.22	
					硬岩	—	—	土砂÷1.37	
					クラムシェル 平積0.4m ³ 又は 平積0.8m ³	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.5 km以下	67m ³ /日
								2.0 km以下	56m ³ /日
								2.5 km以下	48m ³ /日
	4.0 km以下	42m ³ /日							
	5.5 km以下	37m ³ /日							
	7.5 km以下	32m ³ /日							
	10.5 km以下	26m ³ /日							
	16.0 km以下	21m ³ /日							
	30.0 km以下	16m ³ /日							
	60.0 km以下	11m ³ /日							
	標準	クラムシェル 平積0.4m ³ 又は 平積0.8m ³	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	有り	0.5 km以下	67m ³ /日			
					2.0 km以下	56m ³ /日			
					2.5 km以下	48m ³ /日			
3.5 km以下					42m ³ /日				
5.0 km以下					37m ³ /日				
7.0 km以下					32m ³ /日				
10.0 km以下					26m ³ /日				
14.5 km以下					21m ³ /日				
24.5 km以下					16m ³ /日				
60.0 km以下					11m ³ /日				
		軟岩	—	—	土砂÷1.22				
		硬岩	—	—	土砂÷1.37				
小規模	バックハウ 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.2 km以下	50m ³ /日				
				1.0 km以下	40m ³ /日				
				1.5 km以下	33m ³ /日				
				2.5 km以下	29m ³ /日				
				3.5 km以下	25m ³ /日				
				4.0 km以下	22m ³ /日				
				5.0 km以下	20m ³ /日				
			6.0 km以下	18m ³ /日					
					有り	0.2 km以下	50m ³ /日		
						1.0 km以下	40m ³ /日		
						1.5 km以下	33m ³ /日		
						2.0 km以下	29m ³ /日		

					3.0 km以下	25m ³ /日
					3.5 km以下	22m ³ /日
					4.5 km以下	20m ³ /日
					5.5 km以下	18m ³ /日
					7.0 km以下	17m ³ /日
					9.0 km以下	13m ³ /日
					12.0 km以下	11m ³ /日
					17.0 km以下	9 m ³ /日
					27.0 km以下	7 m ³ /日
					60.0 km以下	4 m ³ /日
小規模	バックホウ バケット容量 0.13m ³	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.3 km以下	22m ³ /日	
				1.0 km以下	20m ³ /日	
				1.5 km以下	17m ³ /日	
				2.5 km以下	14m ³ /日	
				3.0 km以下	13m ³ /日	
				3.5 km以下	11m ³ /日	
				4.5 km以下	10m ³ /日	
				5.5 km以下	9 m ³ /日	
				7.0 km以下	8 m ³ /日	
				9.0 km以下	7 m ³ /日	
			有り	12.0 km以下	6 m ³ /日	
				17.0 km以下	4 m ³ /日	
				28.5 km以下	3 m ³ /日	
				60.0 km以下	2 m ³ /日	
				0.3 km以下	22m ³ /日	
				1.0 km以下	20m ³ /日	
				1.5 km以下	17m ³ /日	
				2.5 km以下	14m ³ /日	
				3.0 km以下	13m ³ /日	
				3.5 km以下	11m ³ /日	
有り	4.5 km以下	10m ³ /日				
	5.0 km以下	9 m ³ /日				
	6.5 km以下	8 m ³ /日				
	8.0 km以下	7 m ³ /日				
	11.0 km以下	6 m ³ /日				
	15.0 km以下	4 m ³ /日				
	24.0 km以下	3 m ³ /日				
	60.0 km以下	2 m ³ /日				
	現場制約 有り	人力	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.3 km以下	20m ³ /日
					0.5 km以下	18m ³ /日
1.5 km以下					17m ³ /日	
2.0 km以下					14m ³ /日	
2.5 km以下					13m ³ /日	
3.0 km以下					11m ³ /日	
4.0 km以下					10m ³ /日	
5.0 km以下					9 m ³ /日	
6.5 km以下	8 m ³ /日					

					3.0 km以下	25m ³ /日
					3.5 km以下	22m ³ /日
					4.5 km以下	20m ³ /日
					5.5 km以下	18m ³ /日
					7.0 km以下	17m ³ /日
					9.0 km以下	13m ³ /日
					12.0 km以下	11m ³ /日
					17.0 km以下	9 m ³ /日
					27.0 km以下	7 m ³ /日
					60.0 km以下	4 m ³ /日
小規模	バックホウ 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.3 km以下	22m ³ /日	
				1.0 km以下	20m ³ /日	
				1.5 km以下	17m ³ /日	
				2.5 km以下	14m ³ /日	
				3.0 km以下	13m ³ /日	
				3.5 km以下	11m ³ /日	
				4.5 km以下	10m ³ /日	
				5.5 km以下	9 m ³ /日	
				7.0 km以下	8 m ³ /日	
				9.0 km以下	7 m ³ /日	
			有り	12.0 km以下	6 m ³ /日	
				17.0 km以下	4 m ³ /日	
				28.5 km以下	3 m ³ /日	
				60.0 km以下	2 m ³ /日	
				0.3 km以下	22m ³ /日	
				1.0 km以下	20m ³ /日	
				1.5 km以下	17m ³ /日	
				2.5 km以下	14m ³ /日	
				3.0 km以下	13m ³ /日	
				3.5 km以下	11m ³ /日	
有り	4.5 km以下	10m ³ /日				
	5.0 km以下	9 m ³ /日				
	6.5 km以下	8 m ³ /日				
	8.0 km以下	7 m ³ /日				
	11.0 km以下	6 m ³ /日				
	15.0 km以下	4 m ³ /日				
	24.0 km以下	3 m ³ /日				
	60.0 km以下	2 m ³ /日				
	現場制約 有り	人力	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.3 km以下	20m ³ /日
					0.5 km以下	18m ³ /日
1.5 km以下					17m ³ /日	
2.0 km以下					14m ³ /日	
2.5 km以下					13m ³ /日	
3.0 km以下					11m ³ /日	
4.0 km以下					10m ³ /日	
5.0 km以下					9 m ³ /日	
6.5 km以下	8 m ³ /日					

現場制約 有り	人力	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	有り	8.5 km以下	7 m ³ /日
				11.0 km以下	6 m ³ /日
				16.0 km以下	4 m ³ /日
				27.5 km以下	3 m ³ /日
				60.0 km以下	2 m ³ /日
				0.3 km以下	20m ³ /日
				0.5 km以下	18m ³ /日
				1.0 km以下	17m ³ /日
				1.5 km以下	14m ³ /日
				2.0 km以下	13m ³ /日
				2.5 km以下	11m ³ /日
				3.5 km以下	10m ³ /日
				4.5 km以下	9 m ³ /日
				6.0 km以下	8 m ³ /日
				8.0 km以下	7 m ³ /日
				10.5 km以下	6 m ³ /日
				14.5 km以下	4 m ³ /日
				23.0 km以下	3 m ³ /日
				60.0 km以下	2 m ³ /日

③整地

作業区分	敷均し作業内容	障害の有無	作業日当り標準作業量
残土受け入れ地での処理	—	—	434m ³ /日
敷均し(ルーズ)	<u>10,000m³未満</u>	無し	430m ³ /日
		有り	380m ³ /日
	<u>10,000m³以上</u>	無し	550m ³ /日
		有り	480m ³ /日

④～⑥ [略]

⑦押土(ルーズ)

土質	施工数量	作業日当り標準作業量
土砂	<u>5,000m³未満</u>	<u>310 m³/日</u>
	<u>5,000m³以上</u>	<u>510 m³/日</u>
岩塊・玉石	<u>5,000m³未満</u>	<u>200 m³/日</u>
	<u>5,000m³以上</u>	<u>330 m³/日</u>
破碎岩	<u>5,000m³未満</u>	<u>200 m³/日</u>
	<u>5,000m³以上</u>	<u>330 m³/日</u>

⑧ [略]

現場制約 有り	人力	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	有り	8.5 km以下	7 m ³ /日
				11.0 km以下	6 m ³ /日
				16.0 km以下	4 m ³ /日
				27.5 km以下	3 m ³ /日
				60.0 km以下	2 m ³ /日
				0.3 km以下	20m ³ /日
				0.5 km以下	18m ³ /日
				1.0 km以下	17m ³ /日
				1.5 km以下	14m ³ /日
				2.0 km以下	13m ³ /日
				2.5 km以下	11m ³ /日
				3.5 km以下	10m ³ /日
				4.5 km以下	9 m ³ /日
				6.0 km以下	8 m ³ /日
				8.0 km以下	7 m ³ /日
				10.5 km以下	6 m ³ /日
				14.5 km以下	4 m ³ /日
				23.0 km以下	3 m ³ /日
				60.0 km以下	2 m ³ /日

③整地

作業区分	敷均し作業内容	障害の有無	作業日当り標準作業量
残土受け入れ地での処理	—	—	434m ³ /日
敷均し(ルーズ)	<u>標準</u>	無し	430m ³ /日
		有り	380m ³ /日
	<u>標準以外</u>	無し	550m ³ /日
		有り	480m ³ /日

④～⑥ [略]

⑦押土(ルーズ)

土質	[新設]	作業日当り標準作業量
土砂	[新設]	<u>540 m³/日</u>
	[新設]	[新設]
岩塊・玉石	[新設]	<u>350 m³/日</u>
	[新設]	[新設]
破碎岩	[新設]	<u>350 m³/日</u>
	[新設]	[新設]

⑧ [略]

土工 (ICT)	①掘削 (ICT) ※ [ICT建機使用割合 100%]					
	土質	施工方法	障害の有無	施工数量		
土砂	オープンカット	無し	5,000m3 未満	250 m3/日		
			5,000m3 以上 10,000m3 未満	290 m3/日		
			10,000m3 以上 50,000m3 未満	350 m3/日		
			50,000m3 以上	410 m3/日		
			5,000m3 未満	150 m3/日		
		有り	5,000m3 以上 10,000m3 未満	180 m3/日		
			10,000m3 以上 50,000m3 未満	230 m3/日		
			50,000m3 以上	270 m3/日		
			片切掘削	二	二	242 m3/日
			岩塊・玉石	オープンカット	無し	5,000m3 未満
5,000m3 以上 10,000m3 未満	220 m3/日					
10,000m3 以上 50,000m3 未満	270 m3/日					
50,000m3 以上	340 m3/日					
5,000m3 未満	120 m3/日					
有り	5,000m3 以上 10,000m3 未満	140 m3/日				
	10,000m3 以上 50,000m3 未満	170 m3/日				
	50,000m3 以上	220 m3/日				
	② 路体(築堤)盛土 (ICT)					
	施工数量	障害の有無			作業日当り標準作業量	
20,000m3 未満	無し	550 m3/日				
	有り	280 m3/日				
20,000m3 以上	無し	690 m3/日				
	有り	400 m3/日				
(注) 1. 上表は、締固め後の土量である。						
2. 敷均し作業の仕上り厚さは 0.2~0.3m とする。						
③ 路床盛土 (ICT)						
施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量				
20,000m3 未満	無し	430 m3/日				
	有り	140 m3/日				
20,000m3 以上	無し	500 m3/日				
	有り	140 m3/日				
(注) 1. 上表は、締固め後の土量である。						
2. 敷均し作業の仕上り厚さは 0.2~0.3m とする。						
作業土工	①~④ [略]					

[新設]	[新設]
作業土工	①~④ [略]

作業土工 (ICT)	①床掘り (ICT)					
	土質	施工方法	土留方式の種類	障害の有無		
	土砂	標準	無し	有り	196 m3/日	
				無し	240 m3/日	
			自立式	有り	196 m3/日	
				無し	240 m3/日	
			グラウンドアンカー式	有り	196 m3/日	
				無し	240 m3/日	
			切梁腹起式	有り	196 m3/日	
				無し	240 m3/日	
			平均施工幅1m以上 2m未満	無し	有り	120 m3/日
					無し	180 m3/日
	自立式	有り		120 m3/日		
		無し		180 m3/日		
グラウンドアンカー式	有り	120 m3/日				
	無し	180 m3/日				
切梁腹起式	有り	120 m3/日				
	無し	180 m3/日				

法面整形工 ① [略]

法面整形工 (ICT)	①法面整形 (ICT)			
	整形箇所	法面締固めの有無	土質	
	盛土部	有り	レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土	154 m2/日
		無し	レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土	242 m2/日
	切土部	二	レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土	154 m2/日
軟岩 I			132 m2/日	

舗装版切断工 ① [略]

舗装版破碎工 ①・② [略]

殻運搬 ① [略]

かご工 ①・② [略]

補強土壁工 (帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ)) ①～④ [略]

補強盛土工 ①～③ [略]

プレキャスト擁壁工 ① [略]

大型ブロック積 (張) 工 ① [略]

石積 (張) 工 ①～③ [略]

吸出し防止材設置工 ① [略]

吹付法面とりこわし工 ① [略]

アンカー工 (ロータリーパーカッション式) ①～⑤ [略]

基礎・裏込砕石工 ① [略]

コンクリート ① [略]

[新設]	[新設]
------	------

法面整形工 ① [略]

[新設]	[新設]
------	------

舗装版切断工 ① [略]

舗装版破碎工 ①・② [略]

殻運搬 ① [略]

かご工 ①・② [略]

補強土壁工 (帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁、ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ)) ①～④ [略]

補強盛土工 ①～③ [略]

プレキャスト擁壁工 ① [略]

大型ブロック積 (張) 工 ① [略]

石積 (張) 工 ①～③ [略]

吸出し防止材設置工 ① [略]

吹付法面とりこわし工 ① [略]

アンカー工 (ロータリーパーカッション式) ①～⑤ [略]

基礎・裏込砕石工 ① [略]

コンクリート ① [略]

工																								
型枠工	① [略]																							
コンクリート 継目工（目地、 止水板設置工）	①～③ [略]																							
コンクリート 分水槽据付	① [略]																							
ボックスカル パート	① [略]																							
消波根固めブ ロック工	①～③ [略]																							
捨石工	①捨石工																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>作業名</th><th>最大作業半径及び設置高さ</th><th>作業日当り 標準作業量</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="5">捨石投入</td><td>最大作業半径 7m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上</td><td>72 m³/日</td></tr> <tr><td>最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上</td><td>53 m³/日</td></tr> <tr><td>最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上</td><td>42 m³/日</td></tr> <tr><td>最大作業半径 7m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 未満</td><td>64 m³/日</td></tr> <tr><td>最大作業半径 15m を超え 24m 以下</td><td>64 m³/日</td></tr> <tr><td rowspan="4">表面均し</td><td>最大作業半径 7m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上</td><td>56 m³/日</td></tr> <tr><td>最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上</td><td>50 m³/日</td></tr> <tr><td>最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上</td><td>45 m³/日</td></tr> <tr><td>最大作業半径 15m を超え 24m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上</td><td>56 m³/日</td></tr> </tbody> </table>	作業名	最大作業半径及び設置高さ	作業日当り 標準作業量	捨石投入	最大作業半径 7m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上	72 m ³ /日	最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上	53 m ³ /日	最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上	42 m ³ /日	最大作業半径 7m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 未満	64 m ³ /日	最大作業半径 15m を超え 24m 以下	64 m ³ /日	表面均し	最大作業半径 7m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上	56 m ³ /日	最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上	50 m ³ /日	最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上	45 m ³ /日	最大作業半径 15m を超え 24m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上	56 m ³ /日
作業名	最大作業半径及び設置高さ	作業日当り 標準作業量																						
捨石投入	最大作業半径 7m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上	72 m ³ /日																						
	最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上	53 m ³ /日																						
	最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上	42 m ³ /日																						
	最大作業半径 7m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 未満	64 m ³ /日																						
	最大作業半径 15m を超え 24m 以下	64 m ³ /日																						
表面均し	最大作業半径 7m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上	56 m ³ /日																						
	最大作業半径 7m を超え 12m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上	50 m ³ /日																						
	最大作業半径 12m を超え 15m 以下 かつ 設置高さ-7m 以上	45 m ³ /日																						
	最大作業半径 15m を超え 24m 以下 かつ 設置高さ-5m 以上	56 m ³ /日																						
多自然型護岸 工（木杭打工）	① [略]																							
遠心鉄筋コン クリート管（B 型）機械布設	① [略]																							
安定処理工	①・② [略]																							
路盤工	① [略]																							
アスファルト 舗装工	①・② [略]																							
マンホール据 付	① [略]																							
プレキャスト L形側溝	①・② [略]																							
暗渠排水管布 設	①・② [略]																							
路側工（据付 け）	① [略]																							
路側工（取外 し）	① [略]																							
防雪柵設置工	①・② [略]																							
防雪柵現地張 出し・収納工	① [略]																							
橋梁排水管設 置工	① [略]																							
橋梁用高欄	① [略]																							
鋼橋床版工	① [略]																							
地すべり防止 工（集排水ボー リング工）	①・② [略]																							

工																															
型枠工	① [略]																														
コンクリート 継目工（目地、 止水板設置工）	①～③ [略]																														
コンクリート 分水槽据付	① [略]																														
ボックスカル パート	① [略]																														
消波根固めブ ロック工	①～③ [略]																														
捨石工	①捨石工																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>作業名</th><th>[新設]</th><th>作業日当り 標準作業量</th><th>[削る。] (摘 要)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="5">捨石投入</td><td>[新設]</td><td>76m³/日</td><td>[削る。]</td></tr> <tr><td>[新設]</td><td>[新設]</td><td></td></tr> <tr><td>[新設]</td><td>[新設]</td><td></td></tr> <tr><td>[新設]</td><td>[新設]</td><td></td></tr> <tr><td>[新設]</td><td>67m³/日</td><td>[削る。]</td></tr> <tr><td rowspan="3">表面均し</td><td>[新設]</td><td>55m²/日</td><td></td></tr> <tr><td>[新設]</td><td>[新設]</td><td></td></tr> <tr><td>[新設]</td><td>[新設]</td><td></td></tr> </tbody> </table>	作業名	[新設]	作業日当り 標準作業量	[削る。] (摘 要)	捨石投入	[新設]	76m ³ /日	[削る。]	[新設]	[新設]		[新設]	[新設]		[新設]	[新設]		[新設]	67m ³ /日	[削る。]	表面均し	[新設]	55m ² /日		[新設]	[新設]		[新設]	[新設]	
作業名	[新設]	作業日当り 標準作業量	[削る。] (摘 要)																												
捨石投入	[新設]	76m ³ /日	[削る。]																												
	[新設]	[新設]																													
	[新設]	[新設]																													
	[新設]	[新設]																													
	[新設]	67m ³ /日	[削る。]																												
表面均し	[新設]	55m ² /日																													
	[新設]	[新設]																													
	[新設]	[新設]																													
多自然型護岸 工（木杭打工）	① [略]																														
遠心鉄筋コン クリート管（B 型）機械布設	① [略]																														
安定処理工	①・② [略]																														
路盤工	① [略]																														
アスファルト 舗装工	①・② [略]																														
マンホール据 付	① [略]																														
プレキャスト L形側溝	①・② [略]																														
暗渠排水管布 設	①・② [略]																														
路側工（据付 け）	① [略]																														
路側工（取外 し）	① [略]																														
防雪柵設置工	①・② [略]																														
防雪柵現地張 出し・収納工	① [略]																														
橋梁排水管設 置工	① [略]																														
橋梁用高欄	① [略]																														
鋼橋床版工	① [略]																														
地すべり防止 工（集排水ボー リング工）	①・② [略]																														